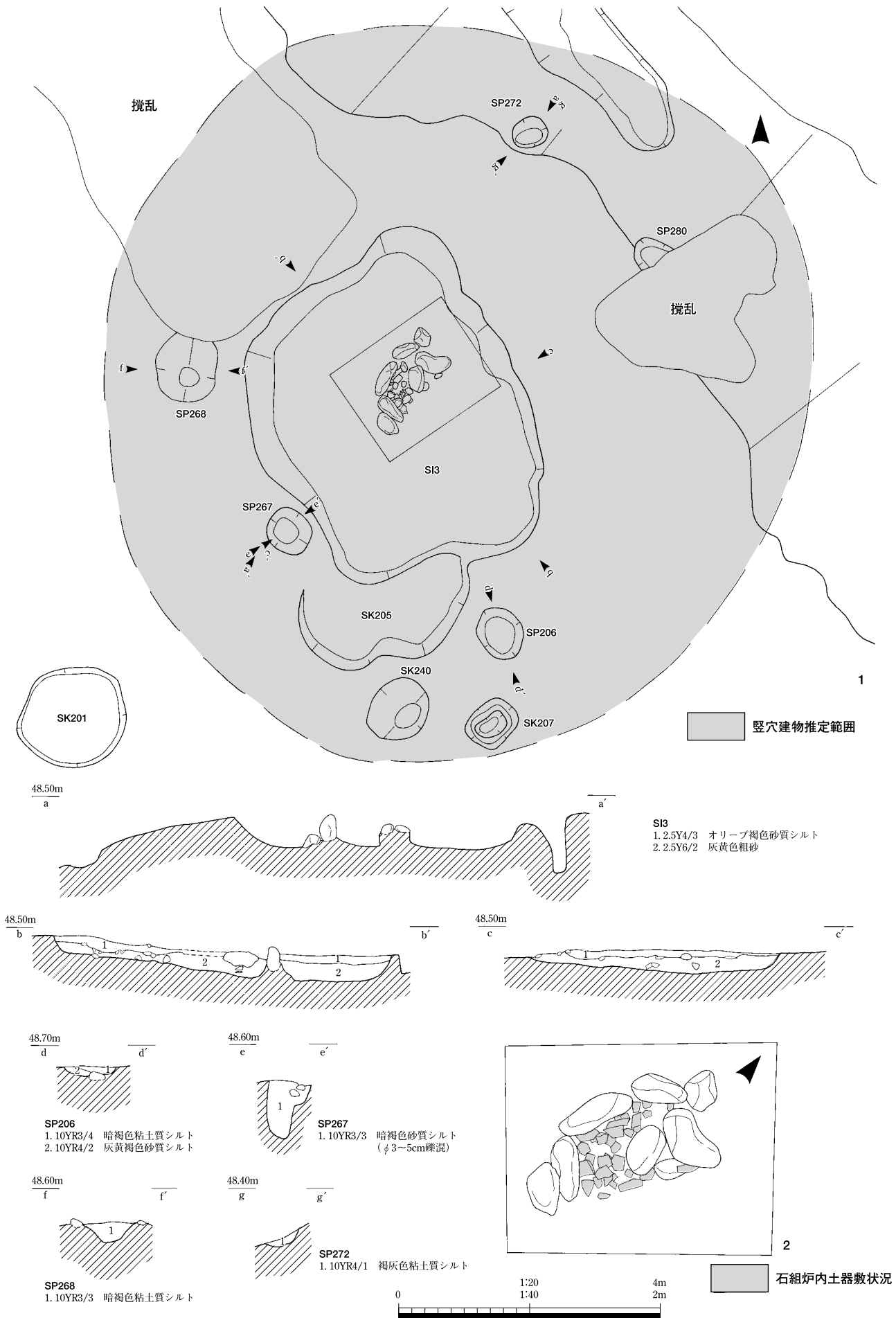
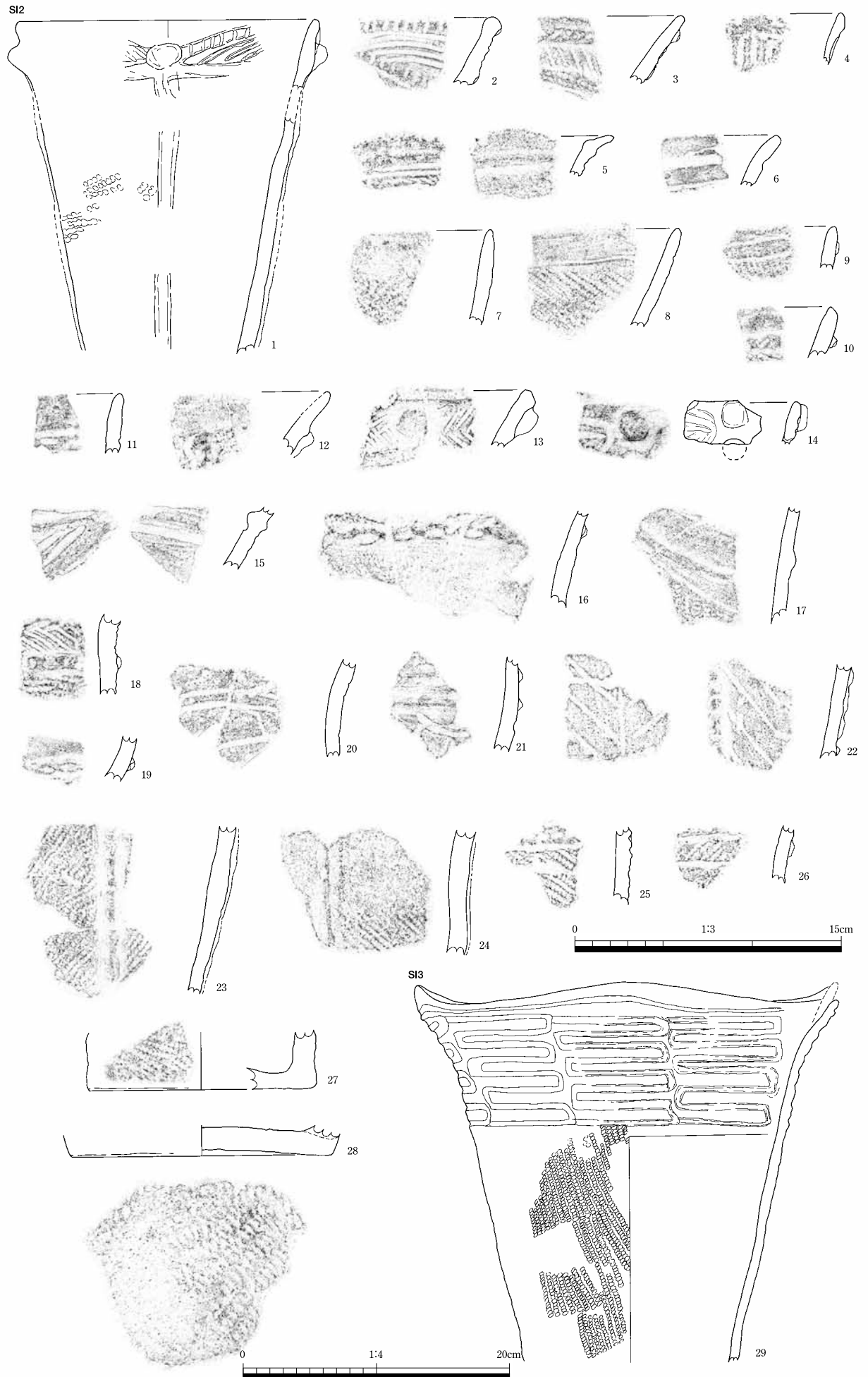


第35図 舌山遺跡 縄文時代遺構実測図
SI2



第36図 舌山遺跡 縄文時代遺構実測図
1. SI3 2. SI3石組炉

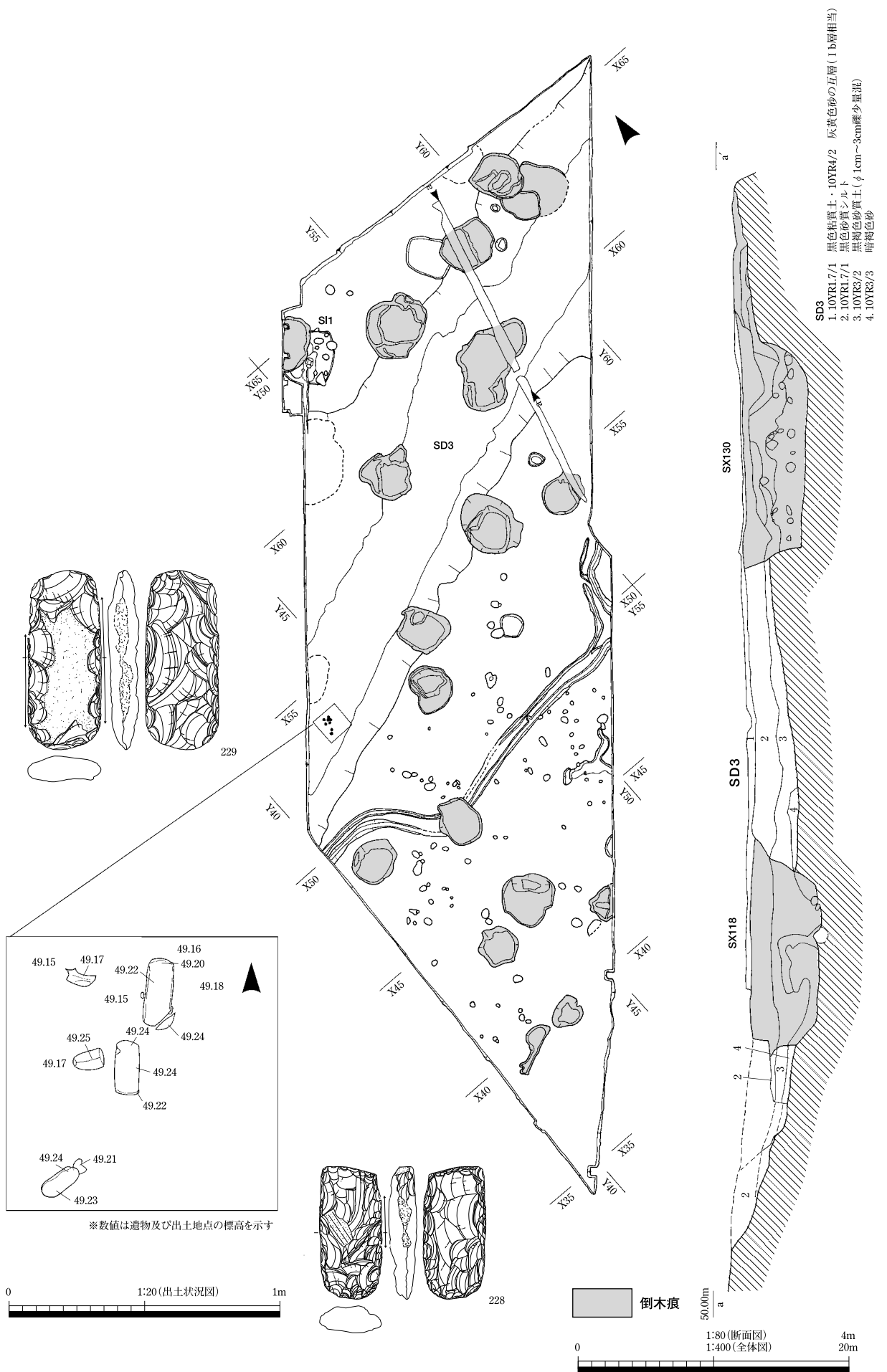


第37図 舌山遺跡 縄文時代遺物実測図 (1~28 1/3, 29 1/4)
 SI2(1~28) SI3(29)

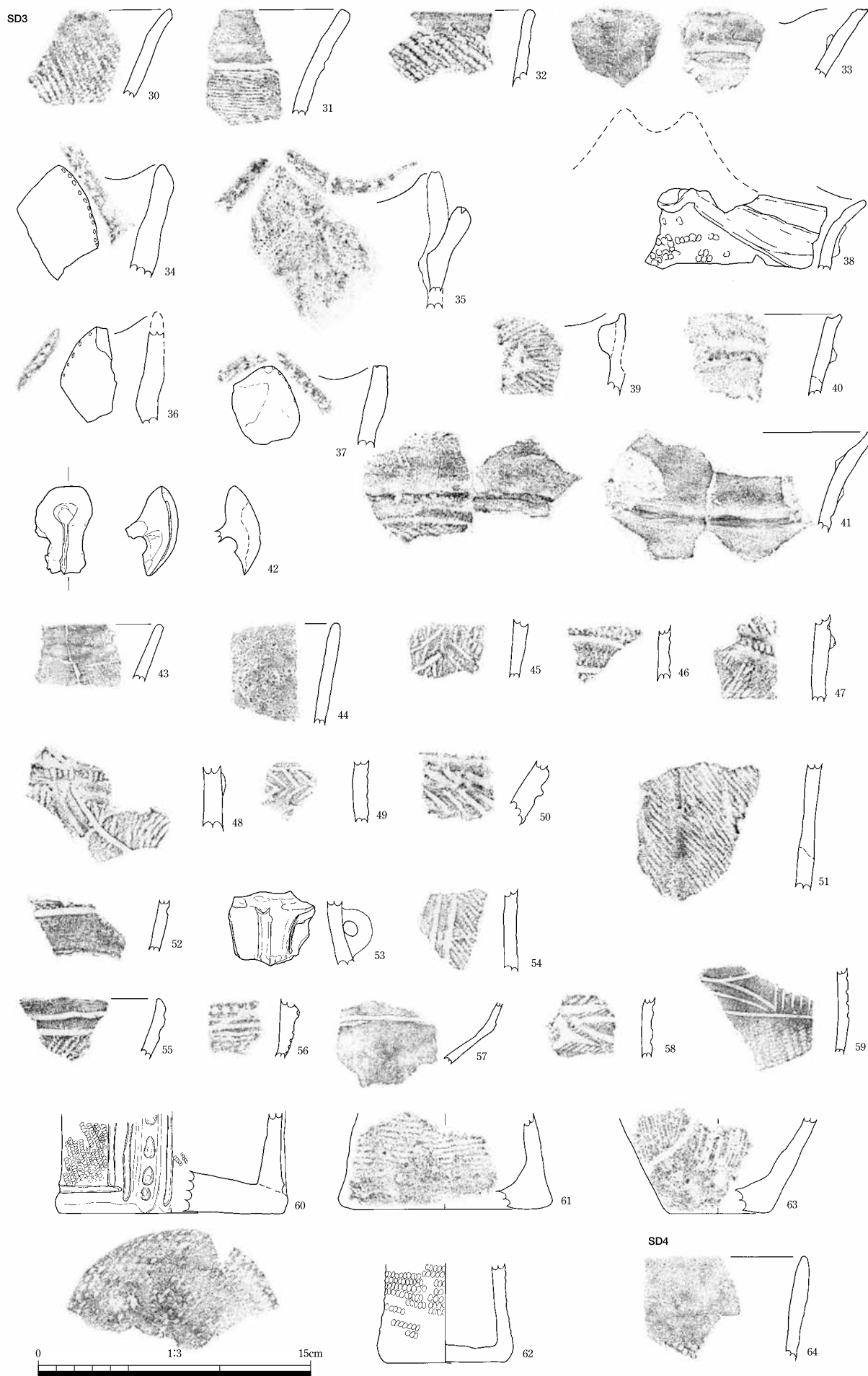
褐色砂質土を基調とする。S X118・S X130等の倒木痕に切られている。南西側肩付近の底面から全長26cmを超える大型の打製石斧の他数点の石器がまとまって出土している。出土遺物は、縄文土器(30～63)、打製石斧(225～236)、磨製石斧(248～252)、石鏃(253)、敲石(257)、砥石(258)がある。土器は縄文時代中期後葉から後期後葉にかけてのものがあるが、埋土内で層位的には分れない。31は横位の沈線で区画し、横位の縄文を施文する。34～37は双頭波状口縁の深鉢で、口縁端部に刺突文を施す。39は波状口縁深鉢の頂部。40は隆帯上に縄文を転がす。7・8は深鉢口縁部で、横位の沈線と縄文を施す。42は口縁部突起。45は葉脈状文。47は隆帯と連続刻み、隆帯の下位は縄文を施文する。48は横位の隆帯と連続刻み、縄文を施文下後に弧状の沈線を隆帯から垂下する。49は綾杉文。50は平行隆帯に斜めの短い沈線を引く。52は縄文施文後に横位の沈線を引き、下位は磨り消す。赤彩を施す。53は橋状把手。鏝付土器か。54は縦位の2条の沈線と縄文。56は隆帯と連続刻み、横位の沈線と細かい刺突文。57は浅鉢。58は縄文を施した後、沈線により三叉文を施す。59は縄文施文後、磨り消して横位および弧状の沈線文。58・59は後期後葉(八日市新保式)のものか。225～236は打製石斧で、側辺がほぼ平行する短冊形のもの。229は長さ26.08cmの大型品。226は両側辺に着柄によると思われるつぶしがみられる。235は磨製石斧未成品の可能性ある。石材は12点中6点が蛇紋岩(透閃石岩)である。248～252は磨製石斧で、251は磨製石斧の未成品である。253は瑪瑙製の石鏃。無茎で、基部の扱りは弱く、側辺がやや膨らむ形状のもの。257は花崗岩製の敲石。258は砂岩製の砥石で、折れ面を除いて3面が砥面として機能している。出土遺物の時期は中期後葉(串田新Ⅱ式)を主体とする。後期後葉のものが最も新しい遺物であることから、SD3は後期後葉には殆ど水流はなく、ほぼ埋まっていたと考えられる。

232号流路(SD232, 第40～42図, 図版26・28)

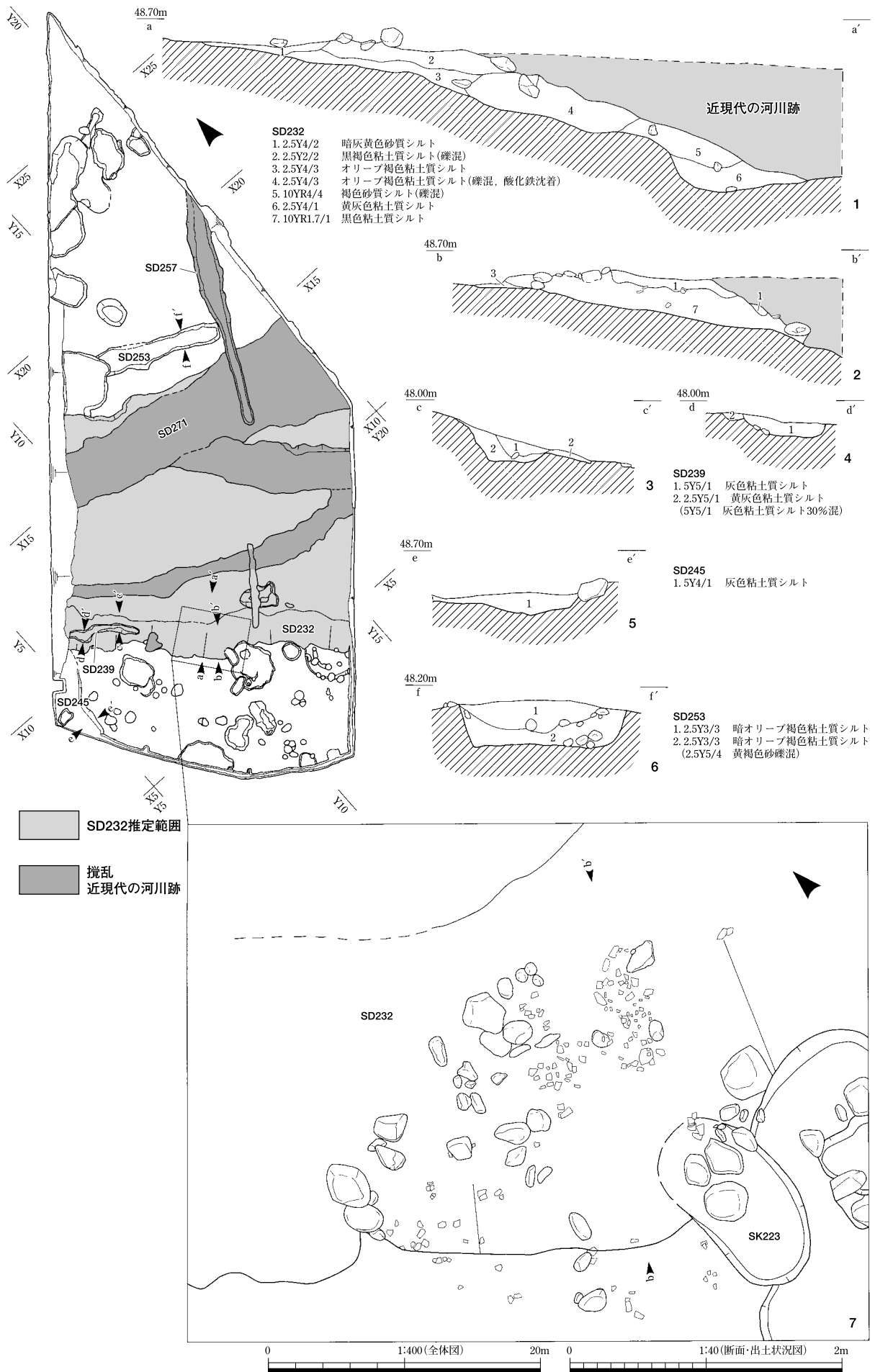
A2地区南半に位置する自然流路。北側に向かい低くなる谷状地形で、近現代の河川跡に削平されているが、南岸の落ち際を確認した。北岸については、近現代の攪乱及びほ場整備の削平等により明確ではないが、SK254の南側からSD271としている近現代の河川の北東側立ち上がりをつぶように若干の段差があり、このラインを北岸と想定した。南岸の落ち際の埋土は、礫混じりの黒褐色粘土質シルト、オリーブ褐色粘土質シルト、褐色砂質シルト、黄灰色粘土質シルトからなり、一部に酸化鉄の沈着がみられる。南岸落ち際の中央付近には黒色粘土質シルトが部分的に堆積しており、この中から多量の遺物が出土している。黒色粘土質シルトは落ち際の傾斜に沿って堆積しており、出土遺物の時期から縄文時代中期後葉には、流路が形成されていたと考える。出土遺物には縄文土器(65～135)、剥片、石核がある。65は波状口縁の深鉢で、隆帯間に楕円形の刺突を施す。内面は口縁に2条の沈線が巡る。68は隆帯間を斜めの短い沈線で充填する。70は綾杉文。73は隆帯上に半截竹管による連続刻みを施し、横位の沈線2条を巡らす。内面に1条の沈線。75は半截竹管状の工具による連続した刺突。77は横位の隆帯から縦位の隆帯が垂下し、その周りを刺突で充填する。79は隆帯下は横位の縄文を施文。83は隆帯区画内に沈線文。84は隆帯上に楕円形の刺突、隆帯下に斜めの短い沈線を引く。88は沈線間に刺突を施す。89は工字状風の楕円形区画と円形の刺突。90は櫛描文。92・93は同一個体で、縦位の放射状隆帯の一部がC字状になる。隆帯貼り付け後に、斜縄文を施文しており、隆帯上にも縄文の施文がみられる。94は3条の平行沈線の下に縦位の縄文を施文しており、後期前葉(気屋式)のものか。95は深鉢底部で、底部の縁に僅かだが網代圧痕が残る。98は網代圧痕の残る鉢底部で、2種類の異なる編み目がみられ、中央部の筋状の痕跡は笹の葉によるとみられる^{注3}。99～135はSD232南岸中央部の黒色粘土質シルト出土のものである。99は櫛描文の深鉢。112は斜縄文の



第38図 舌山遺跡 縄文時代遺構実測図
SD3

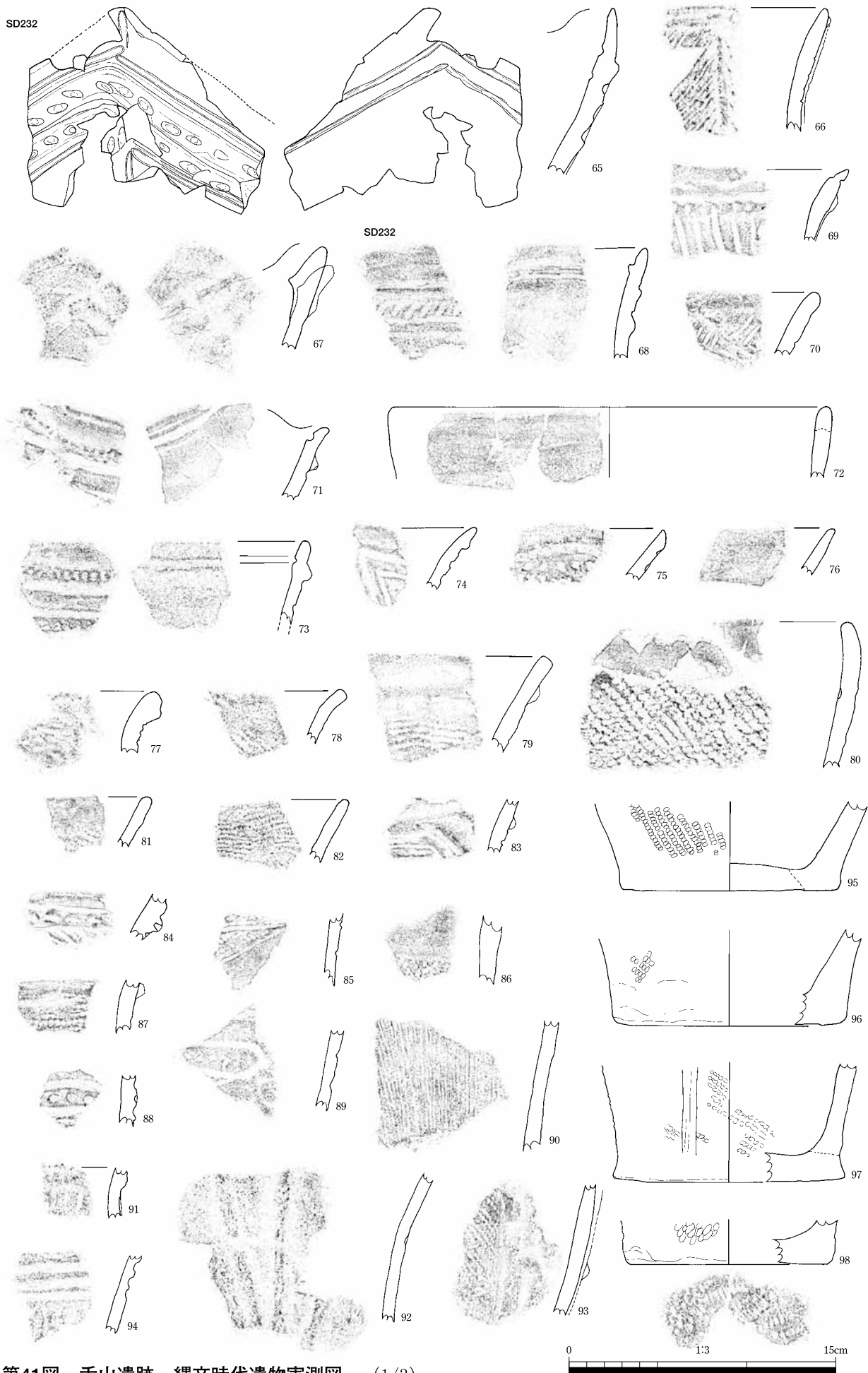


第39図 舌山遺跡 縄文時代遺物実測図 (1/3)
SD3 (30~63) SD4 (64)



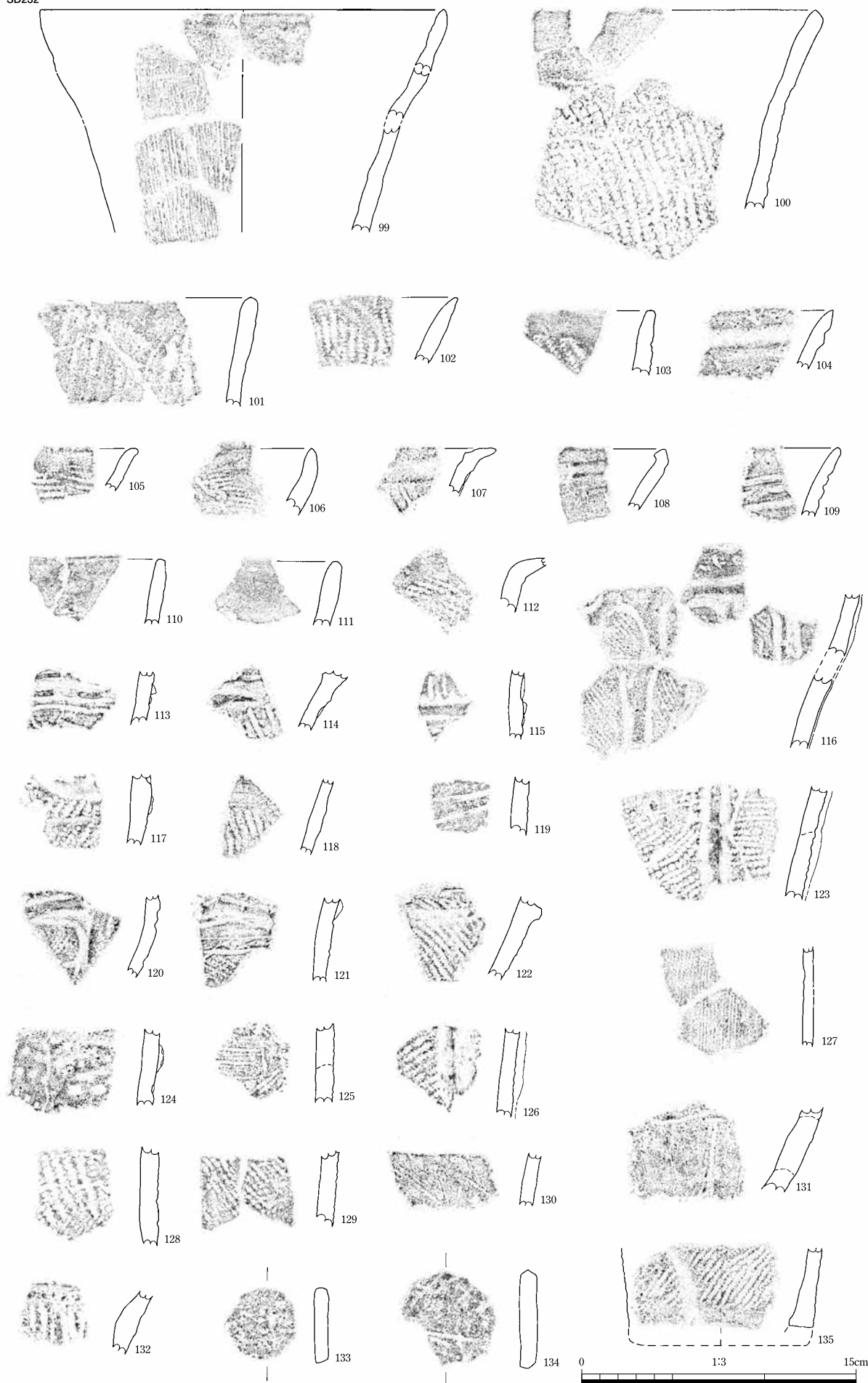
第40図 舌山遺跡 縄文時代遺構実測図

1・2. SD232 3・4. SD239 5. SD245 6. SD253 7. SD232遺物出土状況図



第41図 舌山遺跡 縄文時代遺物実測図 (1/3)
SD232 (65~98)

SD232



第42図 舌山遺跡 縄文時代遺物実測図 (1/3)
SD232 (99~135)

鉢で、口縁部が強く外側へ屈曲する。114は隆帯下に縦位の短い沈線を引く。隆帯の幅が一部幅広になることから波状口縁の可能性はある。116は楕円形または逆U字状の区画縄文帯と素文部で構成され、中期後葉の大木9式系の文様構成をもつ。118は無節の斜縄文。120は隆帯区画内に楕円形沈線を施し、楕円形内を縄文で充填する。122は隆帯上にも縄文を施文する。123・126は斜縄文地に縦の隆帯。127は櫛描文。132は表面の摩耗が激しく、不明瞭だが、蓮華状文と思われる。中期中葉頃のものか。133・134は土器片の周囲を打ち欠き、円形にした円盤状土製品。出土遺物の時期は、後期前葉のものを若干含むが、中期後葉（串田新Ⅱ式）を主体とする。

239号溝（S D239, 第40図）

A 2 地区南西角付近に位置する。近現代の河川の下で検出しており、S D232南岸落ち際の傾斜面に東西方向にのびる。幅0.81m、深さ0.21mを測り、埋土は黄灰色粘土質シルトを基調とする。出土遺物は縄文土器があり、縄文時代の溝と考える。

245号流路（S D245, 第40図）

A 2 地区南西角に位置する。調査区外にのびるため、部分的な検出である。東岸に河原石の石列が認められる。深さは0.14mを測り、埋土は灰色粘土質シルトである。縄文土器が出土しているが、時期は不明である。

253号溝（S D253, 第40図）

A 2 地区北半に位置する東西方向の溝。I b 層直下で検出しており、出土遺物もないので、帰属時期は不明である。幅1.36m、深さ0.25mを測る。埋土は暗オリーブ色粘土質シルト、黄褐色砂礫混じりの暗オリーブ色粘土質シルトで、断面は逆台形を呈する。

C 土坑

15号土坑（S K15, 第43図）

A 1 地区南半に位置する。長さ0.63m、幅0.58m、深さ0.17mを測る円形土坑である。埋土は黒褐色砂質シルト、オリーブ褐色砂質シルトである。出土遺物は縄文土器があり、遺物の時期は中期後葉頃のものと考えられる。

55号土坑（S K55, 第43図）

A 1 地区南端付近に位置する円形土坑。長さ0.50m、幅0.38m、深さ0.19mを測る。埋土は黒色砂質シルト、黒褐色砂質シルト、暗褐色砂質土の3層に分かれ、底面に河原石が2個ある。出土遺物は縄文土器があり、中期後葉頃のものか。

63号土坑（S K63, 第43図）

A 1 地区南半にあり、S K15の北東2mに位置する。長さ0.50m、幅0.40mの円形土坑で、深さ0.08mの浅い皿状を呈する。埋土は暗褐色粘土質シルト、にぶい黄橙色砂質シルトである。南端から打製石斧が立ったような状態で出土している。

207号土坑（S K207, 第43図）

A 2 地区南西側、S D232の落ち際に位置する。長軸0.40m、短軸0.32mの楕円形土坑で、深さは0.14mを測る。埋土は褐色砂質シルトの単層。埋土から縄文土器が出土している。S I 3の想定範囲内に位置しているが、建物との関係は不明である。

209号土坑（S K209, 第44・45図, 図版29）

A 2 地区南半、S D232の落ち際に位置する。長軸1.52m、短軸0.74m、深さ0.14mを測る楕円形土坑で、S K233を切る。埋土は黄灰色砂質シルト、礫混じりの褐色砂質シルトである。埋土から

縄文土器(136)が出土している。136は斜縄文の鉢胴部。

218号土坑 (S K 218, 第43・45図, 図版29)

A 2 地区南東角付近に位置する。長さ0.61m, 幅0.57m, 深さ0.12mを測る円形土坑で, S K 219・S K 220を切る。埋土は炭化物混じりの灰黄褐色砂質シルトの単層で, 出土遺物は縄文土器(137)がある。137は小片だが, おそらく隆帯区画内に斜めの短い沈線が引かれるもので, 中期後葉(串田新II式)のものと思われる。

220号土坑 (S K 220, 第43図)

A 2 地区南東角付近に位置する。S K 218・S K 219に切られており, 部分的な検出である。埋土は褐色砂質シルト混じりの黒褐色粘土質シルトの単層。出土遺物は縄文土器がある。

221号土坑 (S K 221, 第43・49図, 図版34)

A 2 地区南半中央に位置する。長軸0.80m, 短軸0.59m, 深さ0.06mの楕円形土坑である。埋土は礫混じりのオリーブ褐色粘土質シルトの単層で, 打製石斧(237)が出土している。237は基部と側辺を中心に研磨されており, 磨製石斧未成品の可能性もある。蛇紋岩(透閃石岩)製。

222号土坑 (S K 222, 第43・45・50図, 図版25・29・34)

A 2 地区南半に位置し, S K 235の東側に隣接する。長軸2.72m, 短軸1.15m, 深さ0.24mを測る楕円形土坑である。埋土はにぶい黄褐色粘土質シルト, 礫混じりの黒褐色粘土質シルト, オリーブ褐色粘土質シルト混じりの黒褐色粘土質シルトの3層に分かれ, 中位～下位にかけて縄文土器(138～150)が多量に出土する。138は沈線区画内を縄文施文後にナゲ消し, 貝殻による押圧施文。139は波状口縁深鉢。隆帯上に連続刻み, 沈線により楕円形に区画し, 区画内を刺突で充填する。内面に1条の沈線が巡る。140・141は波状口縁深鉢。隆帯上を刻み, 内面に1条の沈線を巡らす。145は沈線区画内に縦位の短い沈線を施す。146・147は葉脈状文。基線の隆帯上には円形の刺突を施す。147の底部には丸みを帯びた蔓状のものを素材とする網代圧痕が残る。土器の大半は小破片であるが, 串田新I・II式のものに比定できよう。ほかに砥石(256), 剥片が出土している。256は砂岩製の砥石。

223号土坑 (S K 223, 第44・45・49図, 図版29・34)

A 2 地区南半中央, S D 232の落ち際に位置する。長軸1.43m, 短軸0.73m, 深さ0.07mを測る楕円形土坑で, S K 233を切る。埋土は礫混じりの黒色粘土質シルト, 黄褐色砂混じりの黒褐色粘土質シルトである。出土遺物は縄文土器(151～153), 打製石斧(238)があり, 底面から若干浮いた状態で出土する。151は隆帯の巡る鉢口縁で, 被熱している。152は隆帯区画内に綾杉文の鉢で, 中期後葉(串田新II式)のもの。238は側辺が直線的に若干広がる短冊形の打製石斧。流紋岩製。

228号土坑 (S K 228, 第43図)

A 2 地区南東角付近に位置する。長さ0.35m, 幅0.32m, 深さ0.08mの円形土坑である。埋土は褐色粘土質シルトの単層で, 縄文土器が出土している。

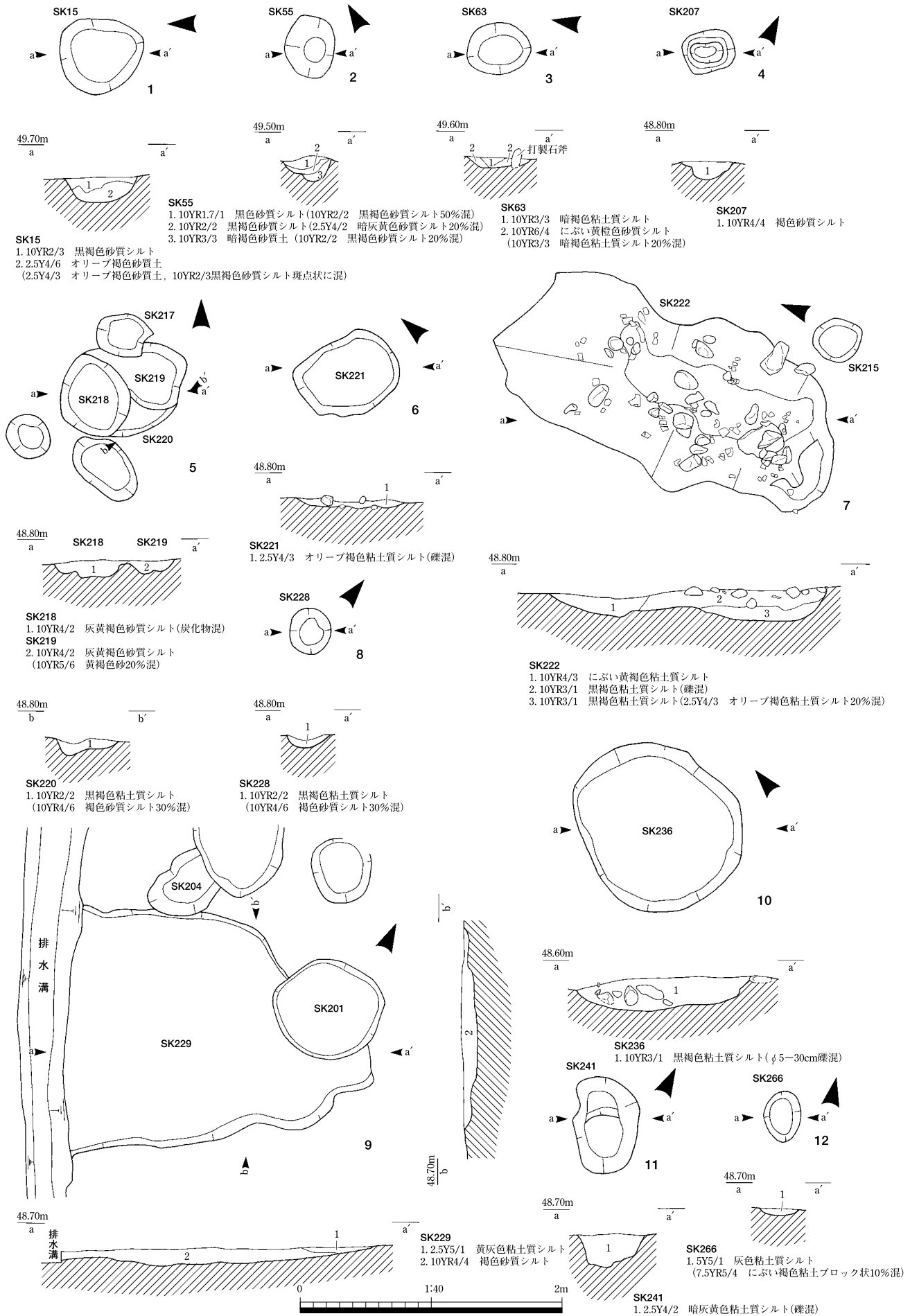
229号土坑 (S K 229, 第43図)

A 2 地区南西角付近, S I 3の南側に位置する。調査区外南側にのびており, 長さ2.32m以上, 幅1.78m, 深さ0.12mを測る不整形土坑で, 底面は平坦である。北端をS K 201に切られる。埋土は褐色砂質シルトを基調とする。出土遺物は縄文土器がある。

230号土坑 (S K 230, 第44・45・49図, 図版29・34)

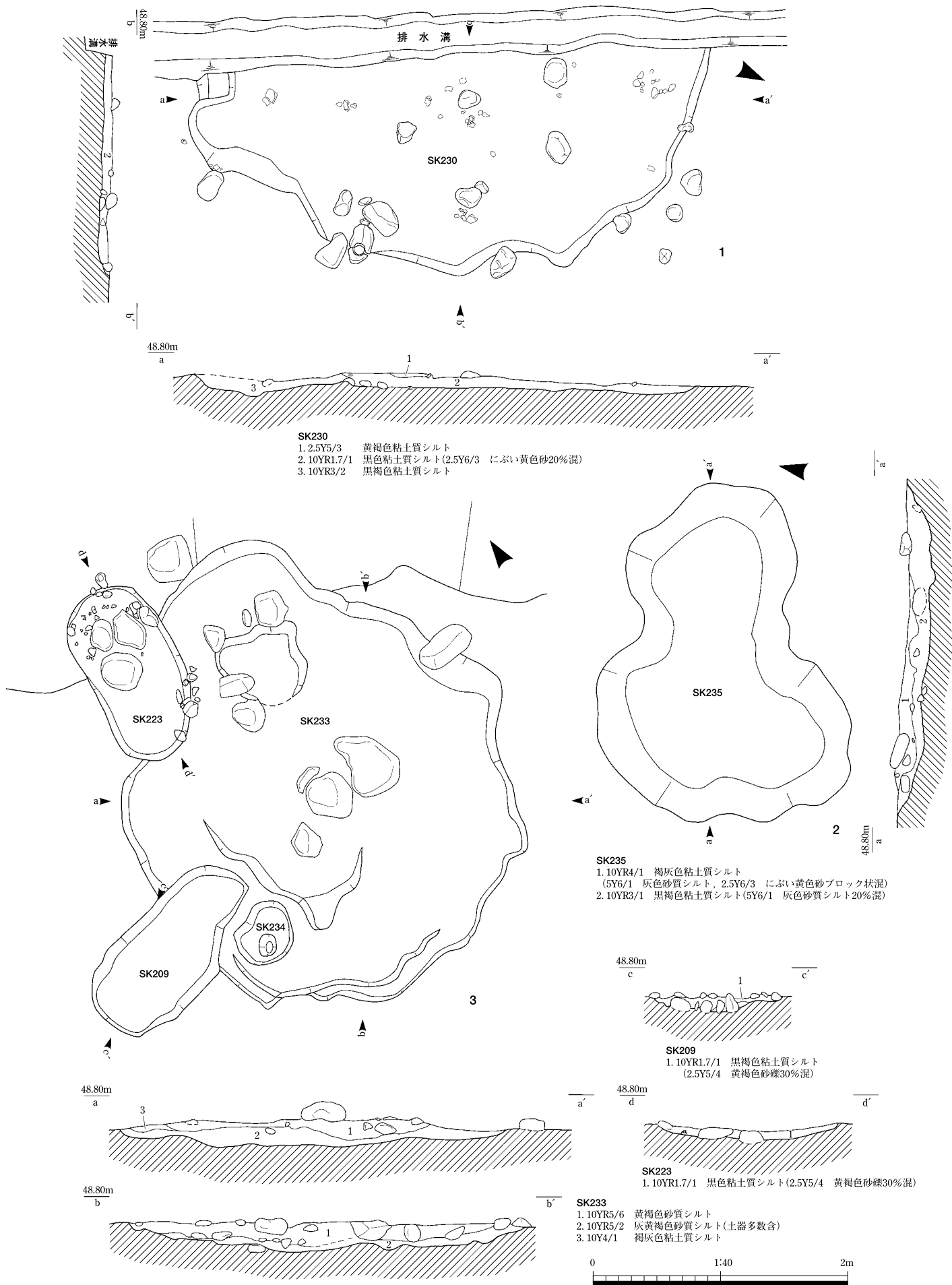
A 2 地区南半中央に位置し, 調査区外南側にのびる。長さ3.92m, 幅1.75m以上, 深さ0.10mを測る円形を呈すと考えられる土坑である。埋土はにぶい黄色砂礫混じりの黒色粘土質シルトを基調と

3 遺構・遺物



第43図 舌山遺跡 縄文時代遺構実測図

1. SK15 2. SK55 3. SK63 4. SK207 5. SK218~SK220 6. SK221 7. SK222 8. SK228 9. SK229
10. SK236 11. SK241 12. SK266



第44図 舌山遺跡 縄文時代遺構実測図
1. SK230 2. SK235 3. SK209・SK223・SK233

し、縄文土器(154～166)、打製石斧(240)等の遺物を含む。底面はほぼ平坦である。柱穴、炉等の施設は確認していないが、堅穴建物の可能性がある。155は半截竹管による半隆起線に、つまんだような貼り付けがある。口縁内面に三叉文を有するとみられる。中期中葉(古府式)のものか。157・158は綾杉文。159は隆帯区画内に縦位の短沈線。隆帯上に刻みを施す。162は縄文を押圧した横位の隆帯から縦位の隆帯が垂下する。164・165は鉢底部で、底部外面に網代圧痕が残る。166は櫛描文の浅鉢。底部外面はナデ。概ね中期後葉(串田新Ⅱ式)に比定できよう。240は短冊形の打製石斧。長さ8.45cmを測り、舌山遺跡出土の打製石斧の中では最も小ぶりなもの。流紋岩製。

233号土坑(S K 233, 第44・46図, 図版30)

A 2 地区南半中央付近, S I 2 の西側にある。S D 232 の落ち際にかかり, S K 209, S K 223 に切られる。長さ3.65m, 幅3.07m, 深さ0.20mの不整形土坑である。埋土は暗灰黄色砂質シルトを基調とし、縄文土器(170～178)を含む。埋土の上位はI b層相当と考えられにぶい黄橙色粘土ブロック混じりの黄褐色砂礫層が覆っており、ほ場整備等による削平・盛土の影響を受けている。底面は平坦で、南端で部分的に周溝状の段差を検出しており、堅穴建物の可能性が考えられる。171・172は無文の深鉢で、口縁端部を面取りする。172は口縁外面に縞状にススが付着する。173は縄文施文後に縦位の隆帯を貼り付ける。176は隆帯区画内に縦位の短い沈線を引く。177は隆帯の間隔が部分的に広くなり、波状口縁深鉢の可能性もある。178は沈線でおそらく楕円形に区画する。出土土器は概ね中期後葉(串田新Ⅱ式)に比定される。

235号土坑(S K 235, 第44・45図, 図版29)

A 2 地区南半, S K 222 の南西側に近接する。長さ2.60m, 幅1.80m, 深さ0.20mの不整形土坑。埋土は灰色砂質シルト混じりの黒褐色粘土質シルトを基調とする。出土遺物は縄文土器(167)がある。

236号土坑(S K 236, 第43・46図, 図版30)

A 2 地区南半, S D 232 の落ち際に位置し, S I 2 の西側に隣接する。長さ1.25m, 幅1.22m, 深さ0.25mを測る円形土坑。埋土は礫混じりの黒褐色粘土質シルトである。出土遺物は縄文土器(180～195)、剥片、砥石がある。180・181は斜縄文の深鉢で、口縁部はナデ。183は隆帯上に縄文を施文する。184・185は無文の鉢で、184は口縁外面にススが付着する。187は口縁部が外反する鉢で、沈線区画内に半截竹管状の工具による刺突を施す。後期前葉(岩嶺野式)のものか。189は包含層出土の201と同一個体と考えられる双頭波状口縁鉢。口縁内面に隆帯を巡らす。中期後葉(串田新Ⅱ式)のもの。190は櫛描文の深鉢。191は縄文施文後に隆帯を貼り付け、楕円形の刺突を施す。192は横位の沈線以下に縄文を施文する。194は深鉢底部で、網代圧痕が残る。出土遺物の時期は中期後葉(串田新Ⅱ式)を主体とする。

241号土坑(S K 241, 第43・49図, 図版34)

A 2 地区南半中央付近, S K 230 の北側に位置する。長軸0.74m, 短軸0.50m, 深さ0.24mの楕円形土坑で、北西側が一段深くなる。埋土は礫混じりの暗灰黄色粘土質シルトの単層。出土遺物は縄文土器、打製石斧(239)がある。239は側辺がやや内湾気味に広がる撥形を呈する。緑色凝灰岩製。

242号土坑(S K 242, 第45図, 図版29)

A 2 地区南半中央付近, S K 233 の北側2m程に位置する。S D 232 の南側落ち際に位置し、上部は近現代の河川跡に削平されており、底部を検出した。長さ2.81m, 幅1.60m, 深さ0.29mを測る不整形土坑である。埋土は暗灰黄色粘土質シルト、黄灰色粘土質シルト、灰色粘土質シルトが堆積する。埋土下位の灰色粘質シルトから縄文土器(168・169)が出土している。169は深鉢底部で、網代圧

痕は底部外周にわずかに認められ、大半は撫で消されている。

258号土坑（S K 258, 第46図, 図版30）

A 2 地区北西角付近に位置する不整形土坑で、調査区外西側にのびる。長さ7.20m以上、幅2.15m、深さ0.30mを測り、S K 256・S K 262を切る。埋土は黄灰色粘質土を基調とする。昭和9年の黒部川大洪水の所産と考えられるI b層下で検出しており、埋土から縄文土器(179)が出土しているが、混入の可能性が高く、性格・時期ともに不明である。179は縄文施文後に隆帯を貼り付ける。隆帯上にも縄文を施文する。中期後葉頃のものか。

266号土坑（S K 266, 第43図）

A 2 地区南東側、S I 2の南端に位置する。長軸0.38m、短軸0.29m、深さ0.05mの楕円形土坑で、S I 2を切る。埋土はにぶい褐色粘土がブロック状に混じる灰色粘土質シルトである。出土遺物は縄文土器がある。

D 倒木痕

A 1 地区では19箇所、倒木痕を確認した。出土遺物はほとんどないが、S I 1やS D 3との重複関係から、倒木はS I 1・S D 3よりも新しい時期のもので、縄文時代後期後半以降に倒れ込んだものと考えられる。

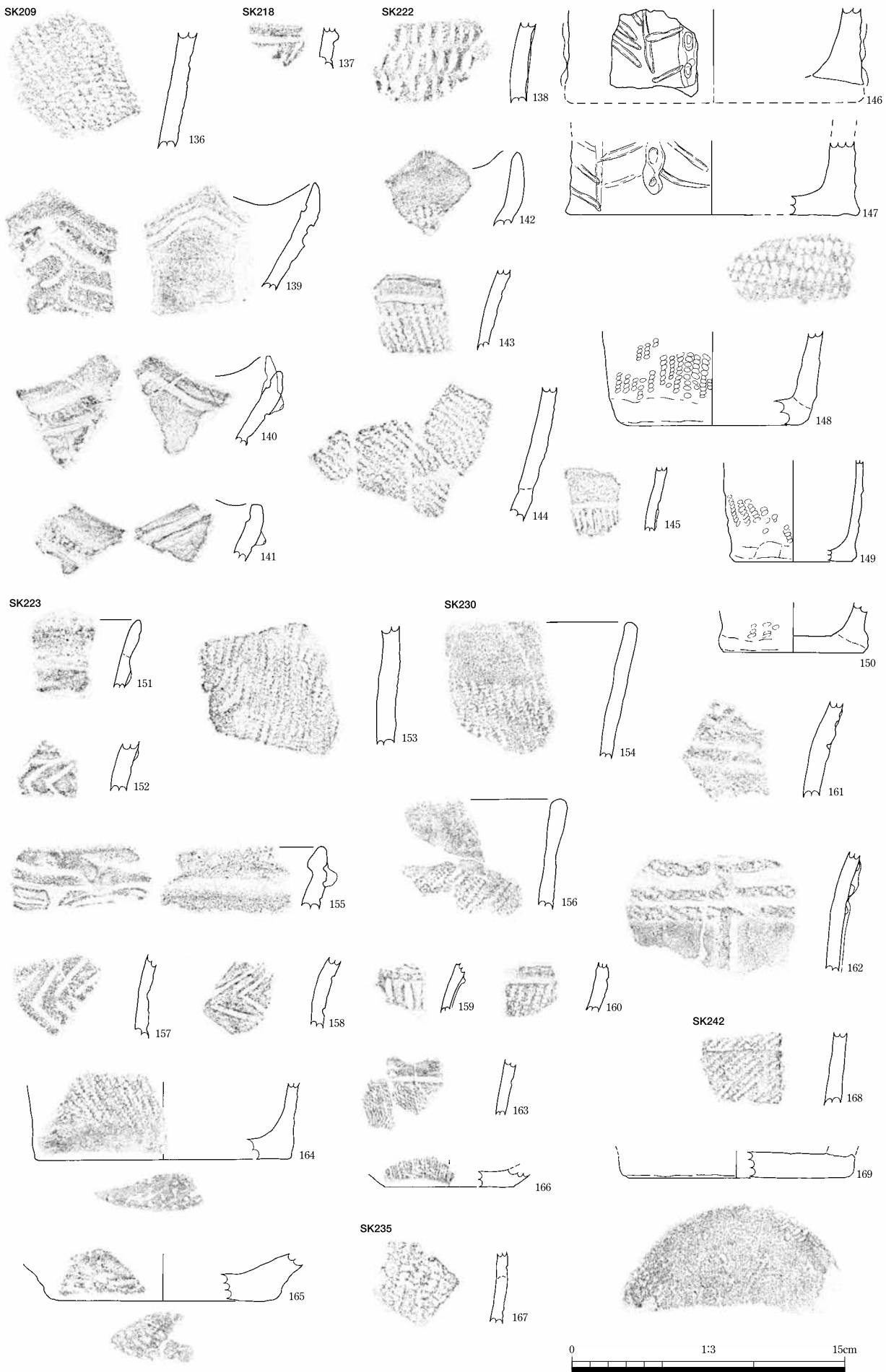
E 包含層出土遺物

土器（第47図, 図版31）

後世の削平等により遺物包含層の依存状態が悪く、包含層出土遺物は少ない。このため、特徴的な文様をもつもの、器種ならびに部位を特定できるものを中心に図化した。遺物の時期は中期後葉（串田新Ⅱ式）を主体とし、後期前葉（気屋式）のものを若干含んでいる。196は無文の鉢で、口縁部は屈曲して短く直立する。この屈曲した口縁部にタール状のススが帯状に付着する。197は隆帯上に貝殻復縁で施文する。隆帯間は沈線で楕円形に区画し、区画内に刺突を施す。198は隆帯区画内に楕円形刺突と縦位の短沈線を施す。口縁内面にも隆帯を巡らす。199は隆帯上をヘラ状工具で刻む。201はS K 236出土の189と同一個体と考えられる双頭波状口縁の鉢。頂部を押さえて双頭にした箇所に径約1cmの孔があく。孔を挟み、沈線で楕円形状の文様を引く。202は隆帯区画内に縦位の短沈線を引き、口縁内面に隆帯を巡らす。波状口縁か。204・205は斜縄文の鉢で、口縁部はナデ。205は補修孔とみられる径1cm程の孔がある。207は沈線による楕円形区画をもつ。210・211は縄文施文後に縦位の隆帯を貼り付ける。212は外面にタール状のススが付着する。隆帯上に楕円形の刺突を施す。213は葉脈状文。214は表面の摩耗が激しく、文様は不鮮明だが、縦位の隆帯に刺突が施される。217は縦2条の沈線間に円形の刺突を施し、底部に横位の沈線を1条巡らす。概ね中期後葉（串田新Ⅱ式）の範疇に収まるものであろう。220は口縁部に平行沈線が巡る。222は複数の沈線による三角形文。223は沈線による渦巻き文か。222・223は後期前葉の堀之内式系の文様構成をもつ。224は羽状縄文。220～224は後期前葉頃のものか。

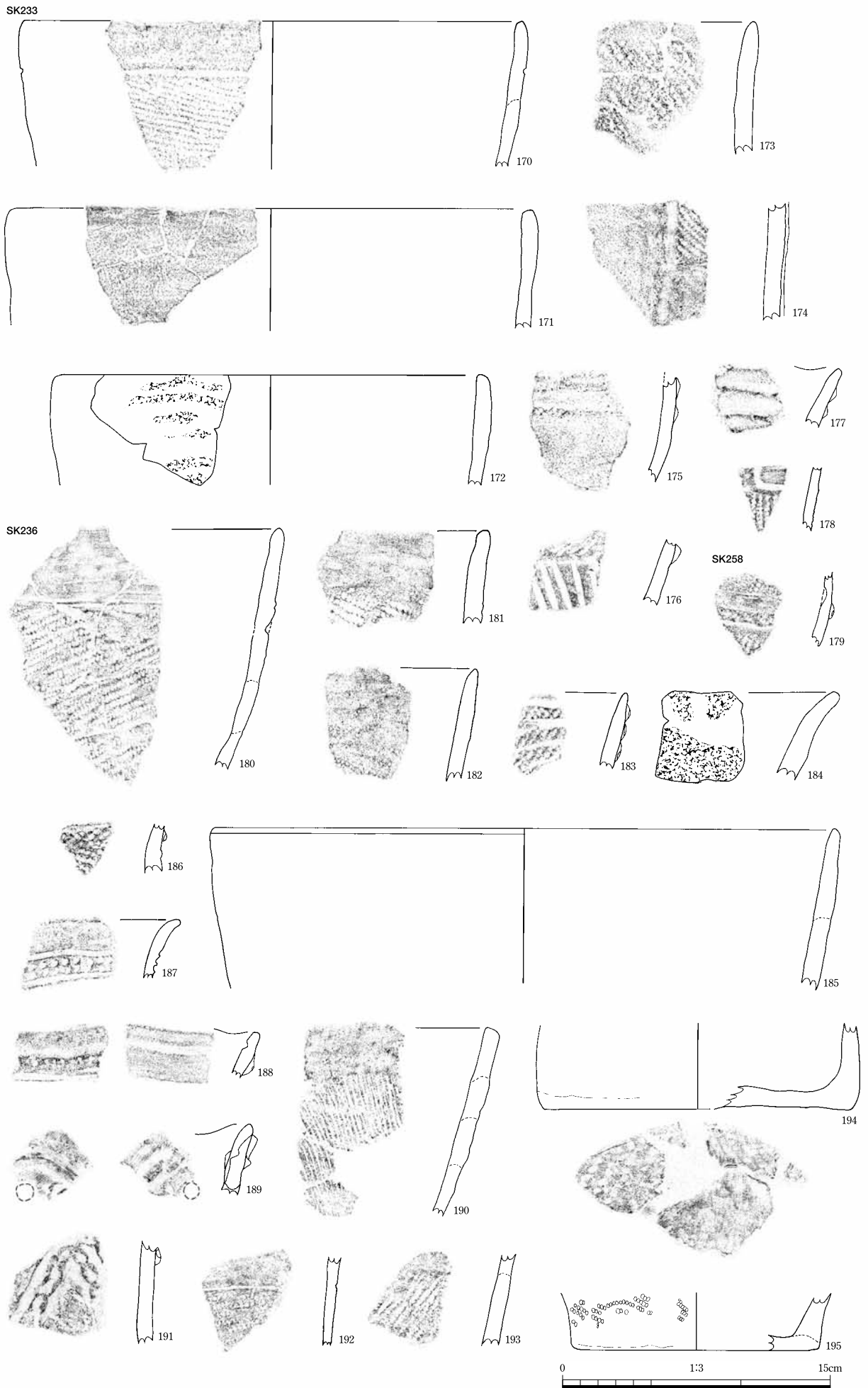
石製品（第49・50図, 図版34・36）

打製石斧(241～247)、砥石(259～261)、勾玉(262)がある。打製石斧は側辺が直線的に若干広がる短冊形を呈し、一部欠損するものもあるが、長さは10cm前後の比較的小型のもの。244は表面と側面の一部に研磨痕が認められる。流紋岩製。259・261は砂岩製で、砥石または石皿の一部である。いずれも表裏2面を砥面とする。262はC字状の石製品で、断面楕円形に整形され、稜をもつ。頭部は欠損しているが、勾玉か。表面の風化が激しく白く粉をふいたような状況を呈する。凝灰岩製。



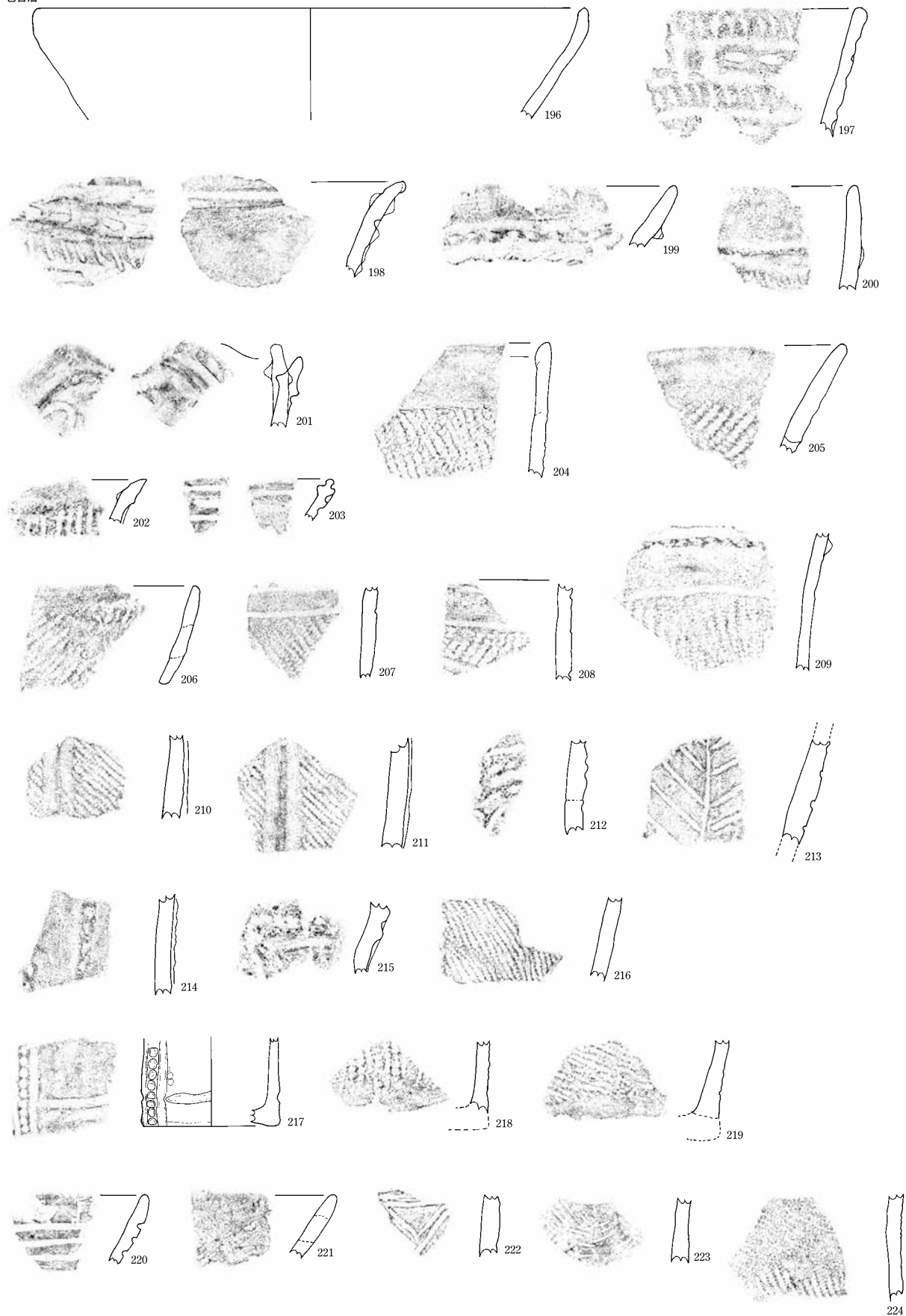
第45図 舌山遺跡 縄文時代遺物実測図 (1/3)

SK209(136) SK218(137) SK222(138~150) SK223(151~153) SK230(154~166) SK235(167)
SK242(168~169)



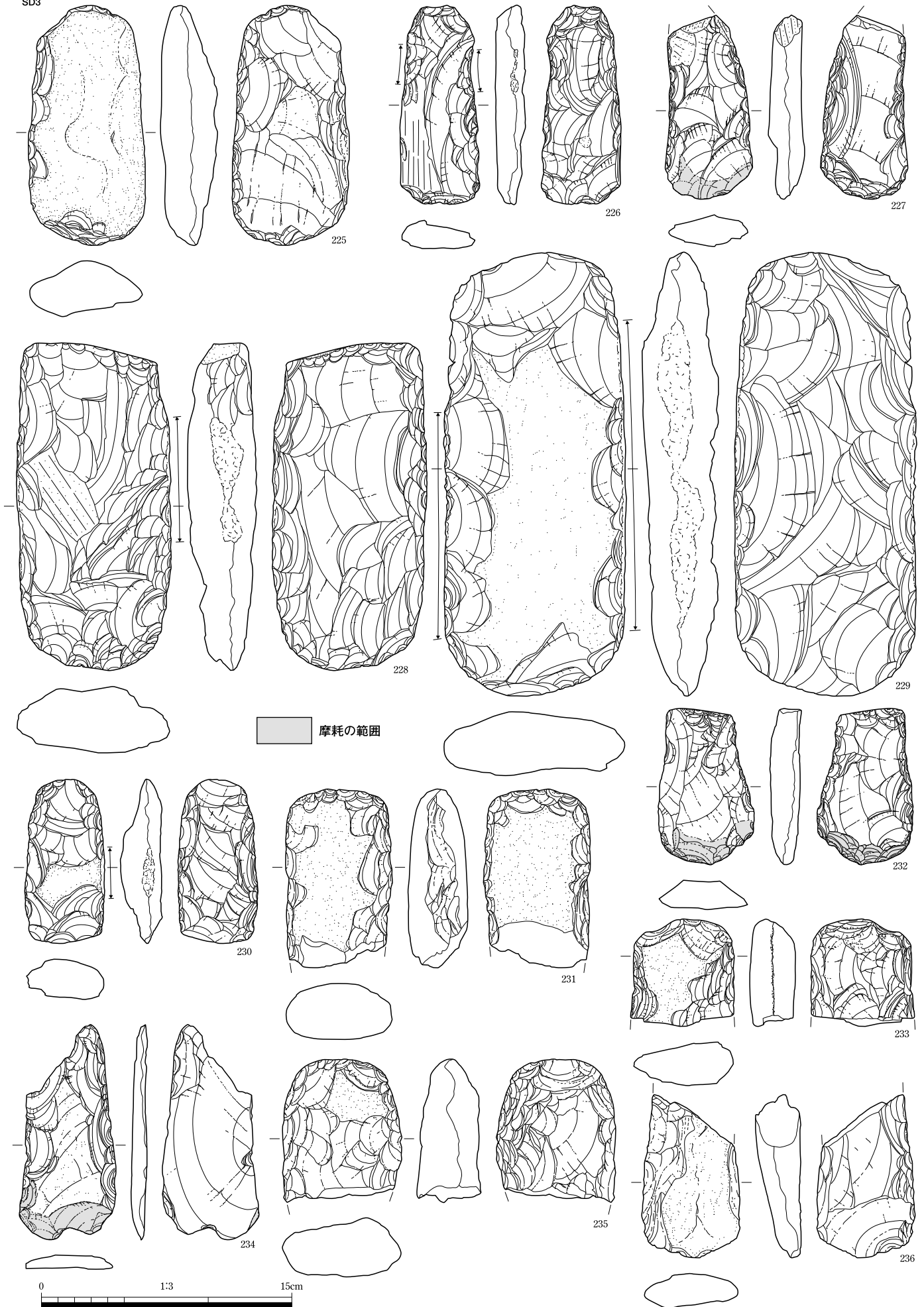
第46図 舌山遺跡 縄文時代遺物実測図 (1/3)
 SK233(170~178) SK236(180~195) SK258(179)

包含層

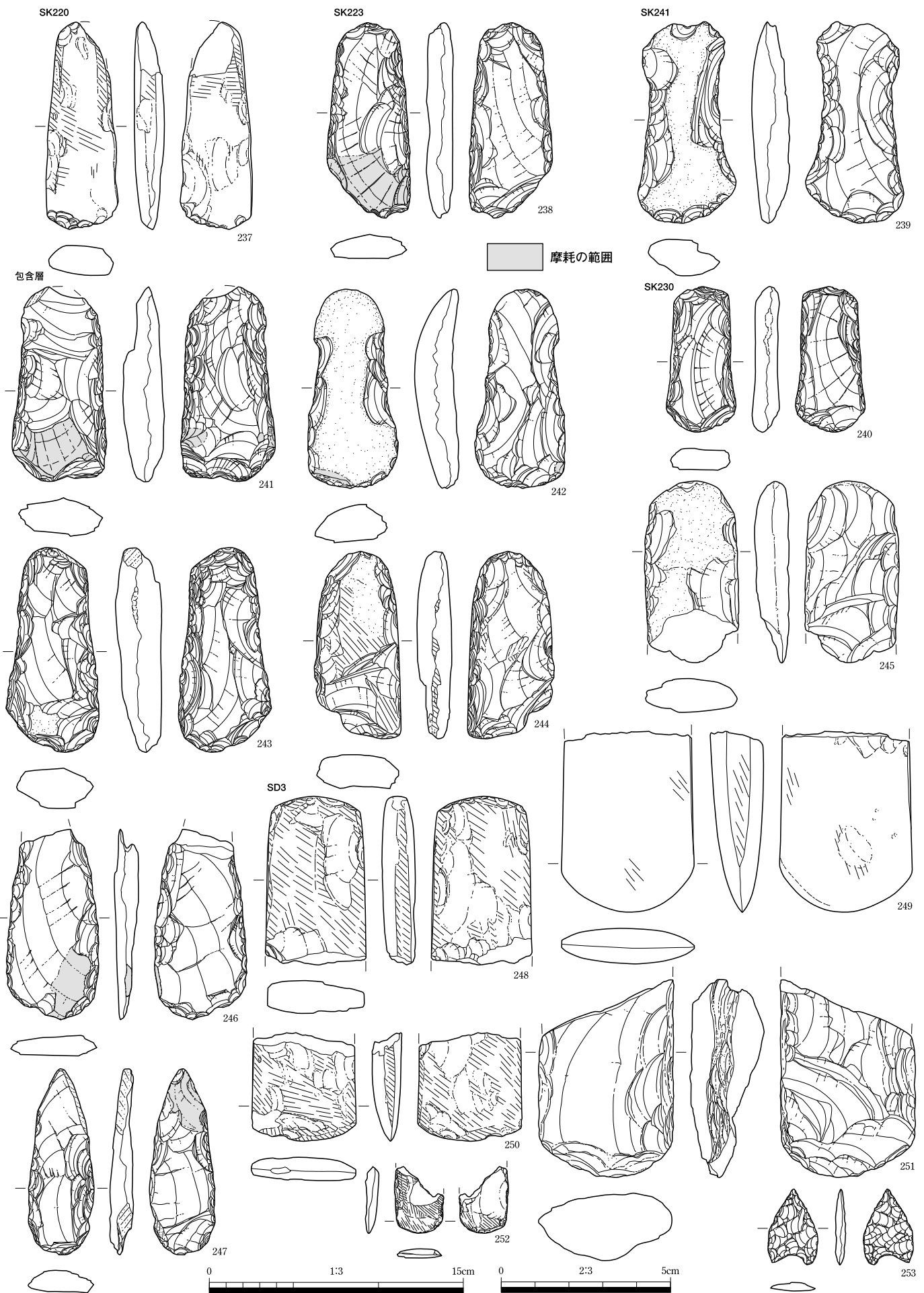


第47図 舌山遺跡 縄文時代遺物実測図 (1/3)
包含層

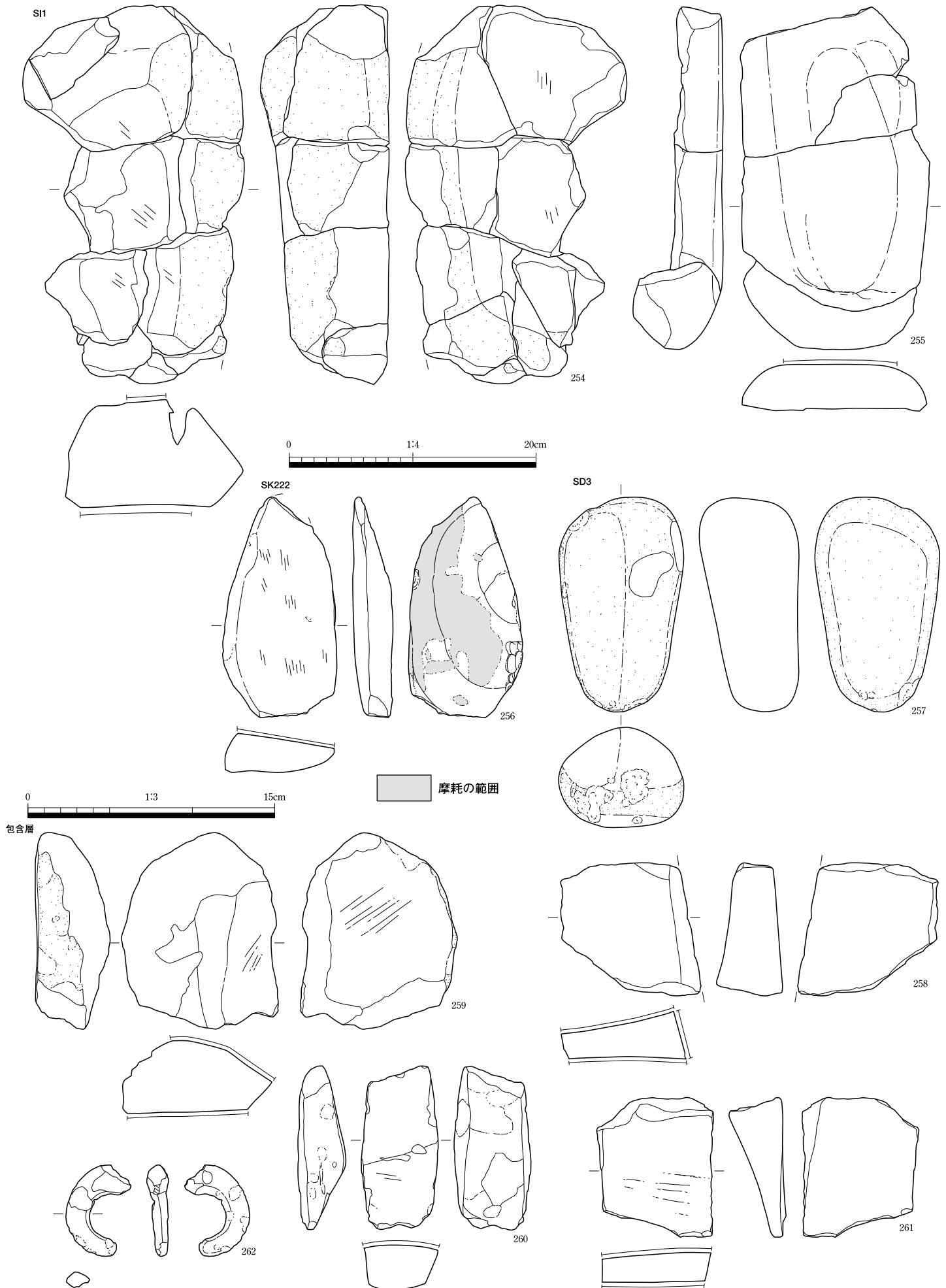
SD3



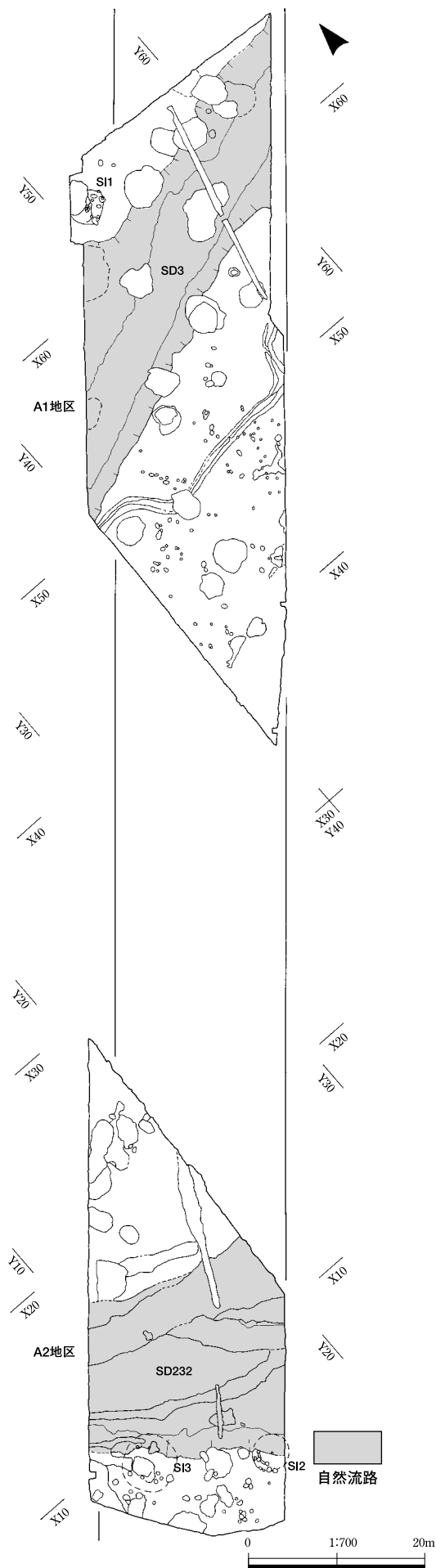
第48図 舌山遺跡 縄文時代遺物実測図 (1/3)
SD3



第49図 舌山遺跡遺物実測図 (252・253 2/3, 237~251 1/3)
SD3(248~253) SK220(237) SK223(238) SK230(240) SK241(239) 包含層



第50図 舌山遺跡遺物実測図 (256~262 1/3, 254・255 1/4)
 SI1 (254・255) SD3 (257・258) SK222 (256) 包含層



第51図 舌山遺跡 遺構全体図 (1:700)

4 まとめ

舌山遺跡では、ほ場整備等による削平並びに、洪水や近現代河川による攪乱のため、遺物包含層がほとんど残存せず、ごく一部での検出となった。このため、確認した遺構は、竪穴建物3棟、溝・流路9条、土坑175基、倒木痕19箇所である。このうち、縄文時代に属すと考えられる遺構は、竪穴建物3棟、溝・流路4条、土坑15基である。竪穴建物は、串田新Ⅰ・Ⅱ式前後に属するものとみられ、いずれも自然流路の岸に立地している。S I 1は倒木痕と重複するため床面の依存状態が悪く詳細は不明だが、S I 2・S I 3では柱穴周辺で溝や段差を確認した。S I 2は柱穴間をつなぐように溝がはしっており、富山市開ヶ丘狐谷Ⅲ遺跡S I 17^{注4}等に類例がみられる。S I 3は柱穴で囲まれた内部が一段低くなっており、富山市東黒牧上野遺跡第7号住居跡^{注5}等に類例がみられる。これらの溝や段差は、縄文時代中期中葉以降に類例がみられ、間仕切り等の住居内の空間利用の痕跡と考えられている。出土遺物は、量的には少なくA2地区南半及び流路からの出土がほとんどで、縄文時代後期前葉の気屋式を若干含み、中期後葉の串田新Ⅱ式を主体とする。A1地区のSD3からは後期後半の井口式および、八日市新保式に比定されるものも少数だが出土している。石器は打製石斧が多くみられるが、その他の石器や未成品は少ない傾向にある。

舌山遺跡は丘陵と扇状地の境界付近に立地しており、丘陵裾部及び自然流路の岸周辺に竪穴建物がある集落跡である。周辺には若栗遺跡、袖野遺跡、宮野遺跡等の縄文中期を主体とする遺跡が点在しており、舌山遺跡はこうした黒部川扇状地一帯を生活の場とする集落の一つであったと捉えられる。

なお、S I 1炉、S I 2、SD232南岸中央の黒色粘土質シルト、SK236の各埋土に含まれていた木炭を放射性炭素年代測定に出した結果得られた炭素14年代は、各々 4140 ± 30 (BP)、 4040 ± 40 (BP)、 4010 ± 40 (BP)、 4050 ± 40 (BP) というものであった^{注6}。石川県において土器付着炭化物を測定した結果得られた炭素14年代^{注7}は中期前葉の新保式で 4594 ± 120 (BP)、中期後葉の串

田新Ⅰ式で 4387 ± 107 (BP), 中期末の大杉谷式で 4012 ± 86 (BP) というもので, 舌山遺跡出土土器は中期後葉の串田新Ⅱ式を主体とすることから, 土器形式からみた年代観とも一致する。測定対象が遺構埋土中の木炭を試料としており, 植物であることや後世の混入等を考慮したとしても, 遺跡の年代を検討するのに有効な測定結果であると考え。今後, 同様の測定結果の蓄積をまち, 検討されることが望まれる。

注

- 注1 財団法人富山県文化振興財団 2004『北陸新幹線関係埋蔵文化財包蔵地調査報告(4) HS-10埋蔵文化財包蔵地 HS-15埋蔵文化財包蔵地 HS-16埋蔵文化財包蔵地 舌山遺跡』
- 注2 富山県教育委員会 1974『富山県城端町 西原遺跡 第一次発掘調査概報』
- 注3 松永氏のご教示による。
松永篤知 2004「東アジア先史土器の「敷物圧痕」分類について」『金沢大学考古学研究紀要』27
- 注4 富山県教育委員会 2003『富山市 開ヶ丘狐谷Ⅲ遺跡 開ヶ丘中山Ⅰ遺跡 開ヶ丘中山Ⅳ遺跡 開ヶ丘狐谷Ⅳ遺跡発掘調査報告書』富山市埋蔵文化財調査報告127
- 注5 大山町教育委員会 1990『富山県大山町 東黒牧上野遺跡A地区発掘調査概要』
- 注6 第Ⅵ章「3 若栗中村遺跡, 舌山遺跡における放射性炭素年代(AMS測定)」に詳しい。
- 注7 山本直人 2007「縄文土器のAMS炭素14年代と較正年代-石川県の縄文前期～晩期を中心に-」『文理融合の考古学』高志書院

参考文献

- 小矢部市教育委員会 2006 『富山県小矢部市 桜町遺跡発掘調査報告書』縄文土器・石器編Ⅰ
- 国立歴史民俗博物館 2003 『炭素14年代測定と考古学』国立歴史民俗博物館研究業績集
- 国立歴史民俗博物館 2003 『特別企画 歴史を探るサイエンス 展示図録』
- 小林達夫編 2008 『総覧 縄文土器』『総覧 縄文土器』刊行委員会, アム・プロモーション
- 富山県教育委員会 1990 『北陸自動車道遺跡調査報告-朝日町編5-』境A遺跡 石器編
- 富山県教育委員会 1991 『北陸自動車道遺跡調査報告-朝日町編6-』境A遺跡 土器編

第15表 舌山遺跡 竪穴建物一覧

遺構番号	地区	平面形	規模(m)			出土遺物	備考	挿図番号	写真図版
			長さ	幅	深さ				
SI1	A1	隅丸?	4.00	3.50~	0.12	縄文土器, 石皿, 砥石	柱穴3本, 石組炉, SI1<SX131	34	22,23
SI2	A2	円	3.20~	2.10~	0.25	縄文土器	柱穴5本, SI2<SD232	35	25
SI3	A2	円	2.20	1.80	0.20	縄文土器	柱穴5本	36	25

第16表 舌山遺跡 柱穴・炉一覧

建物	遺構番号	地区	遺構種類	平面形	規模(m)			出土遺物	特記事項	挿図番号	写真図版
					長さ	幅	深さ				
SI1	SK120	A1	炉	楕円	2.20	0.55	0.15		石組炉, SK120<SX131	34	23
	SP122	A1	柱穴	円	0.35	0.25	0.12			34	
	SP124	A1	柱穴	円	0.50	0.50	0.50		主柱穴	34	
	SP126	A1	柱穴		0.35	0.31	0.04			34	
SI2	SP273	A2	柱穴	円	0.36	0.31	0.06			35	
	SP274	A2	柱穴	円	0.26	0.25	0.16	縄文土器, 剥片	柱痕?	35	
	SP275	A2	柱穴	円	0.41	0.35	0.09			35	
	SP277	A2	柱穴	円	0.56	0.45	0.08			35	
	SP278	A2	柱穴	円	0.30	0.30	0.15			35	
		A2	炉		0.60	0.37		縄文土器	石組炉, 土器敷, 南半は破損	36	25
SI3	SP206	A2	柱穴	円	0.40	0.31	0.07			36	
	SP267	A2	柱穴	円	0.33	0.31	0.17			36	
	SP268	A2	柱穴	円	(0.48)	0.45	0.17			36	
	SP272	A2	柱穴	円	0.26	0.23	0.13			36	
	SP280	A2	柱穴	円	(0.21)	0.25	0.13		攪乱に切られる		

※規模の()付数値は切り合いなどによる現存長を示す。

第17表 舌山遺跡 溝一覧

遺構番号	地区	規模(m)		出土遺物	時期	備考	挿図番号	写真図版
		幅	深さ					
SD3	A1	12.50	1.00	縄文土器, 打製石斧, 磨製石斧, 石鏃	縄文	SD3<SX111・113・114・115・112・130・118・117・52	38	23
SD4	A1			縄文土器(混入)	近代?	SD48と併行して検出, 畔または細い道路状の遺構		
SD48	A1				近代	SD04と併行して検出, 畔または道路状遺構?		
SD232	A2			縄文土器	縄文	SD232<SD271	40	
SD239	A2	0.81	0.21	縄文土器	縄文		40	
SD245	A2		0.14	縄文土器		溝の東岸には石列	40	
SD253	A2	1.36	0.25			区画溝?	40	
SD261	A2					SD261<SK59		
SD271	A2			縄文土器(混入)	近現代			
SD279	A2	0.25	0.05		縄文	SI2内の溝, 掘形壁よりもやや内側にあり, 柱穴と柱穴の間に位置する。(但し部分的)SI2の柱穴を結ぶ	35	

第18表 舌山遺跡 倒木痕一覧

遺構番号	地区	平面形	規模(m)			出土遺物	備考
			長さ	幅	深さ		
SX47	A1	円形	3.21	3.04	0.56	縄文土器	
SX49	A1	不整形	2.31	2.00	0.42		
SX50	A1	不整形	3.75	1.18	0.38		
SX52	A1	不整形	3.45	3.38	0.66	縄文土器	
SX54	A1	不整形	2.47	(1.65)	0.64		
SX57	A1	不整形	3.72	3.70	0.74	打製石斧	
SX58	A1	不整形	2.82	2.66	0.74		
SX95	A1	不整形	(5.00)	1.20			SX95<SK28・29・38・99・100
SX107	A1	不整形	3.52	2.70	0.95	打製石斧	
SX111	A1	不整形	3.63	3.25	0.83		SX111>SK117, SD3
SX112	A1	不整形	4.74	4.00	0.94		SX112>SD3
SX113	A1	不整形	3.66	3.21	0.93	縄文土器	SX113>SD3
SX114	A1	不整形	4.82	4.24	0.85		SD3<SX114
SX115	A1		3.52	3.10	0.94	縄文土器	SD3<SX115
SX117	A1	不整形	(4.84)	(4.20)	0.71		SX117<SK111 SX117>SD3
SX118	A1	不整形	5.82	3.34	0.51	打製石斧	SX118>SD3
SX119	A1	不整形	3.04	2.64	0.58		
SX130	A1	不整形	4.07	3.24	0.82		SX130>SX116, SD3
SX131	A1		3.90	(1.84)	0.54		

※規模の()付数値は切り合いなどによる現存長を示す。

第19表 舌山遺跡 土坑一覧

遺構番号	地区	平面形	規模(m)			出土遺物	時期	備考	挿図番号	写真図版
			長さ	幅	深さ					
SK9	A1	円?	(0.23)	0.36	0.20	越中瀬戸	近世?	SK9<SK10		
SK10	A1	円	0.32	0.24	0.22	越中瀬戸	近世?	SK10>SK9		
SK15	A1	円	0.63	0.58	0.17	縄文土器	縄文		43	
SK55	A1	円	0.50	0.38	0.19	縄文土器	縄文		43	
SK63	A1	円	0.50	0.40	0.08	打製石斧			43	
SK116	A1	隅丸	3.25	2.75	0.23			SK116>SD3 SK116<SX130		
SK121	A1	不整形	0.88	0.54	0.15			SK121>SI1		
SK123	A1	不整形	0.40	0.22	0.10			SI1床面で検出するも、堅穴建物に伴う遺構とは考えられない		
SK125	A1	円	0.80	0.64	0.15			SK125>SI1		
SK127	A1	楕円	0.72	0.43	0.05			SI1床面で検出するも、堅穴建物に伴う遺構とは考えられない		
SK128	A1	円	0.30	0.24	0.12			SK128>SI1		
SK129	A1	円	0.30	0.25	0.08			SI1床面で検出するも、堅穴建物に伴う遺構とは考えられない		
SK207	A2	楕円	0.40	0.32	0.14	縄文土器	縄文		43	
SK209	A2	楕円	1.52	0.74	0.14	縄文土器	縄文	SK209>SK233		
SK218	A2	円	0.61	0.57	0.12	縄文土器	縄文	SK218>SK219		
SK220	A2	円	(0.56)	(0.30)	0.04	縄文土器	縄文	SK220<SK218・219		
SK221	A2	楕円	0.80	0.59	0.06	磨製石斧	縄文		43	
SK222	A2	楕円	2.72	1.15	0.24	縄文土器, 剥片	縄文	土器廃棄	43	25
SK223	A2	楕円	1.43	0.73	0.07	縄文土器, 打製石斧	縄文		44	
SK228	A2	円	0.35	0.32	0.08	縄文土器	縄文		43	
SK229	A2	不整形	(2.32)	1.78	0.12	縄文土器	縄文	SK229<SK201		
SK230	A2	円	3.92	(1.75)	0.10	縄文土器, 打製石斧	縄文	堅穴建物の可能性	44	
SK233	A2	不整形	3.65	3.07	0.20	縄文土器	縄文	堅穴建物の可能性, SK233>SK234	44	
SK234	A2	円	0.51	0.40	0.09		縄文	SK234<SK233		
SK235	A2	不整形	2.60	1.80	0.20	縄文土器	縄文		44	
SK236	A2	円	1.25	1.22	0.25	縄文土器, 剥片, 砥石	縄文		43	
SK241	A2	楕円	0.74	0.50	0.24	縄文土器, 打製石斧	縄文		43	
SK242	A2	不整形	2.81	1.60	0.29	縄文土器	縄文	SK242<SD232		
SK258	A2	不整形	(7.20)	2.15	0.30	縄文土器(混入?)	近世?	SK258>SK256・262		
SK264	A2	楕円	0.60	0.48	0.15		縄文?	SK264>SI2		
SK265	A2	円	0.30	0.28	0.11		縄文?	SK265>SI2		
SK266	A2	楕円	0.38	0.29	0.05	縄文土器	縄文?	SK266>SI2	43	
SK276	A2	円	0.25	0.20	0.15	縄文土器	縄文	SI2の柱穴?		

※規模の()付数値は切り合いなどによる現存長を示す。

第20表 舌山遺跡 縄文土器・土製品一覧(1)

種別	写真 図版	地区	遺構	出土地点	種類	器種	量量(cm)		時期	詳細時期	胎土色調		胎土の特徴	備考
							口径	底径			記号	胎土色		
1	26 A2	S12		No.38	縄文土器	鉢	16.5		中期後葉	串田新II	10YR8/3	粗, 石英, 砂粒	隆帯区画間斜短沈線, 隆帯垂下	
2	27 A2	S12		No.20	縄文土器	鉢			中期中葉	古府?	7.5YR5/2	やや粗, 石英	隆帯上キサミ, 半隆起線文, 外面スス付着	
3	27 A2	S12		A区	縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	7.5YR4/2	粗, 石英, 長石	隆帯上縄文, 隆帯区画間短沈線	
4	27 A2	S12		B7'pp	縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	7.5YR7/4	やや粗, 砂粒	沈線区画間短沈線	
5	27 A2	S12		No.61	縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	7.5YR6/6	粗, 石英	隆帯上縄文, 横沈線	
6	27 A2	S12		WE7'z	縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	2.5YR6/3	やや粗, 石英	横沈線	
7	27 A2	S12		No.11	縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	7.5YR4/1	粗, 石英	斜縄文	
8	27 A2	S12		No.52	縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	7.5YR4/2	粗, 石英	横沈線, 斜縄文	
9	27 A2	S12		WE7'z	縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	5YR4/4	粗, 砂粒	隆帯, 斜縄文	
10	27 A2	S12		A7'pp	縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	2.5YR6/6	やや粗, 石英	隆帯上縄文	
11	27 A2	S12			縄文土器	鉢			後期前葉	岩崎野	7.5YR4/2	密, 長石	横沈線, 刺突, 外面スス付着	
12	27 A2	S12			縄文土器	鉢			後期前葉	岩崎野	7.5YR4/2	やや粗, 石英	隆帯上縄文, ボタン状突起	
13	27 A2	S12		WE7'z	縄文土器	鉢			中期後葉~	串田新II	10YR5/2	密	隆帯区画間短沈線, ボタン状突起	
14	27 A2	S12		D7'pp	縄文土器	鉢			後期前葉	岩崎野	10YR6/3	密	沈線による楕円形文?, ボタン状突起, 孔あり	
15	27 A2	S12			縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	10YR4/2	やや粗, 石英	隆帯区画間斜短沈線, 内面沈線	
16	27 A2	S12		A7'pp	縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	10YR4/2	やや粗, 石英	隆帯上キサミ, 外面スス付着	
17	27 A2	S12			縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	7.5YR5/2	粗, 長石, 石英	弧状隆帯, 縄文	
18	27 A2	S12		No.22	縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	5YR3/1	やや粗, 長石	隆帯上刺突, 隆帯区画間短沈線	
19	27 A2	S12		NE7'z	縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	7.5YR7/6	やや粗, 石英	隆帯上刺突	
20	27 A2	S12		No.35	縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	10YR6/3	粗, 石英	沈線文	
21	27 A2	S12		D7'pp	縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	7.5YR5/4	やや粗, 長石?	横・弧状隆帯	
22	27 A2	S12		No.13	縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	7.5YR7/6	やや粗, 石英	葉脈状文, 基線隆帯上刺突	
23	27 A2	S12		A7'pp	縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	7.5YR5/4	粗, 石英, 粒(大)	縄文施文後縦隆帯	
24	27 A2	S12		No.47	縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	10YR3/2	粗, 長石	縄文施文後縦隆帯	
25	27 A2	S12		D7'pp	縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	7.5YR3/1	粗, 長石	沈線区画間刺突, 斜縄文	
26	27 A2	S12		A区	縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	5YR6/6	粗, 砂粒	隆帯上縄文	
27	27 A2	S12		No.24・25	縄文土器	鉢	12.8		中期後葉	串田新II	10YR4/2	粗, 砂粒	斜縄文, 底部網代片痕	
28	27 A2	S12		No.56	縄文土器	鉢	14.5		中期後葉	串田新II	10YR7/4	やや粗, 石英	底部網代痕(1-1-1)	
29	26 A2	S13			縄文土器	洗鉢	23.6		中期後葉	串田新I	10YR4/4	密, 石英, 長石	波状口縁, 工字状風情円形文, 斜縄文	
30	27 A1	SD3		X57V46	縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	10YR8/4	砂粒	斜縄文	
31	27 A1	SD3		X54Y48	縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	5YR5/6	石英	横沈線, 横縄文, 口縁端部面取り	
32	27 A1	SD3		X60Y55	縄文土器	鉢			中期後葉~後期前葉	串田新II	5YR4/1	緻密で硬	斜縄文	
33	27 A1	SD3		X55Y45	縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	10YR5/3	粗, 石英	双頭波状口縁, 内面隆帯	
34	27 A1	SD3		X60Y51	縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	5YR7/6	石英, 砂粒	双頭波状口縁, 口縁端部刺突	
35	27 A1	SD3		X58Y52	縄文土器	鉢			中期後葉~後期前葉	串田新II	10YR6/6	粗, 砂粒	双頭波状口縁, 口縁端部刺突	
36	27 A1	SD3		X61Y51	縄文土器	鉢			中期後葉~後期前葉	串田新II	7.5YR5/3		双頭波状口縁, 口縁端部刺突	
37	27 A1	SD3		X59Y51	縄文土器	鉢			中期後葉~後期前葉	串田新II	10YR8/4	浅黄褐色	双頭波状口縁, 口縁端部刺突	
38	27 A1	SD3		X60Y53	縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II?	10YR7/4	にぶい黄褐色	双頭波状口縁?, 隆帯	
39	27 A1	SD3		X60Y53	縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II?	7.5YR4/1	楊灰	波状口縁の頂部	
40	27 A1	SD3		X58Y55	縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	5YR3/3	暗赤褐色	隆帯上縄文?, 口縁端部沈線状	
41	27 A1	SD3		X59Y53	縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	7.5YR4/2	灰褐色	隆帯, 横沈線, 斜縄文, 内面隆帯	
42	31 A1	SD3		X59Y50	縄文土器	鉢			中期後葉~	串田新II	10YR5/3	にぶい黄褐色	突起	
43	27 A1	SD3		X56Y47	縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	7.5YR7/6	粗, 砂粒	無文	
44	27 A1	SD3		X56Y45 下層	縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	7.5YR6/4	粗, 砂粒	無文	
45	27 A1	SD3		X56Y46	縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	7.5YR6/6	粗, 砂粒	葉脈状文?	
46	27 A1	SD3		X55Y46	縄文土器	鉢			中期後葉~後期前葉	串田新II	5YR5/6	砂多	縄文施文後沈線区画間磨り消し	
47	27 A1	SD3		X53Y42 下層	縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	10YR5/3	粗, 砂粒	隆帯上キサミ, 隆帯区画間斜短沈線	
48	27 A1	SD3		X56Y45 下層	縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	7.5YR4/2	やや軟	隆帯上キサミ, 弧状沈線	
49	27 A1	SD3		X54Y42 下層	縄文土器	鉢			中期後葉~後期前葉	串田新II	5YR6/6	粗, 砂粒	沈線区画間短沈線	
50	27 A1	SD3		X54Y45	縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	7.5YR6/2	粗, 砂粒	隆帯区画間短沈線	
51	27 A1	SD3		X53Y43 下層	縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	7.5YR5/4	粗, 砂粒	斜縄文	
52	27 A1	SD3		X65Y65	縄文土器	鉢			中期後葉~	串田新II	5YR6/3	にぶい黄褐色	横沈線, ミガキ?, 赤彩?	
53	27 A1	SD3		X57Y53	縄文土器	罎付土器?			中期後葉~	串田新II	7.5YR6/6	粗, 砂粒	横沈線, ミガキ?, 赤彩?	

第20表 舌山遺跡 縄文土器・土製品一覧(2)

挿図	写真 図版	地区	遺構	出土地点	種類	器種	法量(cm)		時期	詳細時期	胎土色調		胎土の特徴	備考
							口径	底径			記号	胎土色		
54	27 A1	SD3	X58Y53	縄文土器	鉢	中期後葉			串田新II	7.5YR6/6	橙	石英、砂粒	縄文施文後、縦沈線	
55	27 A1	SD3	X59Y53	縄文土器	鉢	後期前葉			気屋	7.5YR5/4	にぶい褐	砂粒少なくくろく細かい	横沈線、斜縄文	
56	27 A1	SD3	X62Y50	縄文土器	鉢	中期後葉～後期前葉			串田～気屋?	7.5YR5/6	明褐	隆帯上キザミ、沈線区画間刺突	隆帯上キザミ、沈線区画間刺突	
57	27 A1	SD3	X61Y52	縄文土器	洗鉢	後期後半			井口II	5YR4/3	にぶい赤褐	砂粒多、石英?	横沈線	
58	27 A1	SD3	X55Y46	縄文土器	鉢	後期後葉			八日市新保	7.5YR4/1	褐灰	微砂粒多く、硬質	縄文施文後磨り消し、沈線、三叉文	
59	27 A1	SD3	X62Y51	縄文土器	鉢	後期後葉			八日市新保	10YR6/3	にぶい黄橙		縄文施文後磨り消し、沈線、縦縄文	
60	26 A1	SD3	X57Y53	縄文土器	鉢	中期後葉	12.2		串田新II	2.5YR4/6	赤褐	クサレ礫、石英多	縦縄文、底部網代庄痕(2-1-1)	
61	27 A1	SD3	X59Y52	縄文土器	鉢	中期後葉	10.0		串田新II	5YR5/4	にぶい赤褐		縄文	
62	26 A1	SD3	X108?Y47	縄文土器	鉢	中期後葉	6.6		串田新II	5YR4/3	にぶい赤褐		縄文	
63	27 A1	SD3	X53Y43	縄文土器	鉢	中期後葉	5.4		串田新II	7.5YR7/6	橙	石英、砂粒	縄文	
64	27 A1	SD4	X50Y42	縄文土器	鉢	中期後葉			串田新II	7.5YR6/4	にぶい橙		縄文	
65	28 A2	SD232	X7Y9	縄文土器	鉢	中期後葉			串田新II	10YR7/6	明黄褐	やや粗、石英	波状口縁、沈線・隆帯区画間刺突、内面沈線2案	
66	28 A2	SD232	X9Y13	縄文土器	鉢	中期後葉			串田新II	10YR5/2	灰黄褐	やや粗、石英	葉脈状文	
67	28 A2	SD232	X3Y10	縄文土器	鉢	中期後葉?			串田新II	7.5YR7/6	橙	やや粗、石英、長石	波状口縁、隆帯、内面隆帯	
68	28 A2	SD232		縄文土器	深鉢	中期後葉			串田新II		灰白	やや軟質、砂礫多い	隆帯区画間縦短沈線、内面隆帯	
69	28 A2	SD232	X6Y13	縄文土器	鉢	中期後葉			串田新II	7.5YR7/6	橙	やや粗、石英	隆帯上キザミ、隆帯区画間縦短沈線、内面沈線	
70	28 A2	SD232	X8Y12	縄文土器	鉢	中期後葉			串田新II	10YR6/2	灰黄褐	やや粗、石英	縁杉文	
71	28 A2	SD232		縄文土器	鉢	中期後葉			串田新II	10YR4/2	灰褐	密、長石	波状口縁、隆帯上キザミ、内面沈線	
72	28 A2	SD232		縄文土器	鉢	中期後葉	12.0		串田新II	7.5YR4/2	灰褐	粗、石英、長石	無文	
73	28 A2	SD232		縄文土器	深鉢	中期後葉			串田新II	7.5YR5/4	にぶい褐	やや粗、石英	隆帯上キザミ、横沈線、内面沈線	
74	28 A2	SD232		縄文土器	鉢	中期後葉			串田新II	7.5YR6/2	灰褐	やや粗、石英	隆帯区画間縦杉文?	
75	28 A2	SD232		縄文土器	鉢	中期後葉			串田新II	5YR7/6	橙	やや粗、長石、石英	隆帯区画間縦杉文?	
76	28 A2	SD232	X9Y13	縄文土器	鉢	中期後葉			串田新II	7.5YR5/1	褐灰	やや粗、長石	無文	
77	28 A2	SD232	X9Y13	縄文土器	鉢	中期後葉			串田新II	10YR6/4	にぶい黄橙	粗、石英	隆帯上キザミ、横沈線、内面沈線	
78	28 A2	SD232	X9Y11	縄文土器	鉢	中期後葉			串田新II	7.5YR6/3	にぶい褐	やや粗、石英	隆帯区画間縦杉文?	
79	28 A2	SD232		縄文土器	鉢	中期後葉			串田新II	10YR6/3	にぶい黄橙	粗、石英、砂粒	斜縄文	
80	28 A2	SD232		縄文土器	鉢	中期後葉			串田新II	10YR6/3	にぶい黄橙	粗、石英、雲母	隆帯、横縄文?	
81	28 A2	SD232	X9Y11	縄文土器	鉢	中期後葉			串田新II	10YR4/2	灰黄褐	粗、砂粒、長石	斜縄文、口縁端部内湾気味	
82	28 A2	SD232	X8Y13	縄文土器	鉢	中期後葉			串田新II	10YR7/4	にぶい黄橙	粗、石英、砂粒	斜縄文、口縁端部取刃	
83	28 A2	SD232	X8Y10	縄文土器	鉢	中期後葉			串田新II	7.5YR6/6	橙	やや粗、石英	横縄文	
84	28 A2	SD232	X8Y12	縄文土器	鉢	中期後葉			串田新II	10YR7/4	にぶい黄橙	粗、石英	隆帯上刺突、隆帯区画間縦杉文、斜短沈線	
85	28 A2	SD232	X8Y18	縄文土器	鉢	中期後葉			串田新II	7.5YR5/2	灰褐	やや粗、石英	縄文磨り消し?、沈線区画間縄文	
86	28 A2	SD232	X9Y9	縄文土器	鉢	中期後葉			串田新II	2.5Y4/1	黄灰	やや粗、長石、石英	縄文磨り消し?、大木系?	
87	28 A2	SD232		縄文土器	鉢	中期後葉			串田新II	7.5YR4/2	灰褐	やや粗、長石	隆帯、縄文	
88	28 A2	SD232		縄文土器	鉢	中期後葉			串田新II	10YR3/1	黒褐	粗、長石、石英	沈線区画間刺突	
89	28 A2	SD232	X9Y13	縄文土器	鉢	中期後葉	12.0		串田新II	7.5YR6/6	橙	密、長石	沈線による楕円形区画、区画間刺突	
90	28 A2	SD232	X7Y14	縄文土器	鉢	中期後葉	12.0		串田新II	10YR5/2	灰黄褐	粗、長石	横縄文	
91	28 A2	SD232		縄文土器	鉢	中期後葉			串田新II	5YR6/8	橙	粗、長石	隆帯区画間縦短沈線	
92	28 A2	SD232	X7Y13	縄文土器	鉢	中期後葉			串田新II	7.5YR6/4	にぶい橙		縄文施文後縦隆帯を放射状、93と同一	
93	28 A2	SD232	X7Y13	縄文土器	鉢	中期後葉			串田新II	7.5YR6/4	にぶい橙		縄文施文後縦隆帯を放射状、92と同一	
94	28 A2	SD232	X9Y10	縄文土器	鉢	後期前葉			気屋	10YR6/3	にぶい黄橙	やや粗、長石、石英	横沈線、縦縄文	
95	28 A2	SD232		縄文土器	鉢	中期後葉	12.0		串田新II	10YR5/2	灰黄褐	粗、石英、長石	斜縄文、底部網代庄痕(2-1-1)	
96	28 A2	SD232		縄文土器	鉢	中期後葉	12.0		串田新II	5YR5/6	明赤褐	粗、石英	被熱か、表面不明瞭	
97	26 A2	SD232	X9Y11	縄文土器	鉢	中期後葉	12.9		串田新II	10YR6/2	灰赤褐	粗、石英	縄文施文後縦隆帯	
98	28 A2	SD232		縄文土器	鉢	中期後葉	11.0		串田新II	10YR6/4	にぶい黄褐	粗、石英、長石	斜縄文、底部網代庄痕(2-1-1-1-1)	
99	28 A2	SD232	X9Y10	縄文土器	鉢	中期後葉	22.0		串田新II	10YR4/2	灰黄褐	粗、石英、長石	横縄文	
100	28 A2	SD232	X9Y10	縄文土器	鉢	中期後葉			串田新II	10YR4/1	褐灰	やや粗、石英	斜縄文、口縁端部取刃?	

第20表 舌山遺跡 縄文土器・土製品一覧(3)

種目	写真 図版	地区	遺構	出土地点	種類	器種	法量(cm)		時期	詳細時期	胎土色調		胎土の特徴	備考
							口径	底径			記号	胎土色		
101	28 A2	SD232	X9Y10	黒色土	縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	10YR6/3	にぶい黄橙	無文	
102	28 A2	SD232	X9Y10	黒色土	縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	10YR6/3	にぶい黄橙	無文	
103	28 A2	SD232	X9Y10	黒色土	縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	10YR5/2	灰黄褐	縦縄文	
104	28 A2	SD232	X9Y10	黒色土	縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	10YR5/3	にぶい黄褐	斜縄文、口縁端部面取り	
105	28 A2	SD232	X9Y10	黒色土	縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	7.5YR5/4	粗、石英、砂粒	隆帯	
106	28 A2	SD232	X9Y10	黒色土	縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	10YR6/3	にぶい黄橙	縦縄文?	
107	28 A2	SD232	X9Y10	黒色土	縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	7.5YR6/2	灰褐	隆帯区画間斜短沈線、内面隆帯	
108	28 A2	SD232	X9Y10	黒色土	縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	10YR4/1	褐灰	無文?、口縁端部内傾	
109	28 A2	SD232	X9Y10	黒色土	縄文土器	鉢			後期前葉	岩崎野?	10YR5/3	にぶい黄褐	沈線区画間刺突	
110	28 A2	SD232	X9Y10	黒色土	縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	10YR5/3	にぶい黄褐	縦文、口縁端部面取り?	
111	28 A2	SD232	X9Y10	黒色土	縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	10YR6/4	にぶい黄橙	無文	
112	28 A2	SD232	X9Y10	黒色土	縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	7.5YR4/2	灰褐	斜縄文	
113	28 A2	SD232	X9Y10	黒色土	縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	7.5YR4/1	褐灰	隆帯区画間斜短沈線	
114	28 A2	SD232	X9Y10	黒色土	縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	7.5YR4/2	灰褐	隆帯区画間斜短沈線、内面隆帯	
115	28 A2	SD232	X9Y10	黒色土	縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	7.5YR5/3	にぶい褐	隆帯区画間斜短沈線	
116	28 A2	SD232	X9Y10	黒色土	縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	7.5YR6/4	にぶい橙	粗、石英、雲母	楕円形または逆J字状の区画縄文帯、素文部、大木9系
117	28 A2	SD232	X9Y10	黒色土	縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	7.5YR6/6	橙	隆帯上縄文、刺突	
118	28 A2	SD232	X9Y10	黒色土	縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	10YR5/2	灰黄褐	斜縄文(無節の細か)	
119	28 A2	SD232	X9Y10	黒色土	縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	7.5YR6/4	にぶい橙	沈線文	
120	28 A2	SD232	X9Y10	黒色土	縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	7.5YR6/4	にぶい橙	隆帯区画、沈線による楕円形区画、区画間縄文	
121	28 A2	SD232	X9Y10	黒色土	縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	7.5YR4/2	灰褐	隆帯、沈線区画間無文、斜縄文	
122	28 A2	SD232	X9Y10	黒色土	縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	10YR5/2	灰黄褐	隆帯上縄文、斜縄文	
123	28 A2	SD232	X9Y10	黒色土	縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	7.5YR6/4	にぶい橙	細文施文後、純隆帯	
124	28 A2	SD232	X9Y10	黒色土	縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	10YR7/2	にぶい黄橙	隆帯、刺突	
125	28 A2	SD232	X9Y10	黒色土	縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	7.5YR4/2	灰褐	細文	
126	28 A2	SD232	X9Y10	黒色土	縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	5YR6/6	橙	細文施文後、純隆帯	
127	28 A2	SD232	X9Y10	黒色土	縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	7.5YR6/4	にぶい褐	細描文	
128	28 A2	SD232	X9Y10	黒色土	縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	10YR6/3	にぶい黄橙	斜縄文	
129	28 A2	SD232	X9Y10	黒色土	縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	10YR7/3	にぶい黄橙	斜縄文	
130	28 A2	SD232	X9Y10	黒色土	縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	7.5YR5/3	にぶい褐	斜縄文	
131	28 A2	SD232	X9Y10	黒色土	縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	7.5YR6/4	にぶい橙	細文?	
132	28 A2	SD232	X9Y10	黒色土	縄文土器	鉢			中期中葉?	串田新II	7.5YR7/6	橙	縮描文か?	
133	28 A2	SD232	X9Y10	黒色土	土製品	円盤状土製品	3.7	3.6	中期中葉	串田新II	10YR6/4	にぶい黄橙	粗、石英	
134	28 A2	SD232	X9Y10	黒色土	土製品	円盤状土製品	4.0	5.0	中期後葉	串田新II	10YR6/3	にぶい黄橙	粗、長石、石英	30.78g
135	28 A2	SD232	X9Y10	黒色土	縄文土器	鉢		(9.4)	中期後葉	串田新II	7.5YR6/6	橙	斜縄文、底部剥離面にスス付着	
136	29 A2	SK209			縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	7.5YR7/4	にぶい橙	斜縄文	
137	29 A2	SK218			縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	10YR6/3	にぶい黄橙	隆帯区画間斜短沈線	
138	29 A2	SK222			縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II	2.5Y7/2	灰黄	細文施文後無消し、沈線区画間貝殻による押圧文	
139	29 A2	SK222			縄文土器	鉢			中期後葉	串田新I?		赤褐	波状口縁、隆帯上キザミ、沈線楕円形区画、区画間刺突、内面沈線	
140	29 A2	SK222			縄文土器	鉢			中期後葉	串田新I?	7.5YR6/6	橙	波状口縁、隆帯上キザミ、沈線、内面沈線	
141	29 A2	SK222			縄文土器	鉢			中期後葉	串田新I?	7.5YR6/6	橙	波状口縁、隆帯上キザミ、内面沈線	
142	29 A2	SK222			縄文土器	鉢			中期後葉	串田新I	10YR5/2	灰黄褐	波状口縁、細文	
143	29 A2	SK222			縄文土器	鉢			中期後葉	串田新I	5YR3/1	黒褐	沈線区画間無文、斜縄文	
144	29 A2	SK222			縄文土器	鉢			中期後葉	串田新I	10YR5/3	にぶい黄褐	斜縄文	
145	29 A2	SK222			縄文土器	鉢		14.0	中期後葉	串田新I	10YR4/3	にぶい黄褐	沈線区画間斜短沈線	
146	29 A2	SK222			縄文土器	鉢			中期後葉	串田新II			葉脈状文、基線隆帯上刺突	
147	29 A2	SK222			縄文土器	鉢		16.0	中期後葉	串田新II	7.5YR5/3	にぶい褐	葉脈状文、基線隆帯上刺突、底部網代圧痕(1-1、東北形)	
148	29 A2	SK222			縄文土器	鉢		10.0	中期後葉	串田新II	7.5YR5/4	にぶい褐	縦縄文、被熱か	
149	26 A2	SK222			縄文土器	鉢		6.4	中期後葉	串田新I	10YR4/2	灰黄褐	斜縄文	

第20表 舌山遺跡 縄文土器・土製品一覧 (4)

挿図	写真 図版	地区	遺構	出土地点	種類	器種	法量(cm)		時期	詳細時期	胎土色調		胎土の特徴	備考
							口径	底径 器高			記号	胎土色		
150	29 A2	SK222			縄文土器 鉢		7.6	中期後葉	串田新	10YR5/2	灰黄褐	粗, 石英	縄文, 底部ナズ	
151	29 A2	SK223			縄文土器 鉢			中期後葉	串田新	7.5YR6/6	橙	粗, 石英	隆帯, 被熱?	
152	29 A2	SK223			縄文土器 鉢			中期後葉~後期前葉	串田新	10YR7/3	にぶい黄橙	やや粗, 長石, 雲母?	隆帯区画間縦杉文	
153	29 A2	SK223			縄文土器 鉢			中期後葉	串田新	7.5YR5/2	灰褐	粗, 石英, 砂粒	縦縄文, 外面スス付着	
154	29 A2	SK230	A区		縄文土器 鉢			中期後葉~	串田新II	7.5YR7/6	橙		縦縄文?	
155	29 A2	SK230			縄文土器 鉢			中期中葉~	古府?	7.5YR7/6	橙		半隆起縄文, コブ状突起? 沈線文, 内面 三叉文	
156	29 A2	SK230	X6Y7		縄文土器 鉢			中期後葉	串田新	7.5YR6/4	にぶい橙		斜縄文	
157	29 A2	SK230			縄文土器 鉢			中期後葉	串田新II	5YR7/6	橙		縦杉文	
158	29 A2	SK230	No.14		縄文土器 鉢			中期後葉	串田新II	7.5YR7/6	橙		縦杉文	
159	29 A2	SK230			縄文土器 鉢			中期後葉	串田新II	5YR7/6	橙		隆帯上キザミ, 隆帯区画間縦短沈線	
160	29 A2	SK230	アゼ		縄文土器 鉢			中期後葉	串田新II	7.5YR5/6	明褐		横沈線, 斜縄文	
161	29 A2	SK230			縄文土器 鉢			中期後葉	串田新II	5YR6/6	橙		隆帯上刺突, 刺突	
162	29 A2	SK230			縄文土器 鉢			中期後葉	串田新II	10YR7/4	にぶい橙		横隆帯上縄文, 縦隆帯垂下	
163	29 A2	SK230	A区		縄文土器 鉢			中期後葉	串田新II	5YR7/6	橙		横沈線, 縄文	
164	29 A2	SK230	A区		縄文土器 鉢		14.0	中期後葉	串田新II	7.5YR6/6	橙		斜縄文, 底部網代庄痕	
165	29 A2	SK230	NO.5		縄文土器 鉢		12.0	中期後葉	串田新II	7.5YR5/6	明褐		底部網代庄痕	
166	29 A2	SK230			縄文土器 浅鉢		7.0	中期後葉	串田新II	7.5YR6/6	橙		縮描文	
167	29 A2	SK235			縄文土器 鉢			中期後葉	串田新	7.5YR6/6	橙	やや粗, 石英	斜縄文	
168	29 A2	SK242	X8Y13		縄文土器 鉢			中期後葉	串田新II	10YR7/4	にぶい黄橙		斜縄文	
169	29 A2	SK242	X8Y13		縄文土器 鉢		11.7	中期後葉	串田新II	10YR6/3	にぶい黄橙	石英, 砂粒	底部網代庄痕(2-1-1)	
170	30 A2	SK233			縄文土器 鉢		28.0	中期後葉	串田新II	7.5YR6/4	にぶい黄橙	石英, 砂粒	横沈線, 斜縄文	
171	30 A2	SK233			縄文土器 鉢		29.0	中期後葉	串田新II	7.5YR4/2	灰褐	金雲母, 石英	無文, 口縁端部面取り	
172	30 A2	SK233			縄文土器 鉢		24.0	中期後葉	串田新II	10YR4/3	にぶい黄褐	石英	無文, 口縁端部面取り, 外面縮状スス 付着	
173	30 A2	SK233			縄文土器 鉢			中期後葉	串田新II	10YR4/2	灰黄褐	石英, 砂粒	斜縄文	
174	30 A2	SK233			縄文土器 鉢			中期後葉	串田新II	10YR7/4	にぶい黄橙	やや粗, 石英	縄文施文後縦隆帯	
175	30 A2	SK233			縄文土器 鉢			中期後葉	串田新II	10YR6/4	にぶい黄橙	石英	隆帯上縄文	
176	30 A2	SK233	Aフロック		縄文土器 鉢			中期後葉	串田新II	10YR4/2	灰黄褐	石英	隆帯上縄文, 隆帯区画間縦短沈線, 外 面スス付着	
177	30 A2	SK223			縄文土器 鉢			中期後葉	串田新II	10YR5/3	にぶい黄褐	やや粗, 石英	波状口縁, 隆帯上キザミ, 沈線楕円形区 画, 区画間刺突, 内面沈線	
178	30 A2	SK233			縄文土器 鉢			中期後葉	串田新II	7.5YR6/6	橙	密	沈線による楕円形区画, 縦縄文	
179	30 A2	SK258			縄文土器 鉢			中期後葉	串田新II	5YR6/6	橙	やや粗, 石英	隆帯上縄文, 斜縄文, 隆帯	
180	30 A2	SK236			縄文土器 鉢			中期後葉	串田新II	10YR5/2	灰黄褐	粗	斜縄文, 外面スス付着	
181	30 A2	SK236			縄文土器 鉢			中期後葉	串田新II	10YR4/1	褐灰	やや粗, 石英	斜縄文, 口縁外面スス付着	
182	30 A2	SK236			縄文土器 鉢			中期後葉	串田新II	10YR4/2	灰黄褐	粗, 石英	斜縄文, 口縁外面スス付着	
183	30 A2	SK236			縄文土器 鉢			中期後葉	串田新II	10YR5/3	にぶい黄褐	やや粗, 石英	隆帯上縄文, 口縁端部面取り?	
184	30 A2	SK236			縄文土器 鉢			中期後葉	串田新II	10YR4/2	灰褐	やや粗, 砂粒	無文, 口縁端部面取り, 口縁外面スス付着	
185	30 A2	SK236			縄文土器 鉢		34.8	中期後葉	串田新II	10YR6/4	にぶい黄橙	粗, 石英	無文	
186	30 A2	SK236			縄文土器 鉢			中期後葉	串田新II	10YR4/1	褐灰	粗, 石英	隆帯上縄文, 斜縄文	
187	30 A2	SK236	D7ロツク		縄文土器 鉢			後期前葉	岩峠野	10YR6/2	灰黄褐	密	沈線区画間刺突, 口縁外面スス付着	
188	30 A2	SK236	D7ロツク		縄文土器 鉢			後期前葉	岩峠野	7.5YR6/4	にぶい橙	やや粗, 石英	波状口縁?, 隆帯上刺突, 内面沈線	
189	30 A2	SK236	D区		縄文土器 鉢			中期後葉	串田新II	7.5YR4/3	褐	密	双頭波状口縁, 隆帯, 頂部下に孔, 内面 隆帯, 201上同一個体	
190	30 A2	SK236	X6Y13		縄文土器 鉢			中期後葉	串田新II	10YR5/4	にぶい褐	粗, 石英, 砂粒	縮描文, 口縁端部面取り, 口縁外面スス 付着	
191	30 A2	SK236			縄文土器 鉢			中期後葉	串田新II	10YR5/3	にぶい黄褐	やや粗, 石英	隆帯上刺突	
192	30 A2	SK236			縄文土器 鉢			中期後葉	串田新II	10YR6/3	にぶい黄橙	やや粗, 石英	横沈線, 斜縄文	
193	30 A2	SK236			縄文土器 鉢			中期後葉	串田新II	10YR6/3	にぶい黄橙	やや粗, 石英	斜縄文	
194	30 A2	SK236			縄文土器 鉢		17.0	中期後葉	串田新II?	7.5YR7/6	橙	粗, 石英, 砂粒	縮描文?, 底部網代庄痕(2-2-1)	
195	30 A2	SK236	X6Y13		縄文土器 鉢		13.2	中期後葉	串田新II?	10YR5/2	灰黄褐	粗, 砂粒	斜縄文, 底部ナズ	
196	31 A2			排土	縄文土器 浅鉢		28.6	中期後葉	串田新II	10YR3/2	黒褐		無文, 口縁帯状スス付着	

第20表 舌山遺跡 縄文土器・土製品一覧(5)

挿図	遺物	写真 図版	地区	遺構	出土地点	種類	器種	法量(cm)		時期	詳細時期	胎土色調		胎土の特徴	備考
								口径	器高 底径			記号	胎土色		
197	31 A2	X15Y11	I層	縄文土器	鉢				中期後葉	串田新 I	5YR5/4	にぶい赤褐	胎土の特徴	隆帯上具波腹縁キザミ、沈線楕円形区画、区画間刺突	
198	31 A2	X6Y12	I層	縄文土器	鉢				中期後葉	串田新 II	5YR4/3	にぶい赤褐	胎土の特徴	隆帯区画間刺突・縦短沈線、内面隆帯	
199	31 A2	カクツ		縄文土器	鉢				中期後葉	串田新 II	7.5YR4/2	灰褐	胎土の特徴	隆帯上キザミ、隆帯区画間斜短沈線	
200	31 A2	X7Y11	I層	縄文土器	鉢				中期後葉	串田新 II	10YR4/3	にぶい黄褐	胎土の特徴	隆帯、斜縄文	
201	31 A2	X6Y12		縄文土器	鉢				中期後葉	串田新 II	7.5YR4/2	灰褐	胎土の特徴	双頭波状口縁、隆帯、沈線楕円形文、頂部下に孔、内面隆帯、189と同一個体	
202	31 A2	X7Y10	I層	縄文土器	鉢				中期後葉	串田新 II	7.5YR7/6	橙	胎土の特徴	横沈線、内面沈線・隆帯	
203	31 A2	不明		縄文土器	鉢				中期後葉～?	串田新 II	10YR8/3	浅黄橙	胎土の特徴	砂粒	
204	31 A2	X5Y9	IIIa層	縄文土器	鉢				中期後葉	串田新 II	10YR3/2	黒褐	胎土の特徴	斜縄文	
205	31 A2	T1		縄文土器	鉢				中期後葉	串田新 II	10YR6/4	にぶい黄橙	胎土の特徴	斜縄文、補修孔?	
206	31 A2	X20Y43	III層	縄文土器	鉢				中期後葉	串田新 II	10YR5/3	にぶい黄褐	胎土の特徴	斜縄文	
207	31 A2	X10Y11	I層	縄文土器	鉢				中期後葉	串田新 II	7.5YR6/2	灰褐	胎土の特徴	沈線による楕円形区画、区画間無文、斜縄文	
208	31 A2	X4Y9	III層直上	縄文土器	鉢				中期後葉	串田新 II	5YR5/6	明赤褐	胎土の特徴	沈線区画間無文?、縄文	
209	31 A2	X4Y9	III層直上	縄文土器	鉢				中期後葉	串田新 II	7.5YR4/4	褐	胎土の特徴	隆帯上縄文、無文帯、横沈線、縄文	
210	31 A2	X6Y11	I層	縄文土器	鉢				中期後葉	串田新 II	7.5YR6/4	にぶい橙	胎土の特徴	縄文施文後縦隆帯	
211	31 A2	X8Y10	I層	縄文土器	鉢				中期後葉	串田新 II	7.5YR6/4	にぶい橙	胎土の特徴	縄文施文後縦隆帯	
212	31 A2	X5Y25	I層	縄文土器	鉢				中期後葉～	串田新 II	2.5Y4/1	黄灰	胎土の特徴	隆帯上刺突、沈線、外面スズ付着	
213	31 A2	試掘T1		縄文土器	鉢				中期後葉	串田新 II	7.5YR6/6	橙	胎土の特徴	葉脈状文	
214	31 A2	X8Y13	I層	縄文土器	鉢				中期後葉	串田新 II	7.5YR7/4	にぶい橙	胎土の特徴	縦隆帯上刺突	
215	31 A2	不明		縄文土器	鉢				中期後葉～	串田新 II	10YR7/4	にぶい黄橙	胎土の特徴	隆帯区画間刺突	
216	31 A2	SX115		縄文土器	鉢				中期後葉	串田新 II	7.5YR4/3	褐	胎土の特徴	斜縄文	
217	31 A2	T7		縄文土器	鉢		7.0		中期後葉～	串田新 II	10YR5/4	にぶい黄褐	胎土の特徴	縦沈線区画間刺突、横沈線	
218	31 A2	X12Y17	I層	縄文土器	鉢				中期後葉	串田新 II	5YR6/4	にぶい黄褐	胎土の特徴	斜縄文	
219	31 A2	X7Y5	I層	縄文土器	鉢				中期後葉～	串田新 II	10YR5/4	にぶい黄褐	胎土の特徴	斜縄文	
220	31 A2	X9Y8	I層	縄文土器	鉢				中期後葉～後期	串田新～気屋	7.5YR5/4	にぶい褐	胎土の特徴	横沈線	
221	31 A2	X5Y13	I層	縄文土器	鉢				中期後葉～後期	串田新～気屋	10YR6/6	明黄褐	胎土の特徴	縄文施文後無消し?	
222	31 A2	X8Y8	I層	縄文土器	鉢				後期前葉	気屋?	7.5YR4/1	褐灰	胎土の特徴	沈線による三角形文、堀之内系	
223	31 A2	T1	排土	縄文土器	鉢				後期前葉	気屋?	2.5YR6/6	橙	胎土の特徴	沈線?による渦巻文、堀之内系	
224	31 A2	T1 No.2		縄文土器	鉢				後期～?	串田新 II	7.5YR7/6	橙	胎土の特徴	羽状縄文	

※法量の数値は残存部が少なく計測不能な場合は空欄とした。
また、推定復元の場合()付とした。
土製品の法量は左から長さ、幅、厚さとし、備考に重さを記した。

第21表 舌山遺跡 石製品一覧

挿図	遺物	写真 図版	地区	遺構	出土地点	種類	石材	法量(cm・g)			備考	
								長さ	幅	厚さ		重さ
48	225	32,33	A1	SD3	X54Y45	打製石斧	蛇紋岩(透閃石岩)	14.07	6.87	3.33	432.98	
	226	32,33	A1	SD3	X63Y57	打製石斧	頁岩	11.71	4.7	1.79	121.16	
	227	32,33	A1	SD3	X62Y57	打製石斧	流紋岩	10.82	5.17	2.18	113.72	
	228	32,33	A1	SD3	X54Y45	打製石斧	蛇紋岩(透閃石岩)	19.27	9.14	4.11	1050.0	
	229	32,33	A1	SD3	X54Y45	打製石斧	結晶片岩	26.08	10.77	4.48	1900.0	
	230	32,33	A1	SD3	X54Y44 下層	打製石斧	結晶片岩	9.66	4.72	2.47	149.01	
	231	32,33	A1	SD3	X59Y54 下層	打製石斧	蛇紋岩(透閃石岩)	10.52	6.32	3.54	390.99	
	232	32,33	A1	SD3	X56Y48	打製石斧	流紋岩	9.18	5.65	1.88	114.78	
	233	32,33	A1	SD3	X61Y58	打製石斧	蛇紋岩(透閃石岩)	6.34	6.1	2.71	427.75	
	234	32,33	A1	SD3	X57Y53	打製石斧	流紋岩	12.64	5.66	0.96	68.63	
	235	35	A1	SD3	X54Y44	打製石斧	蛇紋岩(透閃石岩)	8.45	7.04	3.78	331.14	磨製石斧未成品か
	236	32,33	A1	SD3	X59Y53	打製石斧	蛇紋岩(透閃石岩)	9.58	5.78	2.69	171.63	
	49	237	34	A2	SK221		打製石斧	蛇紋岩(透閃石岩)	12.01	4.2	1.79	131.71
238		34	A2	SK223		打製石斧	流紋岩	11.33	4.84	1.56	110.63	
239		34	A2	SK241		打製石斧	緑色凝灰岩	11.67	5.68	2.22	149.64	
240		34	A2	SK230		打製石斧	流紋岩	8.45	4.05	1.62	70.93	
241		34	A2		X13Y10 Z48,430	打製石斧	緑色凝灰岩	11.28	5.49	2.45	170.52	
242		34	A2		T7	打製石斧	砂岩	11.55	5.25	2.61	162.51	
243		34	A1		X55Y50 I b層	打製石斧	流紋岩	11.86	5.42	2.71	186.68	
244		34	A1	SX57	X45Y46	打製石斧	流紋岩	10.86	5.03	2.05	148.04	磨製石斧未成品か
245		34	A1	SX107	X49Y46	打製石斧	蛇紋岩(透閃石岩)	10.5	5.46	2.01	161.49	
246		34	A1		X61Y51 III層	打製石斧	流紋岩	11.06	5.38	1.43	83.35	
247		34	A1		X64Y64 T7	打製石斧	結晶片岩	10.76	3.82	1.39	73.93	
248		35	A1	SD3	X58Y50	磨製石斧	蛇紋岩(透閃石岩)	9.77	5.82	1.95	214.28	
249		35	A1	SD3	X62Y61	磨製石斧	緑色凝灰岩	10.48	7.69	3.12	393.57	
250		35	A1	SD3	X61Y62	磨製石斧	蛇紋岩(透閃石岩)	6.29	6.06	1.75	108.39	
251		35	A1	SD3	X54Y48 下層	磨製石斧未成品	蛇紋岩(透閃石岩)	11.44	7.88	4.31	427.75	
252		35	A1	SD3	X60Y53	磨製石斧	蛇紋岩(透閃石岩)	3.93	2.9	0.81	9.30	
253		34	A1	SD3	X60Y60	石鏃	瑪瑙	2.23	1.48	0.31	890.0	
50	254	36	A1	SI1	X63Y52	砥石	砂岩	30.74	18.08	10.51	6500.0	
	255	36	A1	SI1	X63Y52	石皿?	砂岩	27.78	15.39	7.34	2500.0	
	256	36	A2	SK222		砥石	砂岩	13.15	6.84	2.44	235.56	
	257	36	A1	SD3	X54Y48 下層	砥石	花崗岩	12.76	7.45	5.96	735.0	
	258	36	A1	SD3	X52Y44	石皿or砥石	砂岩	7.94	8.39	3.95	237.75	
	259	36	A1		X54Y49	石皿or砥石	砂岩	15.84	12.57	6.02	1235.0	
	260	36	A1		X47Y46	砥石?	流紋岩	9.71	4.59	2.88	135.84	
	261	36	A1		X65Y52 I層	石皿or砥石	砂岩	8.35	7	3.46	182.95	
262	34	A2		X7Y9	勾玉か?	凝灰岩?	5.46	3.92	1.34	15.30		

※石材は第IV章「1 富山県舌山遺跡・若栗中村遺跡における石材鑑定」に詳しい。
 表中で「蛇紋岩(透閃石岩)」としているものは、従来、蛇紋岩と称されてきたものだが、
 石材鑑定の結果、比重等により透閃石岩と判別されたものである。
 ここでは、従来との比較のため「蛇紋岩(透閃石岩)」と表記する。

第V章 宮沢積迦遺跡

1 概要

宮沢積迦遺跡は、昭和60年に県教委と富山県埋蔵文化財センターが実施した分布調査により新たに発見された遺跡である。今回の調査区は、北陸新幹線の本線及び変電所建設予定地の一部1,214m²である。水田化のための地形改変が繰り返し行われており、検出した遺構は竪穴建物の痕跡、溝、土坑、倒木痕である。竪穴建物はほ場整備等の削平のため、炉跡を中心にピット群を部分的に検出したのみであるが、出土遺物から縄文時代後期中葉の時期のものと考えられる。

2 基本層序

遺跡は、黒部川左岸の扇状地西端の段丘上、舌状に張り出す台地先端に立地している。本来は丘陵傾斜面にあるが、水田化のための地形改変が激しく、調査区中央から北東側については、戦後のほ場整備によって2m弱の盛土が行われている。このため、浅いところでは耕作土直下に地山層が露出する。基本層序は概ね、Ⅰa層：表土、Ⅰb層：淡黄色強粘土（盛土）、Ⅰc層：褐灰色粘質土または灰オリーブ色強粘質土（旧表土・旧耕作土）、Ⅱ層：灰褐色粘土質シルト（包含層）、Ⅲ層：明黄褐色粘質土（遺構検出面・地山）となっており、Ⅱ層は南西側及び中央部の一部に僅か0.1m程度残存するのみである。Ⅰb層は昭和50年代のほ場整備によるもので、ほ場整備により南西側から中央付近までは削られ、北東側は最大1.7mの盛土が行われる等の著しい地形改変を受けている。Ⅰc層は、ほ場整備以前の棚田状の水田に伴う耕作土及び表土で、近世以前には遡らない時期のものである。

3 遺構・遺物

A 竪穴建物

1号竪穴建物（S I 1, 第53・54図, 図版37・38）

調査区中央付近に位置する。昭和50年代のほ場整備等による削平が激しく、平面プランを確認していないが、柱穴と考えられるピット群を囲む範囲を竪穴建物と想定している。包蔵地確認調査時のトレンチの断面観察では、炭化物混じりの黒褐色粘土質シルトがⅡ層直下に0.16m程堆積しており、S I 1の埋土と考えられる。中央に位置するS K 24は包蔵地確認調査時に確認された土器埋設穴^{註1}で、土器の胴部径は約25cmを測る。土器の周囲は固く焼け締まっており、土器内の埋土は炭化物を多く含む黒色粘土質シルトで、竪穴建物に伴う炉と考えられる。埋設土器を囲むように石を据えていた痕跡と考えられる窪みがあり、周辺排土からは被熱した石を多数確認していることから、石組炉であった可能性が高いと考える。出土遺物はS K 24の埋設土器（1）のほか、S P 22, S P 23, S P 25, S P 35から縄文土器が出土している。1は縦位にR L縄文を施した深鉢で、被熱のためか胴部下半の縄文は不鮮明である。内面にはコゲ（スス）が4cm幅の帯状に付着する。2は無文の鉢底部である。3・4はおそらく1の胴部破片とみられる。縄文時代後期のものか。

B 土坑

5号土坑（SK5，第54図，図版38）

調査区中央付近に位置する。長さ4.48m，幅0.88m，深さ0.1mを測る不整形土坑で，埋土は灰黄色粘質土の単層である。SK5は，Ic層直下から掘り込むことや，出土遺物から判断して近世以降の遺構と考えられる。出土遺物は，志野(20)のほか混入と考えられる縄文土器（6）がある。20は志野の三足鉢の底部で，内面見込みまで鉄釉がかかる。16世紀代以降のものか。6は押型文の土器片で，縄文時代早期前葉のものであろう。県内では魚津市桜峠遺跡^{注2}に類例がみられる。

C 包含層出土遺物

縄文土器（第54図，図版38）

遺物量は少なく，小片のため詳細は不明であるが，概ね後期中葉を中心とする時期に収まるものであろう。7は沈線区画内に貝殻復縁による押圧文。8は櫛描文をもつもので，中期後葉（串田新II式）のものか。9・12～15は横位の沈線で画された羽状縄文を施すもので，後期中葉，加曾利B式並行のものか。12は補修孔であろうか径約1cmの小さい孔があく。

土器（第54図，図版38）

表土から少量の近世陶磁器が出土している。18・19は唐津の椀で，内面に三足付ハマによると思われる目跡がみられる。ハマをあてて窯詰めする方法は17世紀後半に用いられ始めることから^{注3}，18世紀代のものと思われる。内外面に灰釉が施される。

石製品（第54図，図版35）

17は定角式磨製石斧。刃部は欠損しているが，基部に比べ刃部が開き気味になると思われる。胴部断面形は三味線胴形に膨らむ。石材は蛇紋岩（透閃石岩）。

金属製品（第54図，図版20）

21は煙管。羅宇は竹製のものが一般的であるが，21は金属製で，雁首に差し込まれたままの状態出土した。吸い口は欠損する。雁首の形態からは18世紀後半代のものと考えられる。

4 まとめ

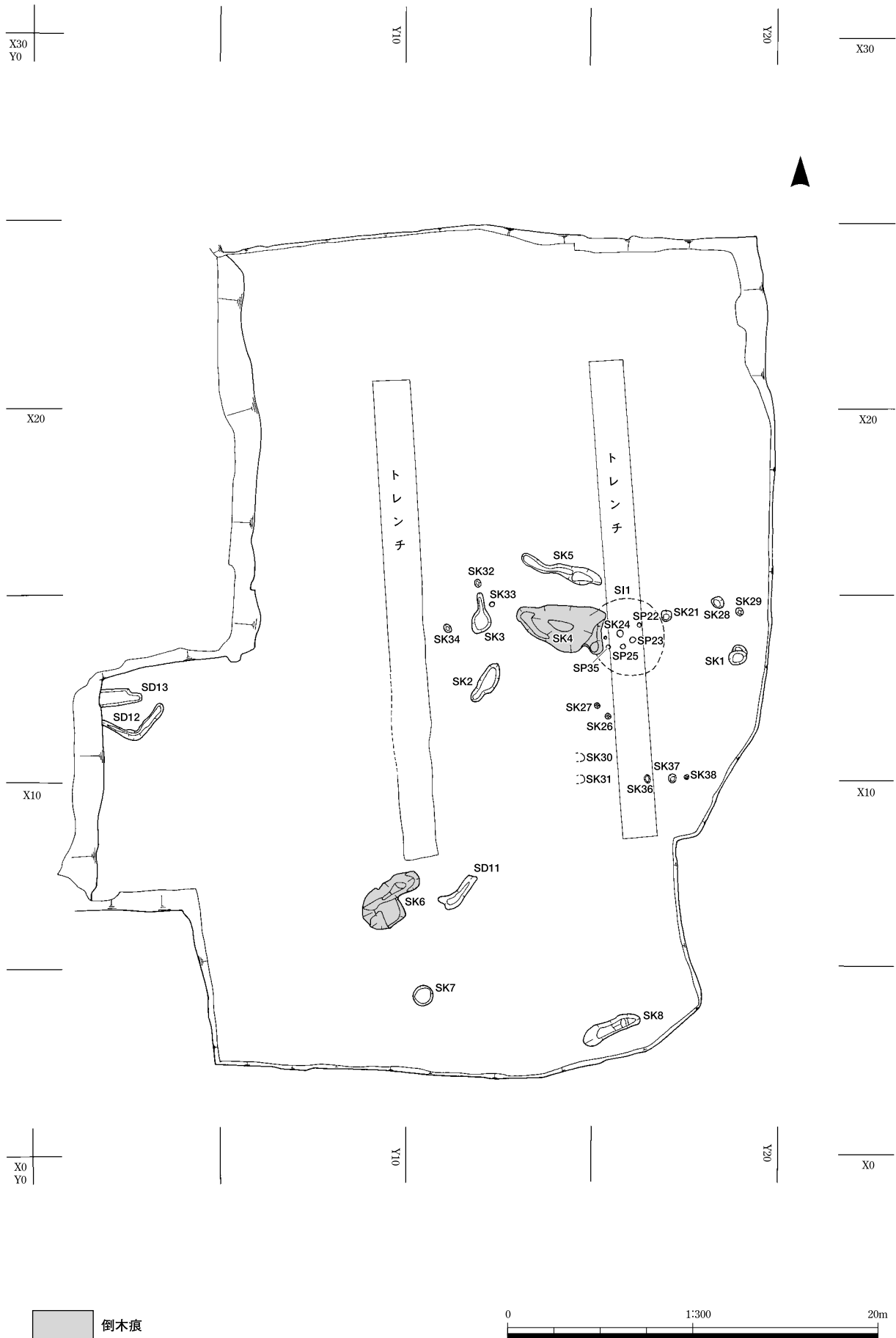
宮沢积迦遺跡ではほ場整備等による地形改変が著しく，堅穴建物1棟，溝3条，土坑13基，倒木痕2箇所を確認したのみである。遺構のほとんどは出土遺物もなく，盛土もしくは表土直下での検出であるため，帰属時期が不明なものが多いが，堅穴建物S I 1は，中央に石組炉を持つ縄文時代後期の建物と考えられる。出土遺物は少なく，後期のものが大半を占めるが，早期，中期の土器もわずかながら混じっている。遺跡周辺の黒部川左岸丘陵上には，宮野遺跡，新坂遺跡，枕野遺跡，前沢遺跡，田家遺跡，大源寺遺跡等の縄文時代の遺跡が数多く立地しており，宮沢积迦遺跡を含め，周辺に当該時期の生活域が広がっていたものと想定できる。

注

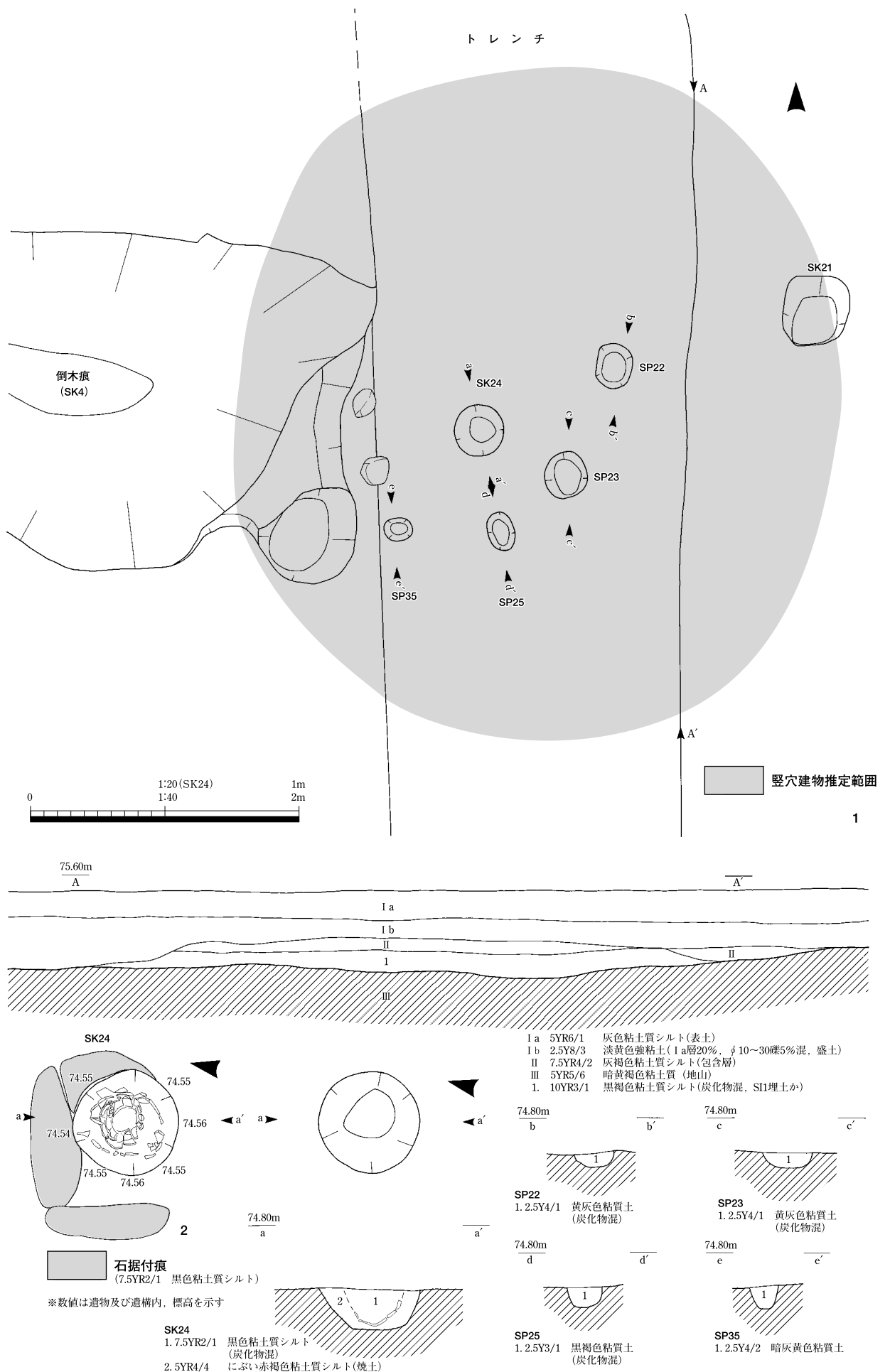
注1 財団法人富山県文化振興財団 2004『北陸新幹線関係埋蔵文化財包蔵地調査報告（4） HS-10埋蔵文化財包蔵地・HS-15埋蔵文化財包蔵地・HS-16埋蔵文化財包蔵地・舌山遺跡』

注2 魚津市役所 1968『魚津市史 上巻』

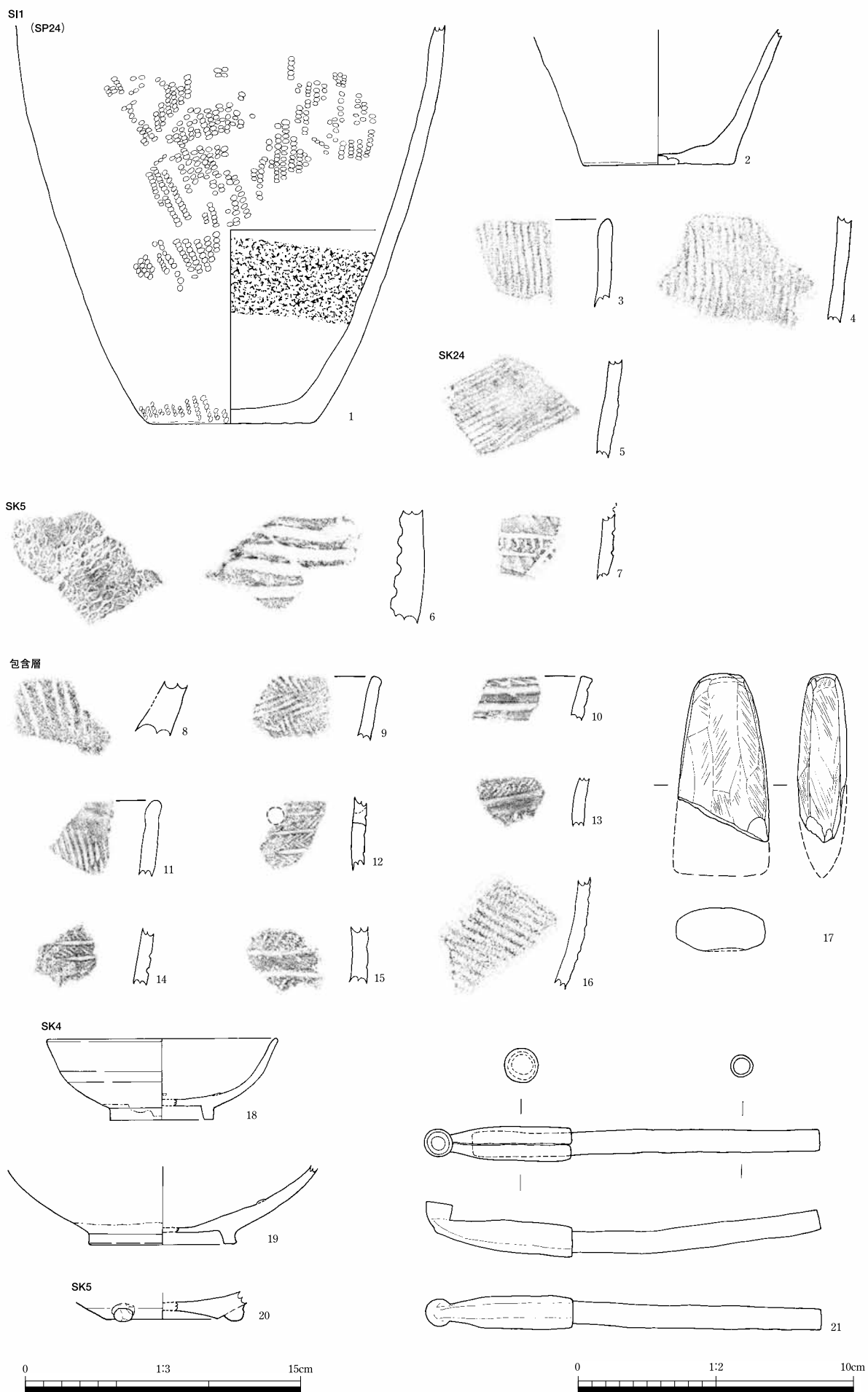
注3 大橋康二 1989『肥前陶磁』考古学ライブラリー55 ニュー・サイエンス社



第52図 宮沢釈迦遺跡 遺構全体図 (1:300)



第53図 宮沢釈迦遺跡 遺構実測図
1. S11 2. SK24遺物出土状況



第54図 宮沢积迦遺跡 遺物実測図 (21 1/2, 1~20 1/3)
S11(1~5) SK4(18) SK5(6・7・20) 包含層

第22表 宮沢釈迦遺跡 竪穴建物一覧

建物番号	規模(m)			出土遺物	時期	備考	挿図番号	写真図版
	長さ	幅	深さ					
SI1	(4.80)	(4.50)	0.16	縄文土器	縄文中期後葉	柱穴4本, 石組炉	53	37

※規模の()付数値は推定範囲の規模を示す。

第23表 宮沢釈迦遺跡 柱穴・炉一覧

遺構番号	遺構種類	平面形	規模(m)			出土遺物	時期	備考	挿図番号	写真図版
			長さ	幅	深さ					
SP22	柱穴	円	0.28	0.26	0.10		縄文中期後葉	SI1の柱穴	53	
SP23	柱穴	円	0.36	0.32	0.12		縄文中期後葉	SI1の柱穴	53	
SP25	柱穴	楕円	0.28	0.18	0.15		縄文中期後葉	SI1の柱穴	53	
SP35	柱穴	円	0.20	0.17	0.18		縄文中期後葉	SI1の柱穴	53	
SK24	炉	円	0.40	0.35	0.14	縄文土器	縄文中期後葉	埋設土器出土 石組炉の可能性	53	37

第24表 宮沢釈迦遺跡 溝一覧

遺構番号	規模(m)		出土遺物	時期	備考	挿図番号	写真図版
	幅	深さ					
SD11	0.54	0.18					
SD12	0.56	0.16					
SD13	0.88	0.17					

第25表 宮沢釈迦遺跡 土坑一覧

遺構番号	平面形	規模(m)			出土遺物	時期	備考	挿図番号	写真図版
		長さ	幅	深さ					
SK1	楕円	1.08	0.80	0.46					
SK2	不整	1.92	0.54	0.24					
SK3	不整	2.12	0.96	0.08					
SK4	不整	3.92	2.48	0.08	唐津		倒木痕		
SK5	不整	4.48	0.88	0.10	縄文土器, 志野?, 越中瀬戸	近世			
SK6	不整	3.80	2.20	0.70			倒木痕		
SK7	円	1.10	1.00	0.90					
SK8	不整	3.08	0.88	0.28					
SK21	円	0.50	0.48	0.28					
SK28	円	0.64	0.52	0.18					
SK29	円	0.36	0.34	0.12					
SK34	円	0.46	0.30	0.10					
SK36	円	0.34	0.28	0.08					
SK37	円	0.44	0.38	0.17					
SK38	円	0.26	0.22	0.14					

第26表 宮沢釈迦遺跡 縄文土器・陶磁器一覧表

挿図	遺物	写真図版	遺構	出土地点	種類	器種	法量(cm)				時期	詳細時期	胎土色調		釉色調		備考
							口径	器高	底径	高台径			記号	色名	記号	釉色	
54	1	38	SI1 (SK24)	トレンチ	縄文土器	鉢			9.0		後期		7.5YR6/6	橙			縦縄文, 被熱, 炉内埋設
	2	38	SI1	X14Y16	縄文土器	鉢			8.0		縄文		10YR4/2	灰黄褐			無文
	3	38	SI1	X14Y16	縄文土器	鉢					後期		7.5YR6/6	橙			縦縄文, 1と同一個体か
	4	38	SI1	X14Y16	縄文土器	鉢					後期		10YR5/3	にぶい黄褐			縦縄文, 1と同一個体か
	5	38	SI1 (SK24)		縄文土器	鉢					後期		7.5YR4/3	褐			斜縄文
	6	38	SK5		縄文土器	鉢					早期前葉		10YR6/3	にぶい黄橙			押型文, 繊維入り
	7	38	SK5		縄文土器	鉢					中期後葉	串田新	7.5YR3/1	黒褐			沈線区画, 貝殻復縁押圧
	8	38		XY不明	縄文土器	鉢					中期後葉	串田新	7.5YR7/6	橙			櫛描文
	9	38		X10Y11 I層	縄文土器	鉢					後期中葉	酒見?	10YR5/3	にぶい黄褐			羽状縄文
	10	38		X10Y12 I層	縄文土器	鉢					後期中葉	井口	2.5Y5/2	暗灰黄			平行沈線, 口縁部キザミ
	11	38		X4Y13 I層	縄文土器	鉢					後期中葉	加曾利B並行	10YR6/4	にぶい黄橙			縦縄文
	12	38		X4Y13 I層	縄文土器	鉢					後期中葉	加曾利B並行	10YR5/4	にぶい黄褐			補修孔? 沈線区画, 羽状縄文
	13	38		X4Y13 I層	縄文土器	鉢					後期中葉	加曾利B並行	10YR5/4	にぶい黄褐			羽状縄文
	14	38		X4Y13 I層	縄文土器	鉢					後期中葉	加曾利B並行	10YR6/6	明黄褐			羽状縄文
	15	38		X4Y13 I層	縄文土器	鉢					後期中葉	加曾利B並行	5YR6/4	にぶい橙			羽状縄文
	16	38		X15Y20 I層	縄文土器	鉢					後期?		10YR5/3	にぶい黄褐			斜縄文
	18	38	SK4		唐津	椀	12.4	4.3		5.6	近世	18世紀	2.5Y5/3	黄褐	2.5Y5/2	暗灰黄	重ね焼き
	19	38	SK4	X4Y13 I層	唐津	椀				7.8	近世	18世紀	5Y7/2	灰白	5Y6/3	オリーブ黄	重ね焼き
	20	38	SK5		志野?	鉢			6.0		近世	16世紀~?	10YR7/4	明黄褐	5YR3/4	暗赤褐	三足鉢

※法量の数値は残存部が少なく計測不能な場合は空欄とした。

第27表 宮沢釈迦遺跡 石製品一覧

挿図	遺物	写真図版	出土地点	種類	石材	法量(cm・g)			
						長さ	幅	厚さ	重さ
54	17	35	X12Y14 I層	磨製石斧	蛇紋岩(透閃石岩)	9.1	4.8	2.6	153.92

※石材は第VI章「1 富山県舌山遺跡・若栗中村遺跡・宮沢釈迦遺跡における石材鑑定」に詳しい。表中で「蛇紋岩(透閃石岩)」としているものは、従来、蛇紋岩と称されてきたものだが、石材鑑定の結果比重等により透閃石岩と判別されたものである。ここでは、従来との比較のため「蛇紋岩(透閃石岩)」と表記する。

第28表 宮沢釈迦遺跡 金属製品一覧

挿図	遺物	写真図版	出土地点	種類	材質	法量(cm・g)				備考
						長さ	幅	厚さ	重さ	
54	21	20	X15Y20 I層	煙管	銅?	14.2	0.79	0.78	36.88	雁首・羅宇ともに金属製

第VI章 自然科学分析

若栗中村遺跡・舌山遺跡では、遺物整理期間（平成20年度）に自然科学分析を行い、広い分野からの遺跡の理解を深めることに努めた。

石材鑑定は3遺跡出土の石製品について、朝日町の竹ノ内Ⅱ遺跡・柳田遺跡・下山新東遺跡・下山新遺跡と併せて鑑定を行い^{注1}、当時の石材利用を検討することを目的とした。

骨同定は、若栗中村遺跡において、近世と考えられる土坑内から焼土とともに出土した焼骨やカクラン出土の獣骨と考えられる骨を対象とした。土坑内埋土は水洗および同定可能な骨片の選別を含めて行い、人・鳥・獣・魚等の種を同定し、当時の環境や、動物資源の利用法や食生活・生業等の情報を得ることを目的とした。

放射性炭素年代測定は、若栗中村遺跡の焼土や骨片を含む土坑出土の炭化材および、舌山遺跡の縄文時代中期と考える竪穴建物・溝・土坑出土の炭化材を試料とし、各遺構および遺跡の実年代を検討することを目的として行った。

各分析の種類、対象、分析者等は以下に一覧表で示す。

分析種類	分析名	分析者名	分析年度	対象	
石材鑑定	富山県舌山遺跡・若栗中村遺跡・宮沢釈迦遺跡における石材鑑定	(株)古環境研究所	平成20年度	舌山遺跡	石製品 39点
				若栗中村遺跡	石製品 4点
				宮沢釈迦遺跡	石製品 1点
骨片同定	若栗中村遺跡出土骨（動物遺存体）同定	(株)加速器研究所		若栗中村遺跡	骨片 6式
放射性炭素年代測定	若栗中村遺跡、舌山遺跡における放射性炭素年代測定			舌山遺跡	炭化物 4点
				若栗中村遺跡	炭化物 1点

第29表 自然科学分析一覧

注

注1 財団法人富山県文化振興財団 2009『竹ノ内Ⅱ遺跡・柳田遺跡・下山新東遺跡・下山新遺跡発掘調査報告―北陸新幹線建設に伴う埋蔵文化財発掘報告Ⅰ―』

1 富山県舌山遺跡・若栗中村遺跡・宮沢釈迦遺跡における石材鑑定

株式会社古環境研究所

1. はじめに

舌山遺跡，若栗中山遺跡，宮沢釈迦遺跡で出土した石器等44点について，肉眼および双眼実体顕微鏡（20倍）を用い，岩石表面に現れている組織や構成鉱物を中心に石材の岩石種判定を実施した。また，一部の試料については比重を計測し，岩石種判定の判断基準に加えた。

2. 石材の判定基準

1) 砂岩

細粒の碎屑粒子である砂粒（粒径1/16～2mm，石英粒を主とするものが多い）から構成される。アプライト・中粒凝灰岩との判別が難しいことがある。なお，粒子の配列に方向性のあるものを砂岩（片状砂岩）とした。

2) 頁岩

中・古生層起源のものを対象とする。極めて細粒の碎屑粒子である泥（粒径1/16mm～1/256mmのシルトおよび1/256mm以下の粘土）から構成される。暗灰色～黒色のものが多く，細粒で肉眼では粒子を認めることができない。厳密には平らな面で割れる性質を有する泥岩を指すが，平らな面で割れる性質の認められない泥岩も含め頁岩とする。

3) 粘板岩（写真003）

頁岩と同じく細粒で肉眼では粒子が認められない。薄く平に剥がれる性質が顕著なもので，変成岩に分類される場合が多い。暗灰色～黒色のもの，褐色を帯びたものなどがある。写真で鳴滝石としたものは，京都市北部に分布する砥石として有名な粘板岩である。

4) 凝灰岩（写真004）

砂岩や泥岩に似るが，石英粒子がほとんど認められない点や，粉っぽい感じがする点で判断する。砂岩や泥岩と判別が難しいことも多々ある。緑色でないものを凝灰岩とした。

5) 緑色凝灰岩

緑色を呈する凝灰岩類の中で，構成粒子が細粒の砂岩～泥岩程度の粒径と判断したもの。

6) 結晶質凝灰岩

長柱状の白い鉱物と暗緑色の鉱物から構成され，組織はドレライトに類似する。所々に暗緑色の塊が認められる。ドレライトと判定される事がある。比重が2.55と2.75でドレライトにしては小さい。

7) 流紋岩

SiO₂が70%以上の火山岩で，石英斑晶が認められる場合が多い。色は白色もしくは明灰色の事が多い。本遺跡では褐色を帯びたものが多い，石英の斑晶の認められるものが多い。デイサイトとの判別は困難である。現状の判別精度では，次に述べるデイサイトと合わせ，流紋岩類として扱うべきと考える。

8) デイサイト

斑状組織を示し安山岩に似るが，有色鉱物が少なく，全体としての色が明灰色を呈したり，石英の斑晶が認められるもの。流紋岩との判別は困難な場合が多い。流紋岩と合わせて流紋岩類とする。

9) かこう岩

粗粒で等粒状。無色鉱物は透明感のある石英と白く不透明な長石（長石がピンク色を呈する場合もある）が80%前後を占める。有色鉱物は20%前後占めるが、黒雲母が主で角閃石は少量である場合が多い。見かけの特徴では有色鉱物の量比で閃緑岩と区別するが、有色鉱物の量比は連続的に変化するため境界付近では判断が難しい。

10) 透閃石岩

透閃石（トレモライト）から構成される、淡帯緑白色～灰緑色で、磨くと明瞭な光沢が生ずる。肉眼的には、色と曲がりくねった繊維状の模様、明瞭な光沢が目安となる。従来、蛇紋岩と判定されてきたが、比重およびX線解析による分析から、蛇紋岩ではなく透閃石岩であることが明らかとなった。構成粒子など判定基準が見つげにくい。

11) 結晶片岩（写真011）

片理が認められ、剥がれる性質は顕著であり、結晶片岩であることは明らかであるが、それ以上の細分化した名称を判定できなかったもの。

12) メノウ

粒状感が無く乳白色～少し褐色を帯びた半透明な、曇りガラスのような外観を呈する。白色のチャートおよび石英との判別は難しい場合がある。

3. 代表的器種の構成岩種について

1) 打製石斧（23点）

流紋岩が8点、デイサイトが1点と流紋岩類が39.1%と最も多く、次いで透閃石岩が7点30.4%と多い。結晶片岩が3点13.0%、他に砂岩・頁岩・緑色凝灰岩・結晶質凝灰岩など8種類の石材から構成されている。

2) 磨製石斧類（7点／磨製石斧・磨製石斧未製品）

透閃石岩が多く6点85.7%を占める。他にかこう岩が1点の計2種類の石材から構成されている。透閃石岩が高い比率を占める点は本遺跡の特徴と言える。

3) 叩石（1点）

かこう岩が1点である。

4) 石皿類（4点／石皿・石皿or砥石）

4点いずれも砂岩である。

5) 石鏃（1点）

メノウが1点である。

6) 砥石（7点）

流紋岩が4点57.1%と特に多く、他に砂岩が2点28.6%、粘板岩が1点14.3%である。出土遺物の時期や時代を考慮すると、砂岩は縄文時代、粘板岩は中世なりの歴史時代、流紋岩もほとんどは歴史時代のものと推定される。粘板岩は灰褐色の極めて細粒で均質な京都の鳴滝石と推定され、仕上げ砥として有名な石材である。流紋岩は中砥であり、鎌などを研ぐのに多用される石材である。砂岩は歴史時代でも荒砥として用いられるが、縄文時代に出土する砥石のほとんどは砂岩製である。粒度も細粒から粗粒まであり、当時としての荒砥・中砥・仕上げ砥としての用途を想像させるものである。

7) 装飾品類（1点／勾玉）

凝灰岩が1点である。

4. 所見

器種毎に石材選択に明らかな違いが存在し、石材選択の違いの要因として物性選択が推定される。また、関東地方との交流を想像させる石材も認められ、朝日町の下山新遺跡、下山新東遺跡、竹ノ内Ⅱ遺跡および柳田遺跡同様、当該時代における他地域との関わりを検討する上での有力な情報を内包する遺跡群と考えられる。

表1 舌山遺跡・若栗中村遺跡・宮沢釈迦遺跡の石材鑑定結果

No.	遺跡名	遺物	器種	石材名	備考	比重	重量	体積
510	舌山	253	石鏃	メノウ				
511	舌山	229	打製石斧	結晶片岩				
512	舌山	228	打製石斧	透閃石岩				
513	舌山	230	打製石斧	結晶片岩				
514	舌山	226	打製石斧	頁岩				
515	舌山	232	打製石斧	流紋岩				
516	舌山	250	磨製石斧	透閃石岩				
517	舌山	249	磨製石斧	結晶質凝灰岩		2.75	393.71	143.2
518	舌山	248	磨製石斧	透閃石岩				
519	舌山	252	磨製石斧	透閃石岩				
520	舌山	244	打製石斧	流紋岩				
521	舌山	247	打製石斧	結晶片岩				
522	舌山	246	打製石斧	流紋岩				
523	舌山	227	打製石斧	流紋岩				
524	舌山	233	打製石斧	透閃石岩		3.01	171.82	57.07
525	舌山	251	磨製石斧未製品?	透閃石岩				
526	舌山	231	打製石斧	透閃石岩				
527	舌山	235	磨製石斧未製品?	透閃石岩				
528	舌山	225	打製石斧	透閃石岩				
529	舌山	234	打製石斧	流紋岩				
530	舌山	236	打製石斧	透閃石岩				
531	舌山	258	石皿or砥石	砂岩				
532	舌山	257	叩石	かこう岩				
533	舌山	261	石皿or砥石	砂岩				
534	舌山	260	砥石?	流紋岩				
535	舌山	259	石皿or砥石	砂岩				
536	舌山	254	砥石	砂岩				
537	舌山	245	打製石斧	透閃石岩				
538	舌山	255	石皿?	砂岩				
539	舌山	237	打製石斧	透閃石岩		2.99	131.74	44.11
540	舌山	240	打製石斧	流紋岩				
541	舌山	241	打製石斧	緑色凝灰岩				
542	舌山	239	打製石斧	結晶質凝灰岩		2.55	149.69	58.74
543	舌山	238	打製石斧	流紋岩				
544	舌山	262	勾玉?	凝灰岩		2.57	15.08	5.87
545	舌山		砥石?	流紋岩				
546	舌山	256	砥石	砂岩				
547	舌山	242	打製石斧	砂岩				
548	舌山	243	打製石斧	流紋岩				
549	若栗中村		砥石	粘板岩	鳴滝石			
550	若栗中村	97	砥石	流紋岩				
551	若栗中村	96	砥石	流紋岩				
552	若栗中村	24	打製石斧	デイスイト				
141	宮沢釈迦	17	磨製石斧	透閃石岩				

表2 器種毎構成岩種表

大分類	中分類	石材名	打製石斧	磨製石斧	磨製石斧未製品	叩石	石皿	石皿 or 砥石	石鏃	砥石	勾玉?	総計
堆積岩	砕屑岩	砂岩	1				1	3		2		7
		頁岩	1									1
		粘板岩								1		1
	火山砕屑岩	凝灰岩									1	1
		緑色凝灰岩	1									1
		結晶質凝灰岩	1	1								2
火成岩	火山岩	流紋岩類 流紋岩	8							4		12
		デイサイト	1									1
	深成岩	かこう岩				1						1
変成岩	広域変成岩	結晶片岩類 透閃石岩	7	4	2							13
		結晶片岩	3									3
鉱物		メノウ						1				1
総計			23	5	2	1	1	3	1	7	1	44

表3 点数の多い器種の比率表

大分類	中分類	石材名	打製石斧		磨製石斧類		叩石類		石皿類		石鏃全体		砥石		勾玉?		
			点	(%)	点	(%)	点	(%)	点	(%)	点	(%)	点	(%)	点	(%)	
堆積岩	砂岩	砂岩	1	4.3						4	100.0			2	28.6		
		頁岩	1	4.3													
	火山砕屑岩	粘板岩												1	14.3		
		凝灰岩														1	100.0
		緑色凝灰岩	1	4.3													
		結晶質凝灰岩	1	4.3	1	14.3											
火成岩	火山岩	流紋岩	8	34.8										4	57.1		
		デイサイト	1	4.3													
	深成岩	かこう岩						1	100.0								
		透閃石岩	7	30.4	6	85.7											
変成岩	広域変成岩	結晶片岩類	3	13.0													
		メノウ										1	100.0				
鉱物		総計	23	100.0	7	100.0	1	100.0	4	100.0	1	100.0	7	100.0	1	100.0	

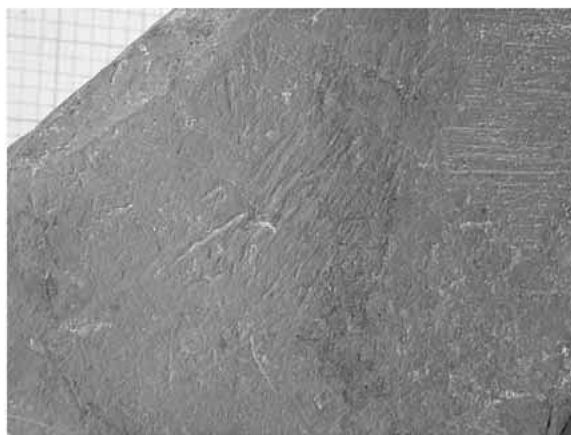
表4 比重計測結果表

比重	下呂石	サヌカイト	ガラス質安山岩	流紋岩	デイサイト	砂岩	頁岩	ホルンフェルス	硬質頁岩	凝灰岩	結晶質凝灰岩	ドレライト	滑石	蛇紋岩	透閃石岩	結晶片岩	角閃岩	緑色岩	翡翠
2.55											1								
2.57										1									
2.75											1								
2.99															1				
3.01															1				
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	2	0	0	0	0

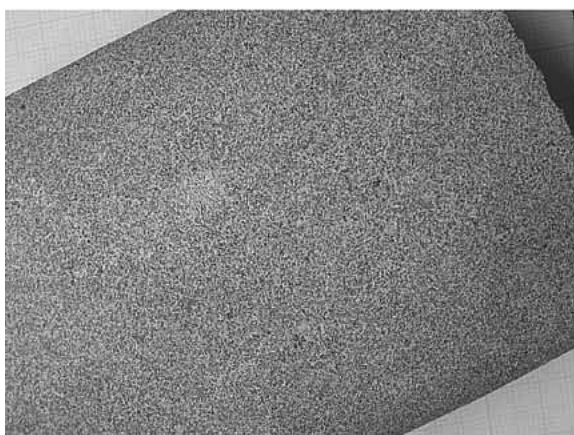
舌山遺跡外の石器写真



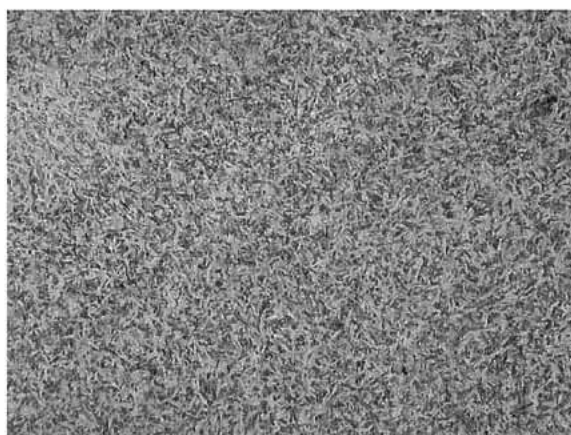
003鳴滝石3



003鳴滝石3 (拡大)



004凝灰岩b1



004凝灰岩b1 (拡大)



011結晶片岩1



011結晶片岩1 (拡大)

2 若栗中村遺跡出土骨（動物遺存体）同定

京都大学大学院 納屋内高史
奈良文化財研究所 松井 章

1. はじめに

一般に日本の国土は、火山灰性の酸性土壤に広く覆われ、動物遺存体の保存状態には恵まれていない。そのため、遺跡で動物遺存体が出土するのは貝塚、石灰岩地帯の洞穴や岩陰が代表的で、近年では湿地環境の遺跡や遺構からも多くの動物遺存体が報告されつつある。しかし、乾燥した沖積平野では、ほとんどの動物遺存体が長い年月の間に腐食し、土に還ってしまっている。その中でも動物の歯、特にエナメル質は、動物骨格の中でも腐食に強く、特に大きく堅固なウシやウマの臼歯のエナメル質が、乾燥環境から出土する例は珍しくなく、微細な魚骨の歯のエナメル質は、発掘中に肉眼で採取することは不可能であるが、遺構埋土を1 mm以上のフルイで篩うことによって採取できることがある。そうした哺乳類や魚類の歯のエナメル質、灰化して無機化した微細な獣魚骨からそれぞれの種を同定し、その生態的情報を援用して当時の環境を復原したり、過去の人々の生業や食生活を知ることができる。

2. 試料

試料は、若栗中村遺跡より出土した動物骨、及び遺構SK18, SK38の土壤サンプル計6点である。

3. 方法

発掘中に取り上げられたものについては、試料を肉眼で観察し、形態的特徴及び現生標本との対比により同定を行った。また、土壤サンプルについては1 mm目のフルイで水洗選別をおこなった上で、肉眼及び双眼実態顕微鏡で観察し、同定を行った。

4. 結果

(1) 分類群

試料のほとんどは焼けて細片化が著しく、種まで同定できたものはごくわずかにとどまる。種まで同定できた動物遺存体は哺乳類3種15点である。また、これ以外に同定不可能な未被熱骨片が1点出土しているほか、焼骨片が187.3g、およそ1900点出土している。出土した動物遺存体の種名及び部位を表1に示し、主要な分類群を写真に示す。

[哺乳綱]

食肉目 Carnivora

イヌ科 Canidae

イヌ科の一種 *Canidae gen. et sp. indet.*

イヌ *Canis familiaris*

偶蹄目 Artiodactyla

ウシ科 Bovidae

ウシ *Bos taurus*

（2）動物遺存体の特徴

出土した動物遺存体は遺構内から出土したものは焼けて破片化が著しいのに対し、遺構外から出土したものについては熱を受けておらず、保存状態は比較的良好である。以下、同定できた種ごとにその特徴を記載する。また、地点ごとの出土状況を表2に示す。

イヌ科

A2区カクラン2から椎骨1点、肩甲骨（左）1点の計2点が出土している。すべて熱を受けた痕跡は見られなかった。破片化が著しく、種まで同定することはできなかった。大きさは手元にあるシバイヌ程度の大きさのイヌの標本と同大であった。解体痕などの人為的な傷は見られなかった。

・イヌ

A2区カクラン2から頭蓋骨1点、歯（犬歯）1点、椎骨3点、上腕骨（左1,右1）2点、尺骨（左1,右1）2点、脛骨（右）2点の計11点が出土している。すべて熱を受けた痕跡は見られなかった。シバイヌ程度の大きさのイヌの標本と同大のものが7点出土しているほか、それよりも一回りから二回り大型の個体と思われるものが4点出土している。大型の個体と思われるもののうち、特に脛骨1点については、その計測値から長谷部（1952）の基準で中大級に相当する。解体痕などの人為的な傷は見られなかった。

・ウシ

B区から寛骨（左）1点、大腿骨（右）1点の計2点が出土している。すべて熱を受けた痕跡は見られなかった。2点とも小型でかつ骨端が癒合しておらず、幼獣のものと考えられる。解体痕などの人為的な傷は見られなかった。

5. まとめ

上記の動物遺存体は、中世の遺物が出土する遺構、及び堆積層から出土した資料である。遺構内から出土したものは焼けて細片化が著しく、同定できるものはなかった。イヌについては少なくとも2種類の大きさのイヌが利用されていたことがわかる。また、ウシについては幼獣の利用がおこなわれていたことがわかる。

参考文献

長谷部言人1953「第五章 犬骨」『吉胡貝塚』文化財保護委員会. pp. 165-150

表1 若栗中村遺跡の動物遺存体同定結果

遺跡名	遺構	日付	種別	種名	部位	部分	左右	破片数	重量(g)	備考
07WN-A1	SK18	030618	哺乳類	不明	四肢骨	骨幹部		1	3.2	被熱
07WN-A1	SK18	030618	哺乳類	不明	四肢骨	骨幹部		1	0.4	被熱
07WN-A1	SK18	030618	哺乳類	不明	四肢骨	骨幹部		1	0.9	被熱
07WN-A1	SK18	030618	哺乳類	不明	不明	骨端部		1	0.1	被熱
07WN-A1	SK18	030618	不明	不明	不明			複数	5.1	被熱
07WN-A1	SK18	030627	哺乳類	不明	椎骨	椎体		1	0.6	被熱
07WN-A1	SK18	030627	哺乳類	不明	不明	骨端部		1	0.1	被熱
07WN-A1	SK18	030627	不明	不明	不明			複数	15.4	被熱
07WN-A1	SK38	030630	不明	不明	不明			複数	119.4	被熱
07WN-A1	SK46	030630	哺乳類	不明	肋骨	骨幹部		1	0.4	被熱
07WN-A1	SK46	030630	哺乳類	不明	肋骨	骨幹部		1	0.3	被熱
07WN-A1	SK46	030630	哺乳類	不明	肋骨	骨幹部		1	0.8	被熱
07WN-A1	SK46	030630	哺乳類	不明	肋骨	骨幹部		1	0.5	被熱
07WN-A1	SK46	030630	哺乳類	不明	肋骨	骨幹部		1	0.6	被熱
07WN-A1	SK46	030630	哺乳類	不明	肋骨	骨幹部		1	0.1	被熱
07WN-A1	SK46	030630	哺乳類	不明	不明	骨端部		1	0.5	被熱
07WN-A1	SK46	030630	哺乳類	不明	不明	骨端部		1	0.7	被熱
07WN-A1	SK46	030630	不明	不明	不明			複数	12.6	被熱
07WN-A2	SK222	031125	不明	不明	不明			複数	25.6	被熱
07WN-A2	カクラン2	031201	哺乳類	イヌ	脛骨		右	1	19.1	GL:151.31, Bp:26.40, Bd:17.94 大型 シンパイスより2まわり程度大きい。長谷部分類で中大級
07WN-A2	カクラン2	031201	哺乳類	イヌ	上腕骨	近位～遠位部	左	1	7.8	シンパイス大
07WN-A2	カクラン2	031201	哺乳類	イヌ	上腕骨	骨幹部～遠位部	右	1	2.8	シンパイス大
07WN-A2	カクラン2	031201	哺乳類	イヌ	尺骨	近位～骨幹部	左	1	3	シンパイス大
07WN-A2	カクラン2	031201	哺乳類	イヌ	尺骨	近位～骨幹部	右	1	2.3	シンパイス大
07WN-A2	カクラン2	031201	哺乳類	イヌ	椎骨	胸椎		1	1.7	大型 シンパイスより2まわり程度大きい
07WN-A2	カクラン2	031201	哺乳類	イヌ	椎骨	腰椎		1	4.3	大型 シンパイスより2まわり程度大きい
07WN-A2	カクラン2	031201	哺乳類	イヌ	椎骨	腰椎		1	1.1	シンパイス大
07WN-A2	カクラン2	031201	哺乳類	イヌ	椎骨	椎弓部分		1	1.4	シンパイス大
07WN-A2	カクラン2	031201	哺乳類	イヌ	歯	犬歯	右	1	1.6	シンパイス大
07WN-A2	カクラン2	031201	哺乳類	イヌ	頭蓋骨	前頭骨	左	1	2.6	シンパイスより1まわり程度大きい
07WN-A2	カクラン2	031201	哺乳類	イヌ	肩甲骨	近位部～骨幹部	左	1	1.5	シンパイス大
07WN-A2	カクラン2	031201	哺乳類	不明	脛骨	近位～骨幹部	右	1	3	シンパイス大
07WN-A2	カクラン2	031201	哺乳類	不明	不明			1	0.4	
07WN-B		030605	哺乳類	ウシ	大腿骨	近位～遠位	右	1	52.6	近位骨端未癒合 幼獣
07WN-B		030605	哺乳類	ウシ	寛骨	坐骨	左	1	16.9	全骨端・縫合未癒合 幼獣

若栗中村遺跡の動物遺存体



1 イヌ肩甲骨（左）
— 1.0cm



3 イヌ上腕骨（左）
— 1.0cm



4 イヌ尺骨（右）
— 1.0cm



2 イヌ胸椎
— 1.0cm



5 イヌ下顎犬歯
— 1.0cm



6 イヌ脛骨（右）
— 1.0cm



7 ウシ寛骨（左）



8 ウシ大腿骨（右）
— 1.0cm

3 若栗中村遺跡，舌山遺跡における放射性炭素年代 (AMS測定)

(株) 加速器分析研究所

1 測定対象試料

若栗中村遺跡は，富山県黒部市若栗・中村(北緯 $36^{\circ} 52' 42''$ ，東経 $137^{\circ} 29' 25''$)に所在する。測定対象試料は，SK46から出土した木炭(1:IAAA-80567)である。

舌山遺跡は，富山県黒部市舌山(北緯 $36^{\circ} 52' 02''$ ，東経 $137^{\circ} 28' 47''$)に所在する。測定対象試料は，SI1炉内埋土から出土した木炭(2:IAAA-80568)，SI2埋土から出土した木炭(3:IAAA-80569)，SD232中央黒色粘土質シルトから出土した木炭(4:IAAA-80570)，SK236埋土から出土した木炭(5:IAAA-80571)である。

2 測定の意義

遺構の年代を決定するための参考とする。

3 化学処理工程

- (1)メス・ピンセットを使い，根・土等の表面的な不純物を取り除く。
- (2)酸処理，アルカリ処理，酸処理(AAA:Acid Alkali Acid)により内面的な不純物を取り除く。
最初の酸処理では1Nの塩酸(80℃)を用いて数時間処理する。その後，超純水で中性になるまで希釈する。アルカリ処理では1Nの水酸化ナトリウム水溶液(80℃)を用いて数時間処理する。
なお，AAA処理において，アルカリ濃度が1N未満の場合，表中にAaAと記載する。その後，超純水で中性になるまで希釈する。最後の酸処理では1Nの塩酸(80℃)を用いて数時間処理した後，超純水で中性になるまで希釈し，90℃で乾燥する。希釈の際には，遠心分離機を使用する。
- (3)試料を酸化銅と共に石英管に詰め，真空下で封じ切り，500℃で30分，850℃で2時間加熱する。
- (4)液体窒素とエタノール・ドライアイスの温度差を利用し，真空ラインで二酸化炭素(CO₂)を精製する。
- (5)精製した二酸化炭素から鉄を触媒として炭素のみを抽出(水素で還元)し，グラファイトを作製する。
- (6)グラファイトを内径1mmのカソードに詰め，それをホイールにはめ込み，加速器に装着する。

4 測定方法

測定機器は，3MVタンデム加速器をベースとした¹⁴C-AMS専用装置(NEC Pelletron 9SDH-2)を使用する。測定では，米国国立標準局(NIST)から提供されたシュウ酸(HO_xII)を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5 算出方法

- (1)年代値の算出には，Libbyの半減期(5568年)を使用する(Stuiver and Polash 1977)。
- (2)¹⁴C年代(Libby Age:yrBP)は，過去の大気中¹⁴C濃度が一定であったと仮定して測定され，1950年を基準年(0yrBP)として遡る年代である。この値は， $\delta^{13}\text{C}$ によって補正された値である。¹⁴C年代と誤差は，1桁目を四捨五入して10年単位で表示される。また，¹⁴C年代の誤差($\pm 1\sigma$)は，試料の¹⁴C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。

- (3) $\delta^{13}\text{C}$ は, 試料炭素の ^{13}C 濃度 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)を測定し, 基準試料からのずれを示した値である。同位体比は, いずれも基準値からのずれを千分偏差 (‰) で表される。測定には質量分析計あるいは加速器を用いる。加速器により $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ を測定した場合には表中に (AMS) と注記する。
- (4) pMC (percent Modern Carbon)は, 標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。
- (5) 暦年較正年代とは, 年代が既知の試料の ^{14}C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ, 過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し, 実年代に近づけた値である。暦年較正年代は, ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり, 1標準偏差 ($1\sigma = 68.2\%$)あるいは2標準偏差 ($2\sigma = 95.4\%$)で表示される。暦年較正プログラムに入力される値は, 下一桁を四捨五入しない ^{14}C 年代値である。なお, 較正曲線および較正プログラムは, データの蓄積によって更新される。また, プログラムの種類によっても結果が異なるため, 年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは, 暦年較正年代の計算に, IntCal04データベース (Reimer et al 2004)を用い, OxCalv4.0較正プログラム (Bronk Ransey 1995 Bronk Ransey 2001 Bronk Ramsey, van der Plicht and Weninger 2001)を使用した。

6 測定結果

若栗中村遺跡では, SK46から出土した木炭の ^{14}C 年代は, $180 \pm 30\text{yrBP}$ (IAAA-80567)である。暦年較正年代 (1σ)は, 1665~1952ADに含まれる。ほぼ江戸時代から明治時代にかけての年代である。試料の炭素含有率は約70%であり, 十分な値であった。

舌山遺跡の ^{14}C 年代は, SI1出土の木炭が $4140 \pm 30\text{yrBP}$, SI2出土の木炭が $4040 \pm 40\text{yrBP}$, SD232中央黒色粘土質シルト出土の木炭が $4010 \pm 40\text{yrBP}$, SK236出土の木炭が $4050 \pm 40\text{yrBP}$ である。縄文時代中期後葉に相当し, 出土遺物から推定される年代に整合的である。試料の炭素含有率は, すべて60%以上であり, 十分な値であった。両遺跡とも化学処理および測定内容にも問題は無く, 妥当な年代と考えられる。

測定番号	試料名	採取場所	試料 形態	処理 方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-80567	1	若栗中村遺跡 SK46	木炭	AAA	-24.92 ± 0.89	180 ± 30	97.73 ± 0.41
IAAA-80568	2	舌山遺跡 SI1 炉内埋土	木炭	AAA	-21.71 ± 0.62	4,140 ± 30	59.76 ± 0.24
IAAA-80569	3	舌山遺跡 SI2	木炭	AAA	-26.19 ± 0.85	4,040 ± 40	60.48 ± 0.28
IAAA-80570	4	舌山遺跡 SD232	木炭	AAA	-20.29 ± 0.62	4,010 ± 40	60.69 ± 0.27
IAAA-80571	5	舌山遺跡 SK236	木炭	AAA	-25.52 ± 0.79	4,050 ± 40	60.43 ± 0.27

[# 2307-2308]

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1√ 暦年代範囲	2√ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-80567	180 ± 30	97.75 ± 0.37	184 ± 33	1665AD-1683AD (12.7%) 1735AD-1785AD (34.3%) 1793AD-1805AD (7.5%) 1932AD-1952AD (13.8%)	1649AD-1697AD (20.5%) 1725AD-1815AD (50.9%) 1835AD-1878AD (5.1%) 1917AD-1955AD (18.9%)

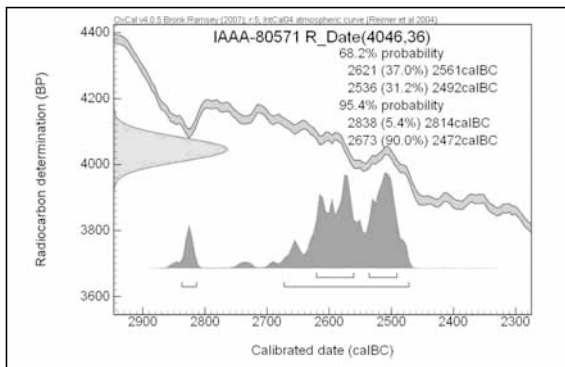
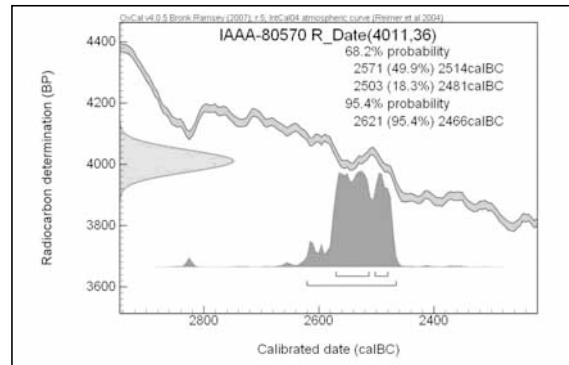
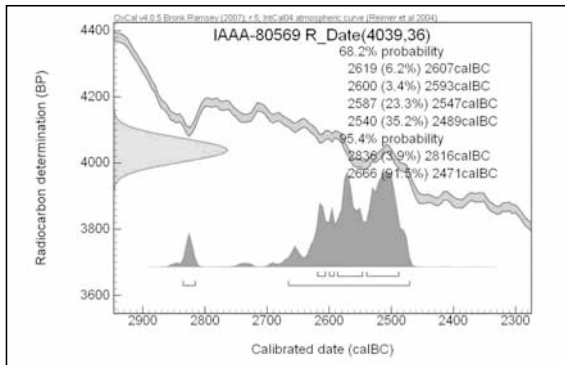
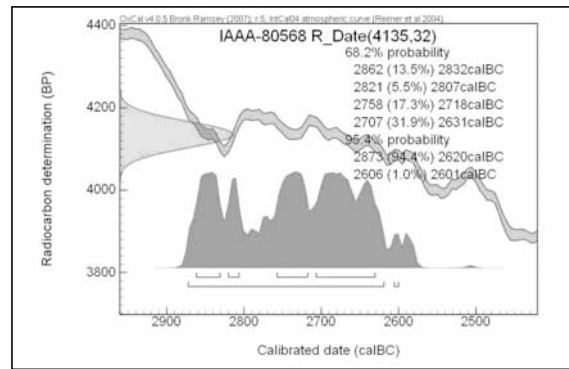
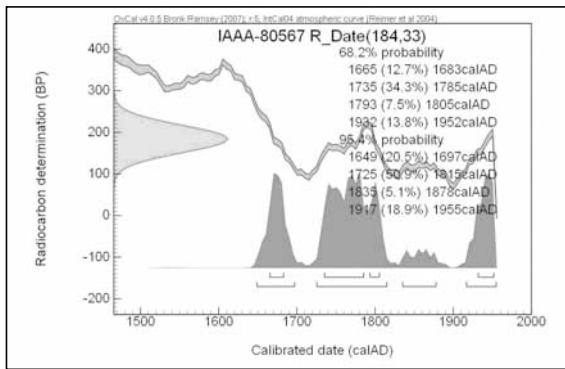
IAAA-80568	4,080 ± 30	60.16 ± 0.23	4,135 ± 32	2862BC-2832BC (13.5%) 2821BC-2807BC (5.5%) 2758BC-2718BC (17.3%) 2707BC-2631BC (31.9%)	2873BC-2620BC (94.4%) 2606BC-2601BC (1.0%)
IAAA-80569	4,060 ± 30	60.33 ± 0.25	4,039 ± 36	2619BC 2607BC (6.2%) 2600BC 2593BC (3.4%) 2587BC 2547BC (23.3%) 2540BC 2489BC (35.2%)	2836BC-2816BC (3.9%) 2666BC-2471BC (91.5%)
IAAA-80570	3,930 ± 40	61.28 ± 0.27	4,011 ± 36	2571BC 2514BC (49.9%) 2503BC 2481BC (18.3%)	2621BC-2466BC (95.4%)
IAAA-80571	4,050 ± 30	60.37 ± 0.26	4,046 ± 36	2621BC 2561BC (37.0%) 2536BC 2492BC (31.2%)	2838BC-2814BC (5.4%) 2673BC-2472BC (90.0%)

[参考值]

参考文献

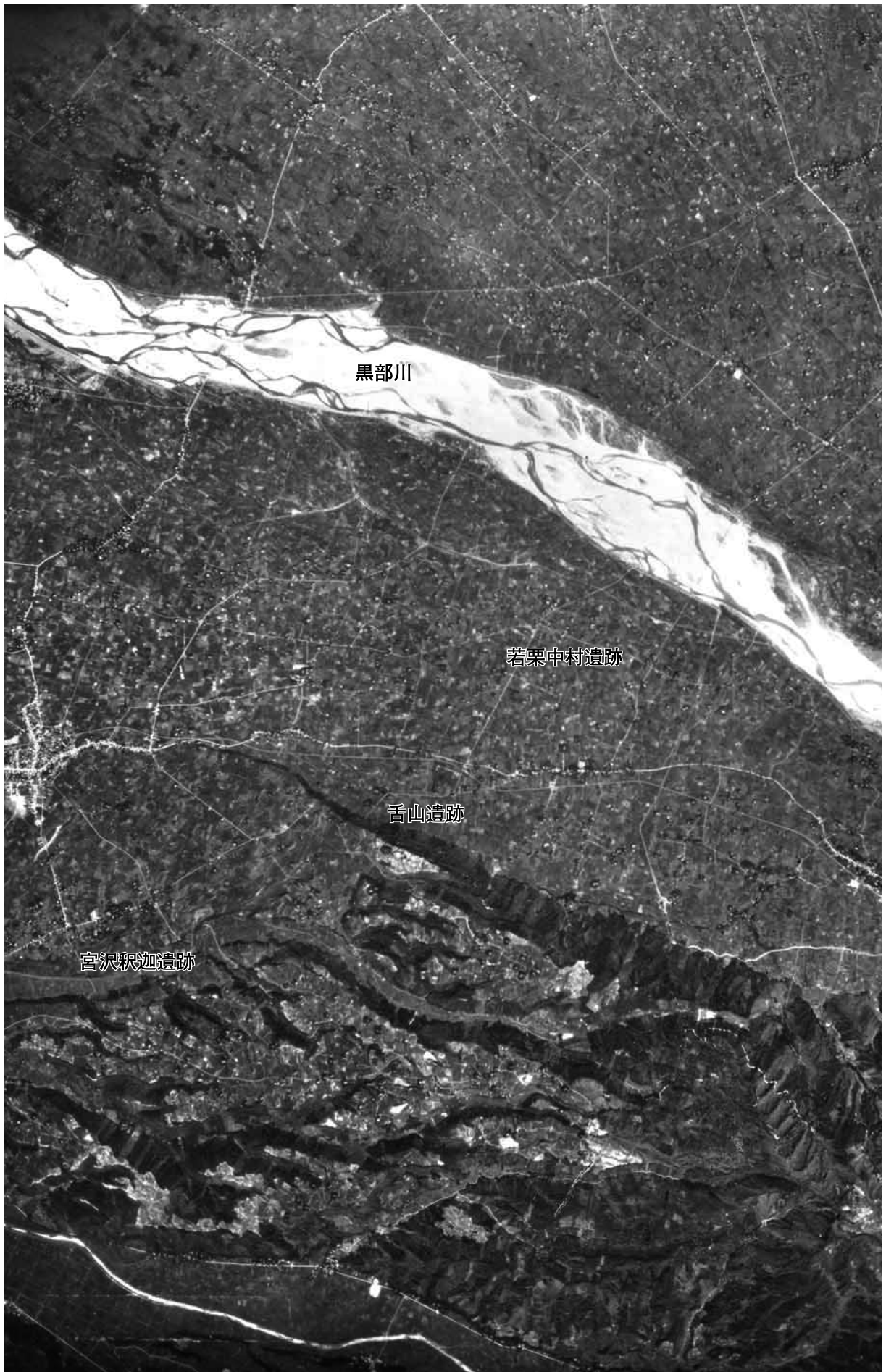
- Stuiver M. and Polash H.A. 1977 Discussion: Reporting of ¹⁴C data, *Radiocarbon* 19, 355–363
- Bronk Ramsey C. 1995 Radiocarbon calibration and analysis of stratigraphy: the OxCal Program, *Radiocarbon* 37(2), 425–430
- Bronk Ramsey C. 2001 Development of the Radiocarbon Program OxCal, *Radiocarbon* 43(2A), 355–363
- Bronk Ramsey C., van der Plicht J. and Weninger B. 2001 'Wiggle Matching' radiocarbon dates, *Radiocarbon* 43(2A), 381–389
- Reimer, P.J. et al. 2004 IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0–26cal kyr BP, *Radiocarbon* 46, 1029–1058

3 若栗中村遺跡, 舌山遺跡における放射性炭素年代 (AMS測定)



[参考] 暦年較正年代グラフ

写 真 图 版



航空写真 (1947年 米軍撮影)

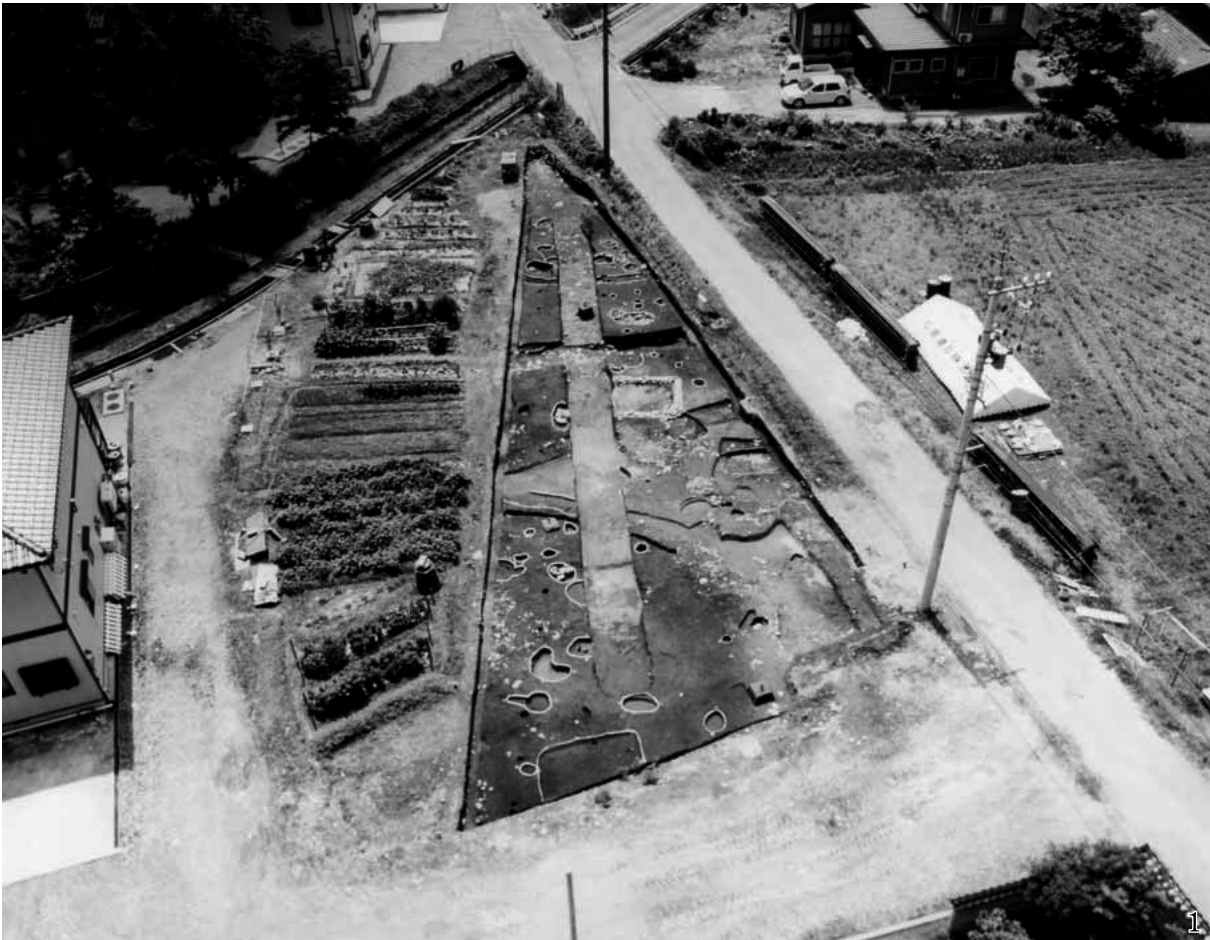


航空写真（2003年 国土地理院撮影）



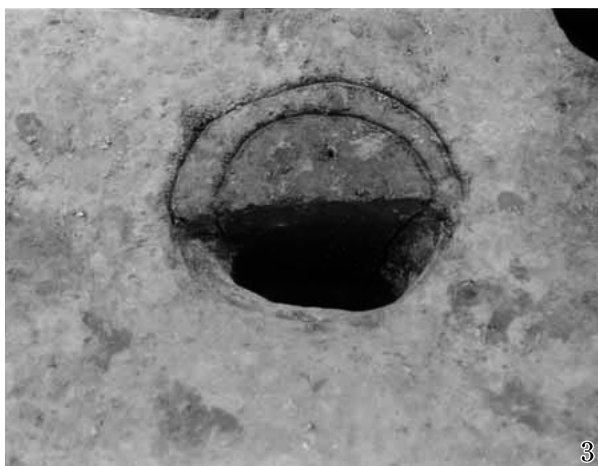
若栗中村遺跡

1・2. 遺跡遠景(西南から)



若栗中村遺跡

1. A1地区上層遺構面(北東から) 2. A1地区下層遺構面(北東から)



若栗中村遺跡（中世～近世）土坑

1. SK38(西から) 2. SK18(西から) 3. SK52(南西から) 4. SK10(南から) 5. SK10(南東から)



若栗中村遺跡（中世～近世）掘立柱建物

1. A2地区全景(西から) 2. SB1・SB2(東から)



若栗中村遺跡（中世～近世）掘立柱建物・柱穴・溝・土坑

1. SB1・SB2(南から) 2. SP209(南から) 3. SD212(東から) 4・5. SK222骨出土状況(南から)



若栗中村遺跡

1. A3地区上層遺構面(東から) 2. A3地区下層遺構面(東から)



若栗中村遺跡（中世～近世）溝・土坑

1. A3地区上層遺構面(南西から) 2. SD301(南から) 3. SK302(南から) 4. SD456(西から) 5. SK522(南から)



若栗中村遺跡（中世～近世）溝・土坑

1. B地区全景(西から) 2. SD709(北から) 3. SD716(東から) 4. SK665(南から) 5. SK665(北から)



若栗中村遺跡

1. C1地区上層遺構面(東から) 2. C1地区下層遺構面(南東から)



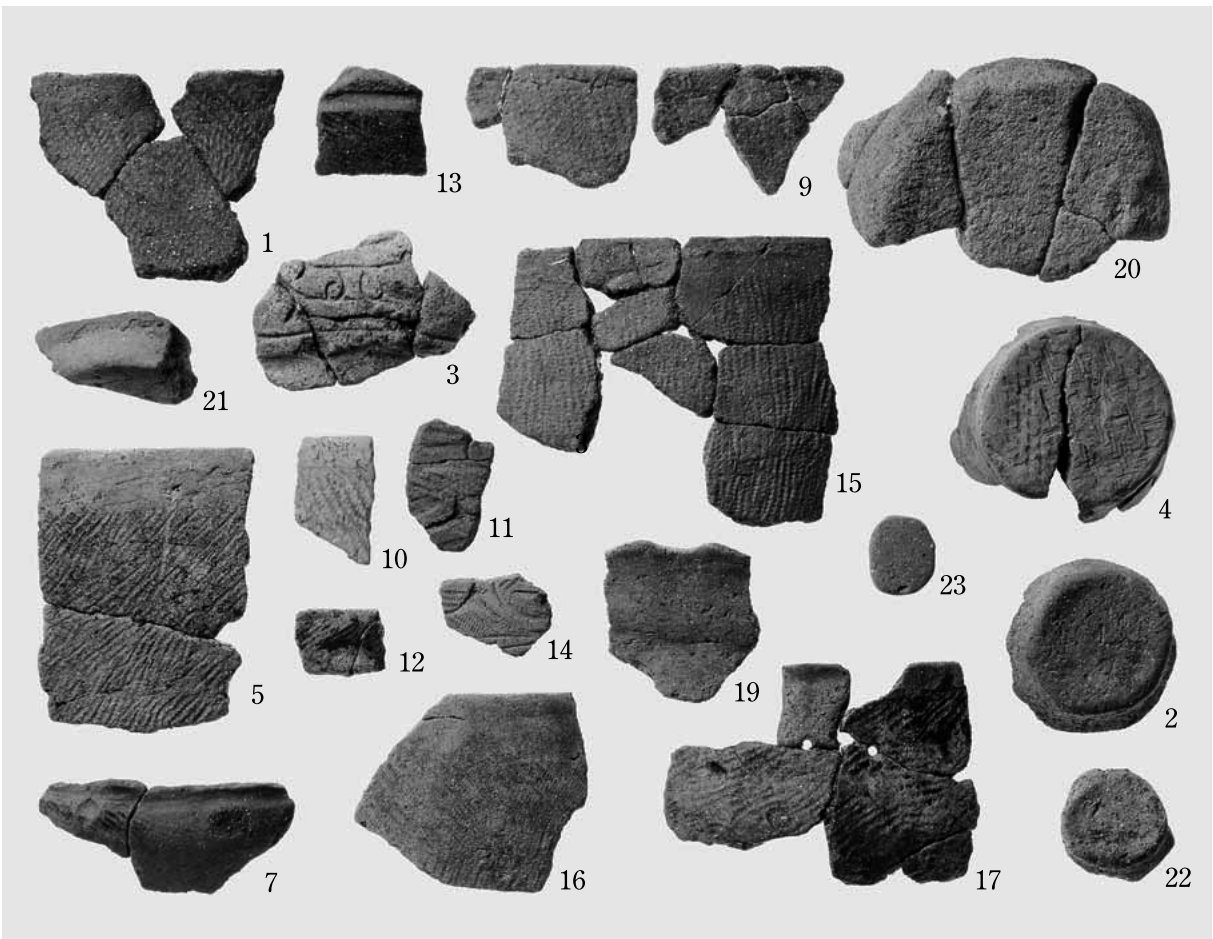
若栗中村遺跡（縄文時代・中世～近世）溝・土坑

1. SD1089(西から) 2. SK972(西から) 3. SK1121(西から) 4. SD1369(西から)
5. SD1299(西から) 6・7. SD1299遺物出土状況(西から) 8. SD1398(西から)



若栗中村遺跡（縄文時代・中世～近世）溝

1. C2地区全景(西から) 2. SD1421(東から)



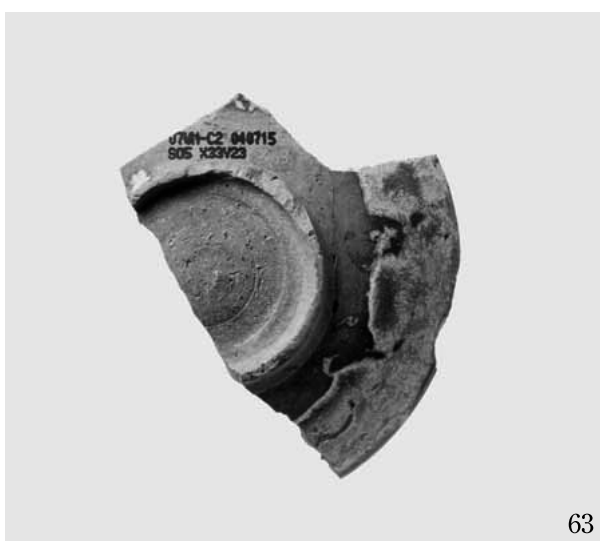
若栗中村遺跡（縄文時代）土器・土製品
SD1089 SD1398 包含層



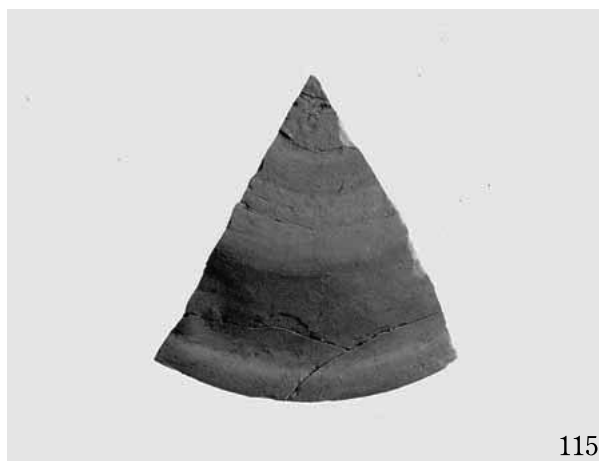
27



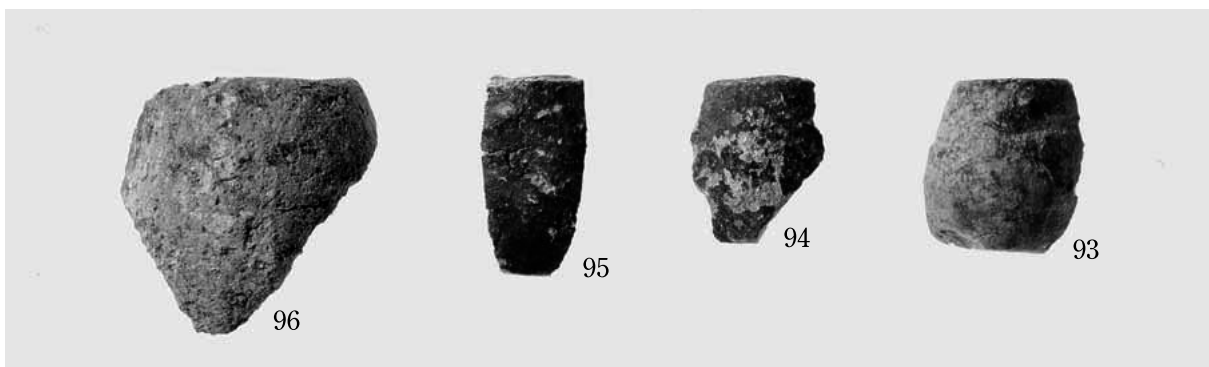
46



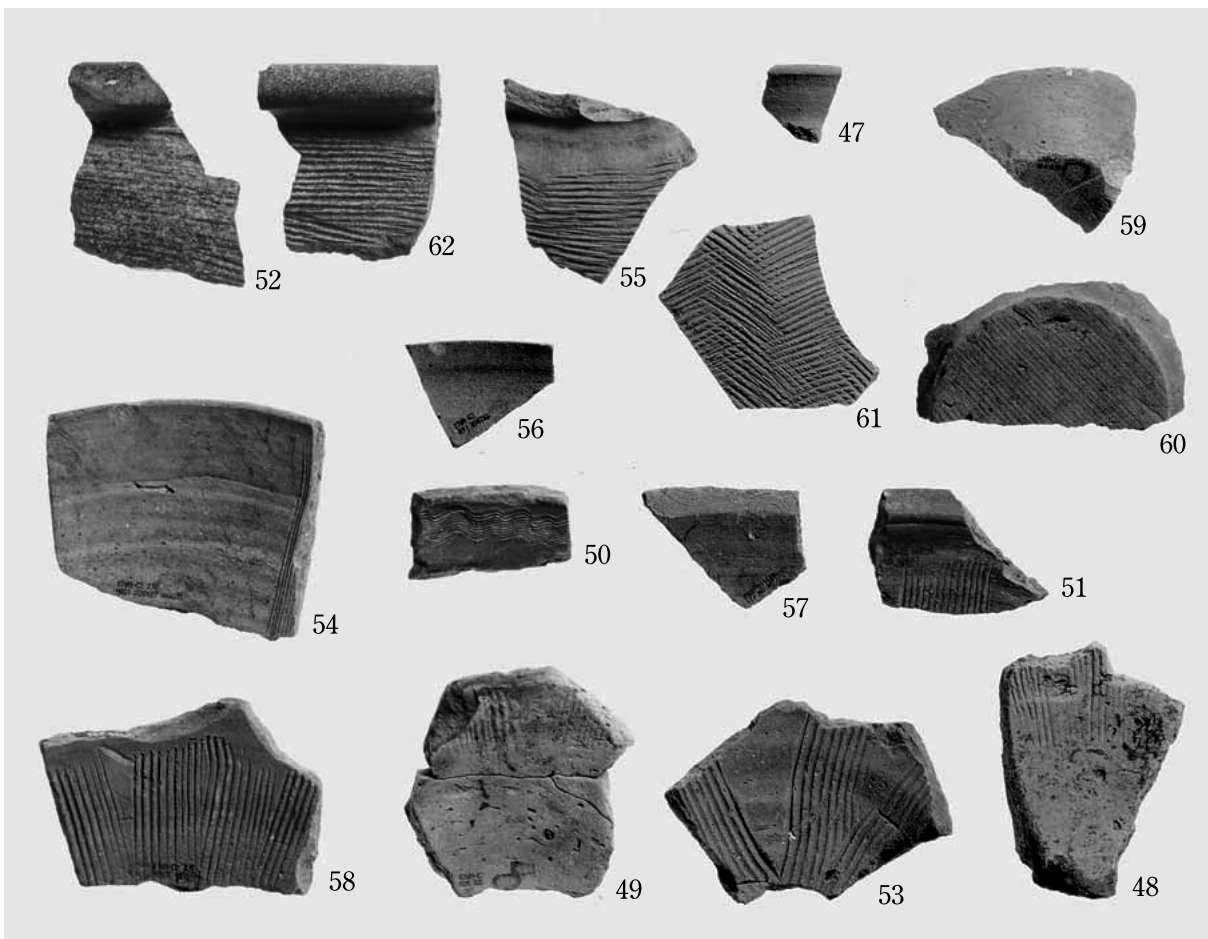
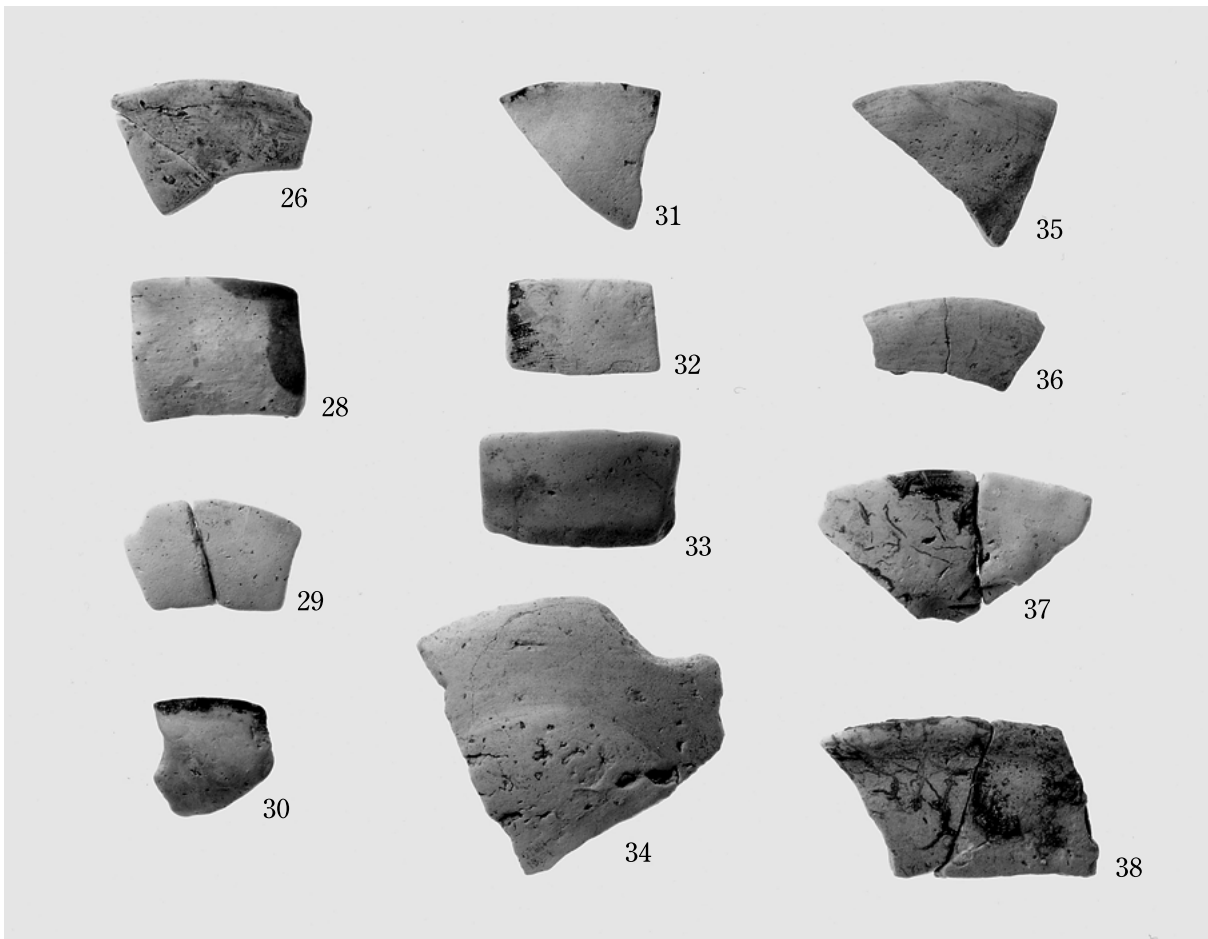
63



115

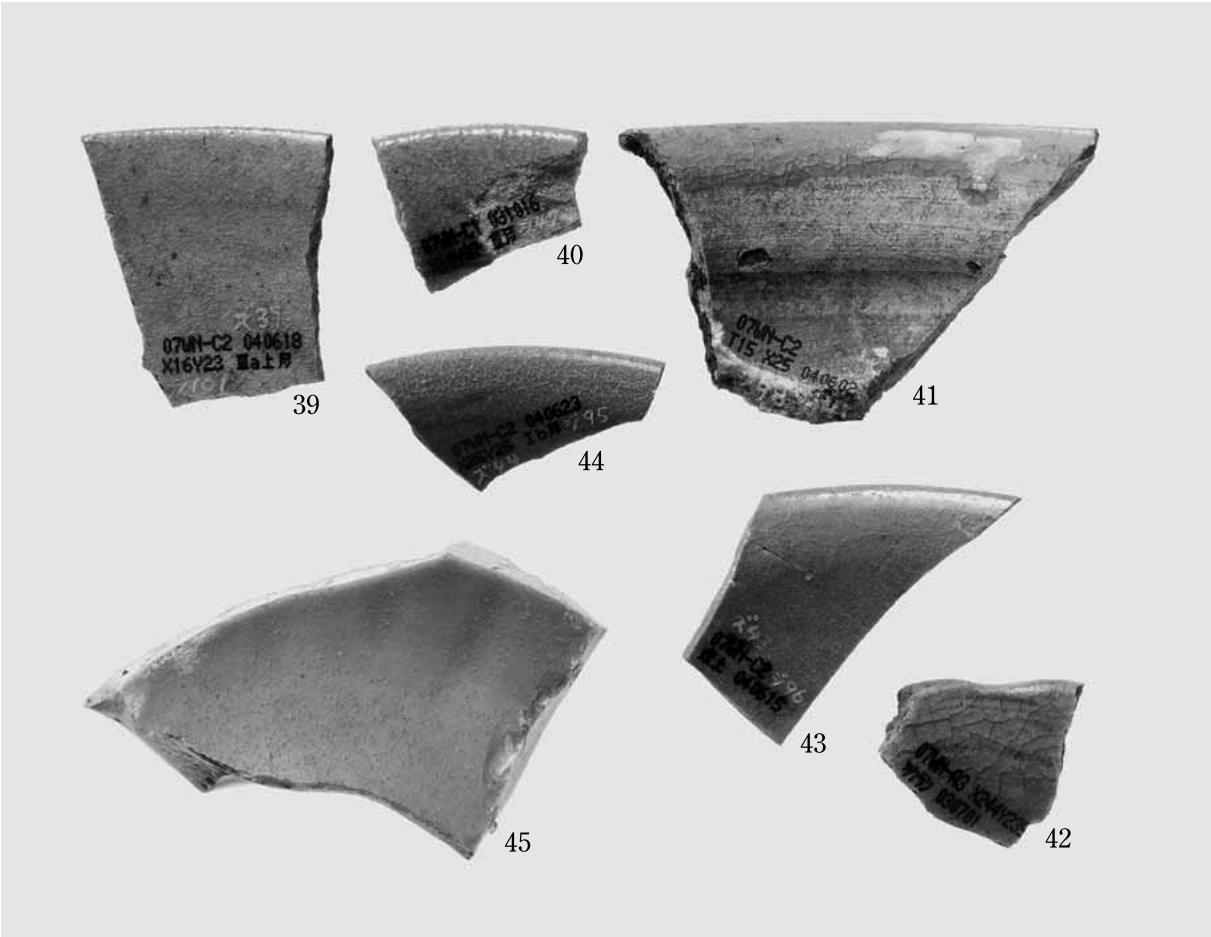
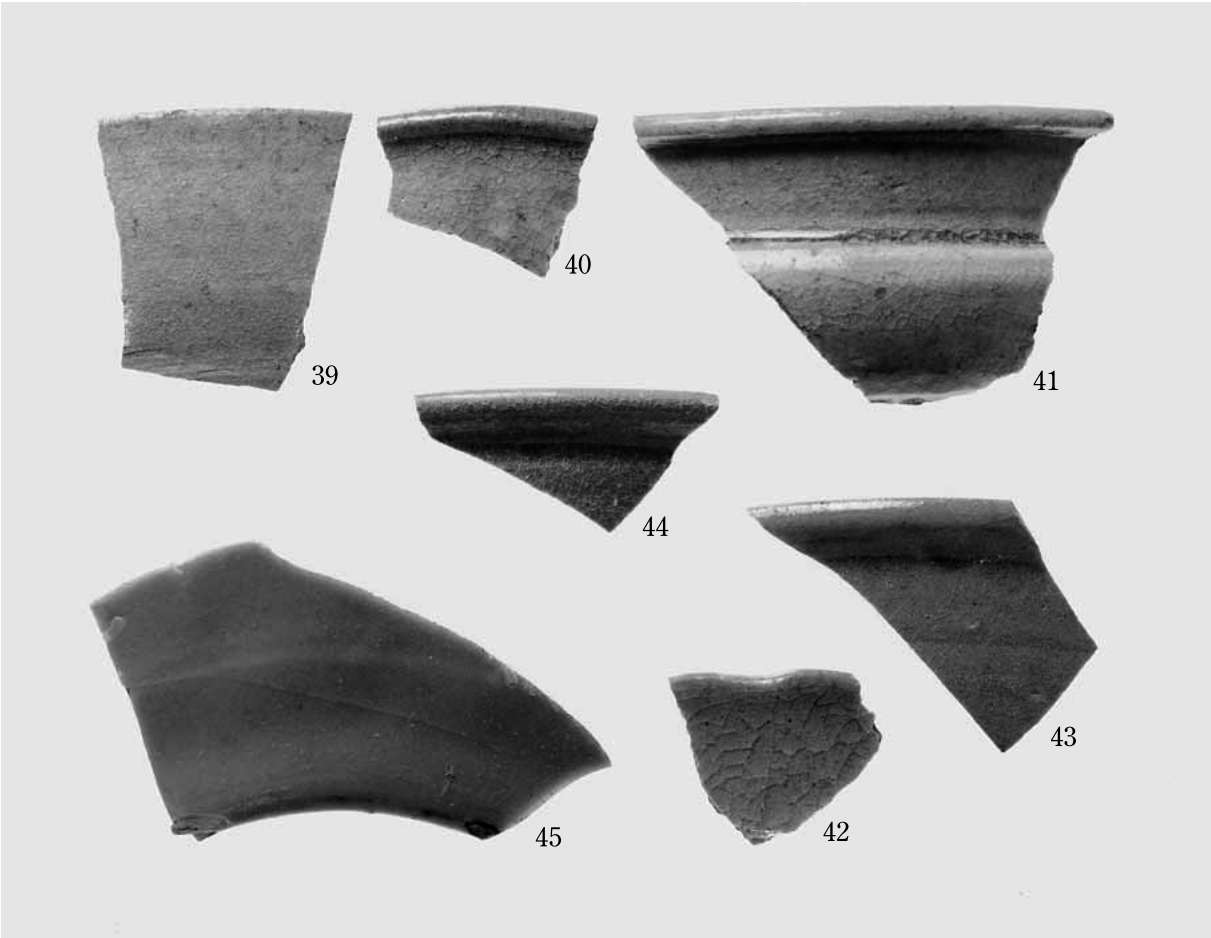


若栗中村遺跡（中世～近世）土器・陶磁器・土製品
SK522 SX1405 包含層

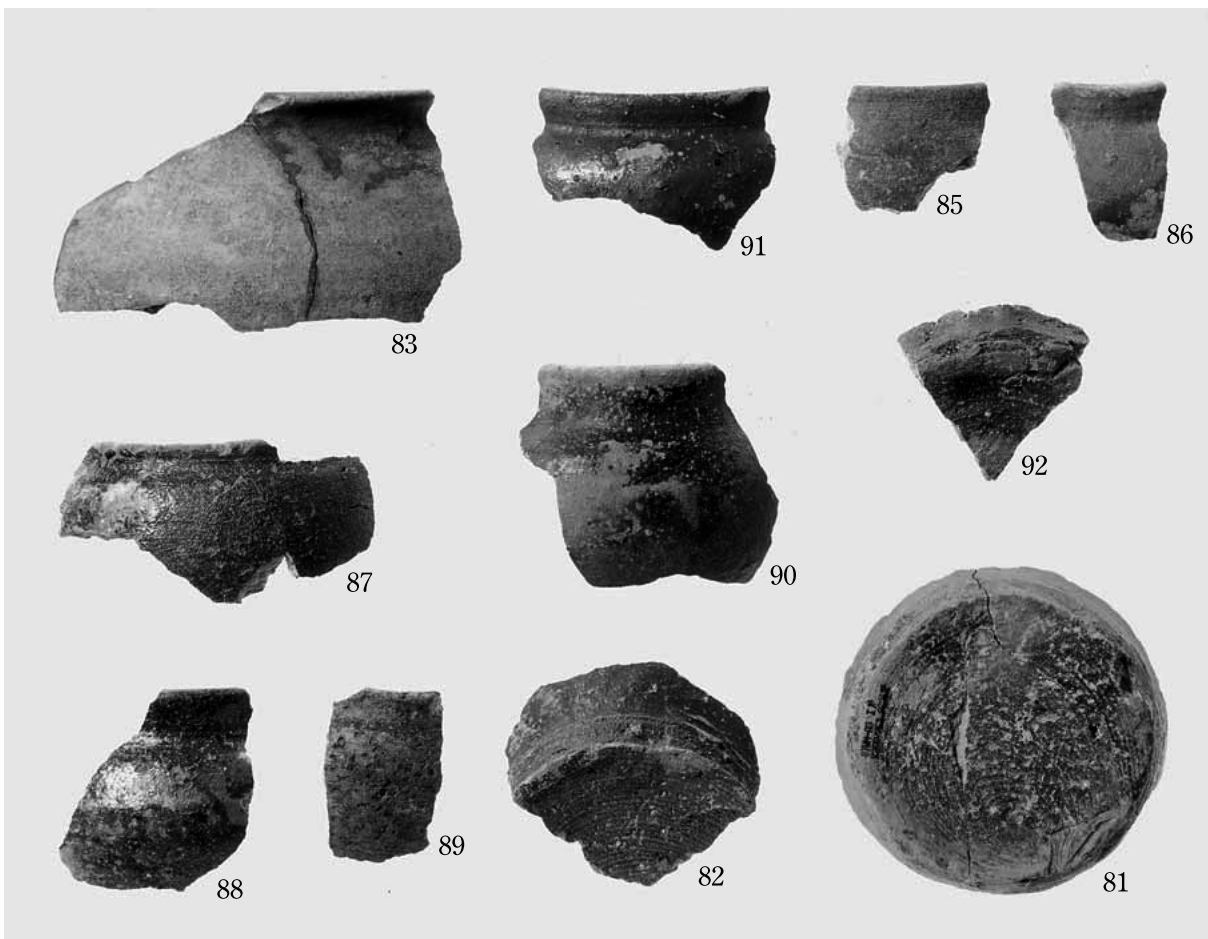
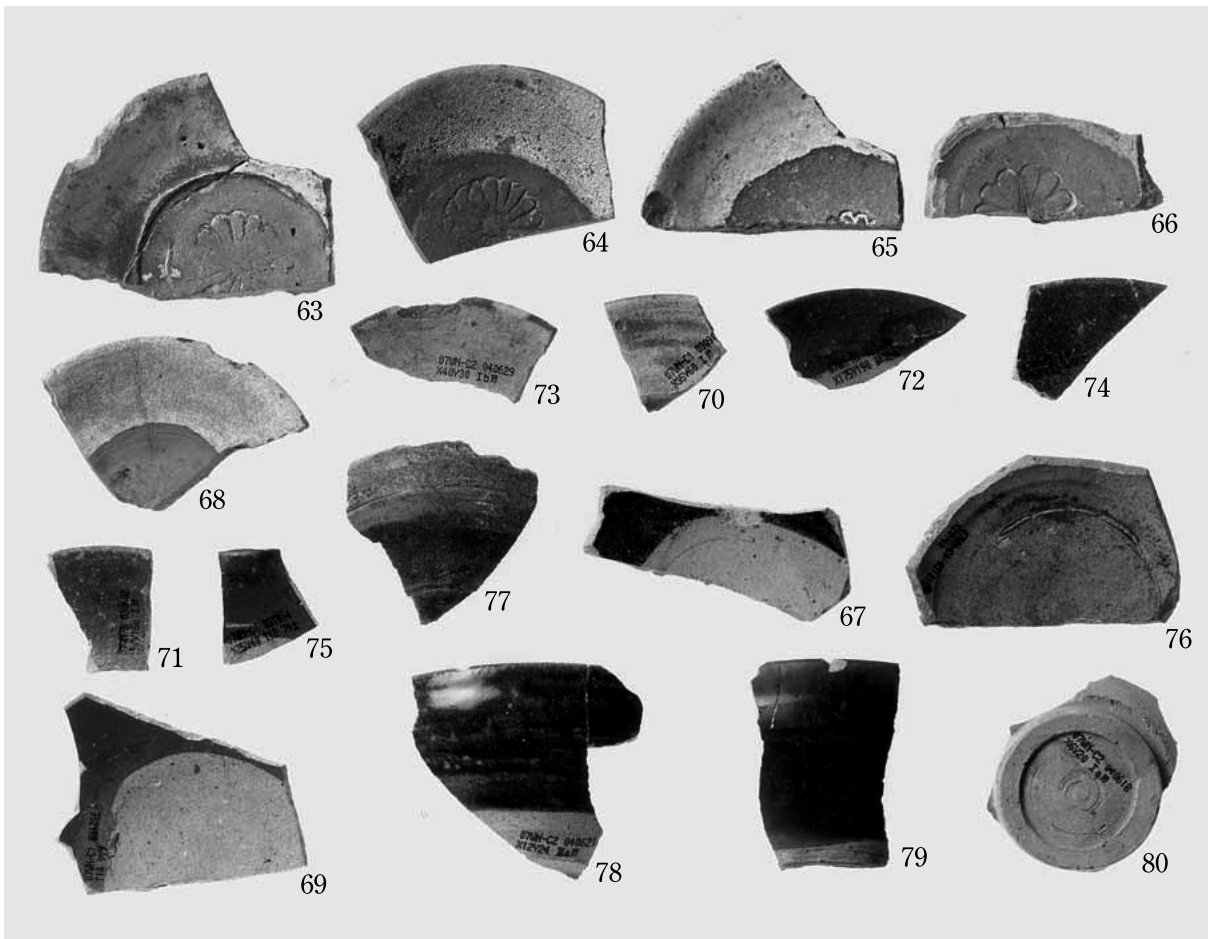


若栗中村遺跡（中世～近世）土器・陶磁器

SD1421 SK306 SX1405 包含層

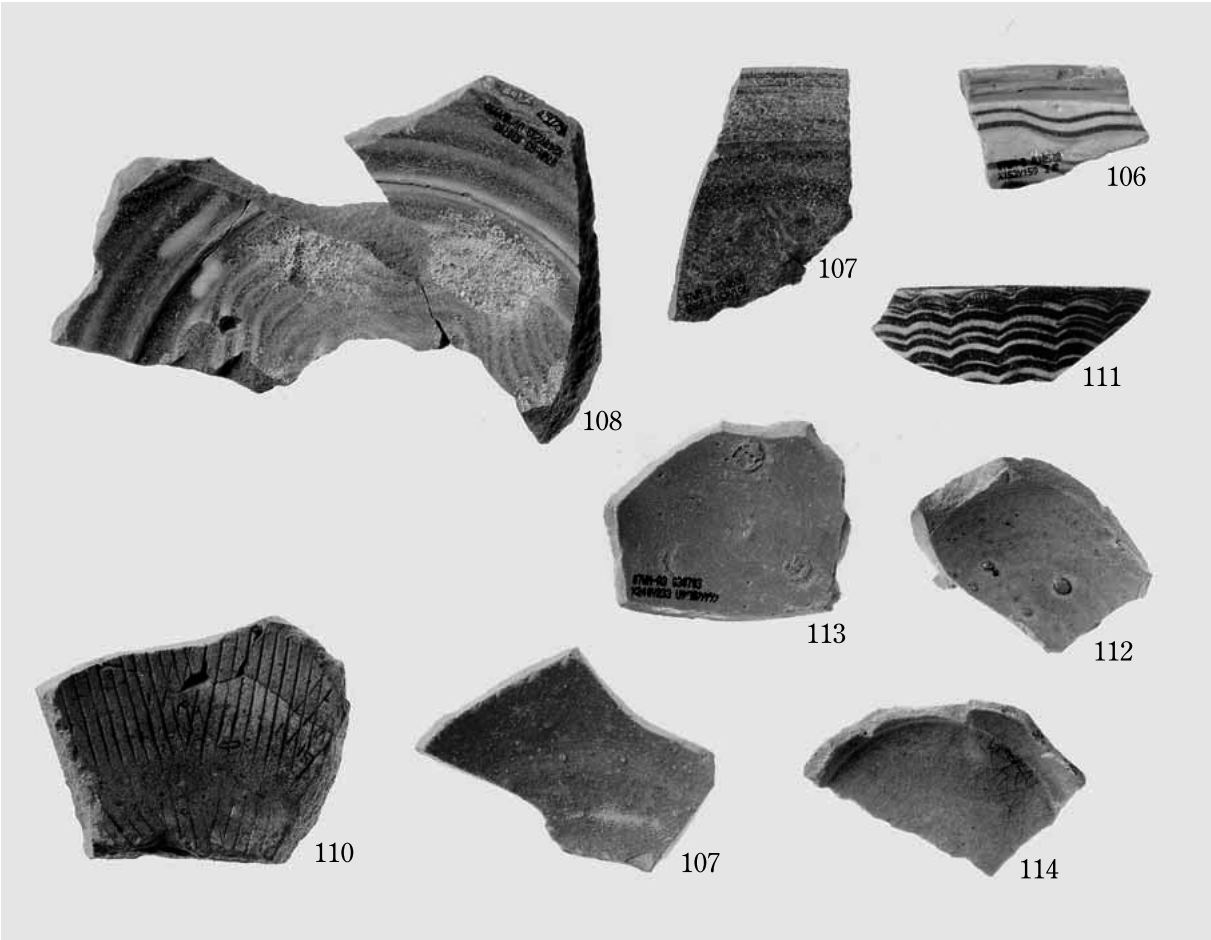
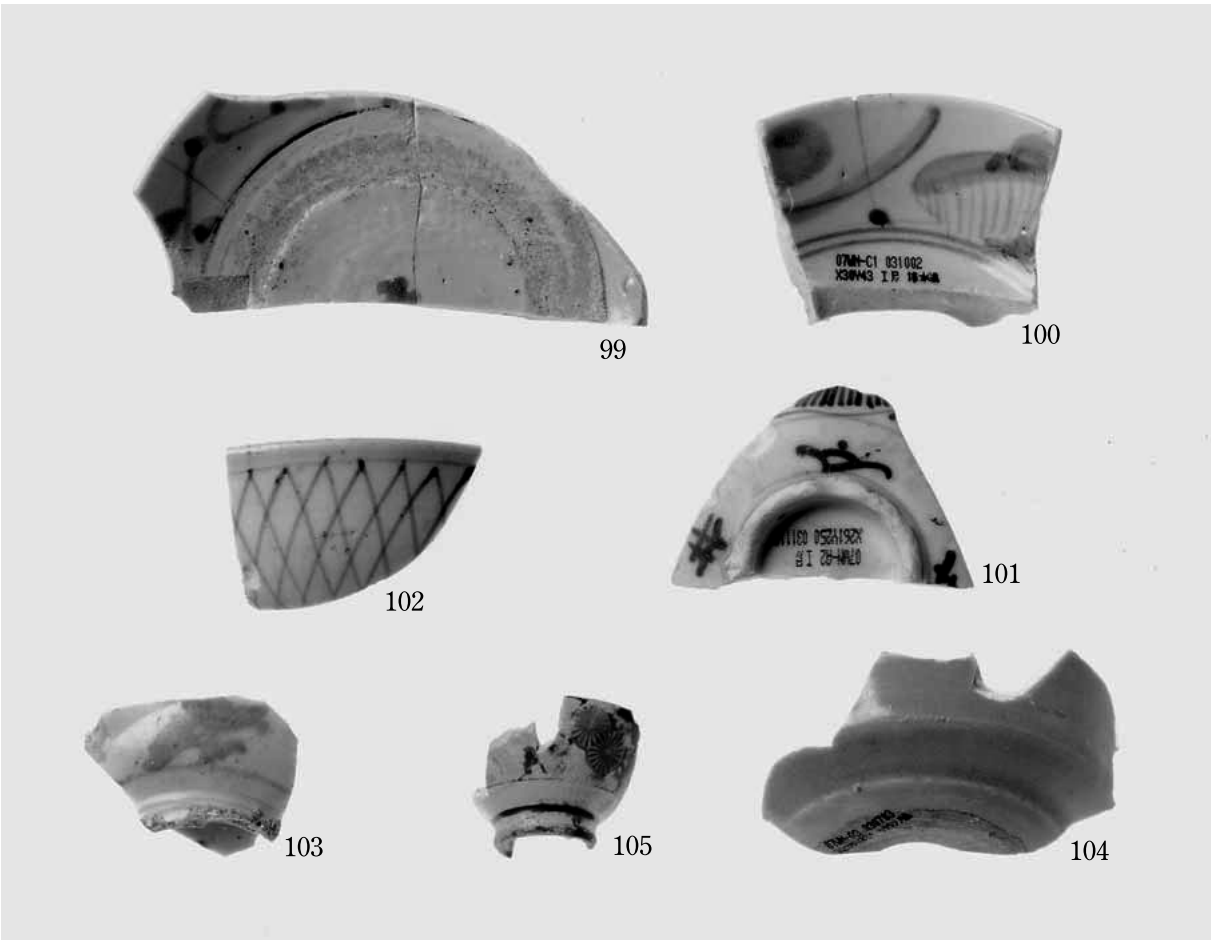


若栗中村遺跡（中世～近世）陶磁器
包含層

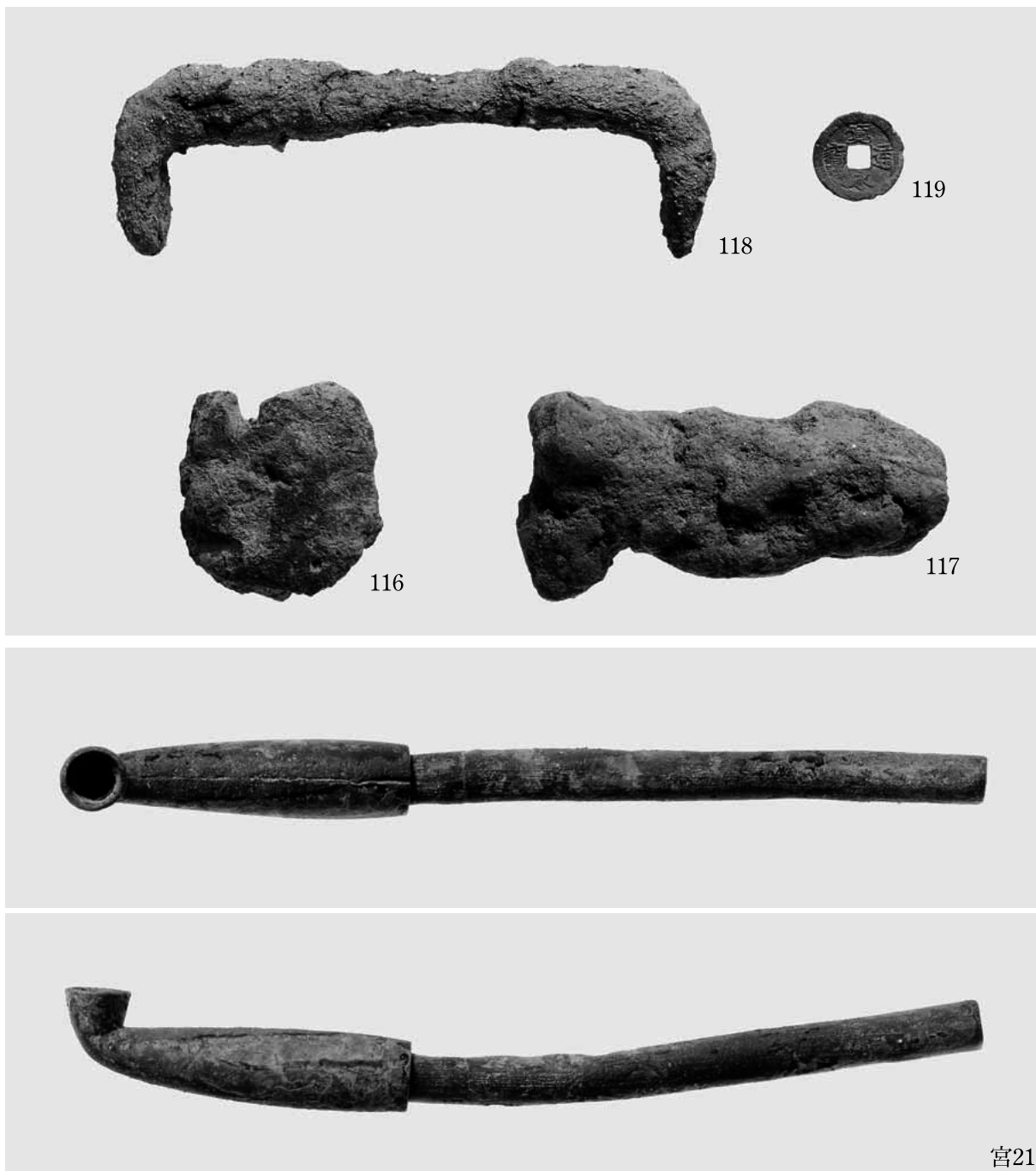


若栗中村遺跡（中世～近世）陶磁器

SX1405 包含層



若栗中村遺跡（中世～近世）陶磁器
包含層



宮21